

●萬國阿片條約ニ基ク輸移出賣藥取締方ノ件

【通】(大正九年十二月六日內務次官ヨリ各地方長官ヘ)

萬國阿片條約ノ結果左記ニ該當スルモノハ其ノ製造及授受ニ關シ取締ヲ要スルコト、ナリ之ニ必要ナル取締規定ハ省令ヲ以テ本日發布相成候處賣藥ニ關シテハ内地ニ於テ使用セラル、モノニアリテハ賣藥法ニ依リ大體支障無ト被認候處輸出又ハ移出スル賣藥ニアリテハ大正三年勅令第二〇〇號ノ運用ニ依リ本條約ノ趣旨ヲ徹底セシムル爲メ大正十年一月一日以後之ニ該當スル賣藥ヲ輸出又ハ移出セントスルモノハ省令第二條ノ規定ニ依ル許可申請書ニ記載スヘキ事項ト同一ノ事項ヲ具シ且ツ荷受人力輸入又ハ移入ニ付輸入地又ハ移入地當該官憲ノ許可ヲ受ケタルモノナルコトノ證明ヲ添ヘ豫メ届出テシムルコト、シ之ニ違反スルモノニ對シテハ前記勅令第三條ノ規定ニ依リ當該物品輸移出ヲ禁止スル外情狀ニ依リ必要ナル處置ヲ探ラルヘク而シテ右届出カ支障ナシト認メラル、場合ハ其旨當該輸出港又ハ移出港ノ稅關ニ通知スルコトニシ條約上ノ義務履行ニ關シ遺憾ナキ様御取扱相成度依命此段及通牒候也

記

- 一、モルヒネ及其鹽類
- 一、コカイン及其鹽類
- 一、「ヂアセチールモルヒネ」「エチールモルヒネ」「コカイン」「コデイン」及其鹽類
- 一、千分中二分以上ノ「モルヒネ」又ハ「エチールモルヒネ」千分中一分以上ノ「ヂアセチールモルヒネ」若クハ「コカイン」又ハ千分中六分以上ノ「コデイン」ヲ檢出スルモノ其他內務大臣ニ於テ前各號ニ掲クルモノト同効力ヲ有スト認ムルモノ

●賣藥ノ効能ニ關スル件

(大正十四年三月三十一日衛醫第一六二二號衛生局長通牒)

【照】(大正十三年十二月八日衛醫第二二四號警視總監ヨリ衛生局長ヘ)

賣藥効能ニ賣藥法第九條ニ於ケル墮胎暗示ト認ムヘキ文字(月經閉止、月經不通等)ヲ記載シ通經藥トスル賣藥免許申請ニ對シテハ當廳ハ從來免許セサルモ他府縣ニ於テ免許サレタルモノ多ク墮胎暗示ヲ輸入申請ノ場合ニ當リ從來免許セサル賣藥ヲ認ムルカ如キ不合理ナル結果ヲ生シ處理上支障尠ナカラス候モ右ノ如キ文字記載ノ賣藥効能ニ對シ免許可然哉尙他府縣ニ於テ免許サレタル此種賣藥ニシテ輸入申請ノ場合ハ如何ニ處理スヘキヤ一應貴局ノ意見承知致度此段及照會候也

【答】(大正十四年三月衛醫第一六二二號衛生局長ヨリ)

標記ノ件ニ關シ客年十二月八日付衛醫第二二四號ヲ以テ御照會ノ趣了承効能中墮胎暗示ト認ムヘキ文字ヲ記載シ通經藥トスル賣藥ノ免許申請ニ對シテ免許スヘカラサルハ當然ノ事ニシテ要ハ効能中ニ記載セル字句ノ解釋ニ在ルヘキモ單ニ「月經閉止」「月經不通」ナル字句ヲ用フルハ必スシモ墮胎暗示ナリトハ認メ難クト存候也

●賣藥ノ容器若クハ被包又ハ賣藥ニ添附スル文書ニ關スル件

(大正十四年一月二十七日衛生局長通牒)

【照】(大正十四年一月十七日甲號衛發第一八號岐阜縣知事ヨリ衛生局長へ)
賣藥ノ容器若クハ被包又ハ賣藥ニ添付スル文書ニ左記文章ヲ記載發賣スルハ賣藥法第九條第一項第二號
(所謂避妊又ハ墮胎ヲ暗示セル記示)ニ牴觸スルモノト認メラレ候モ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致
度此段及照會候也

左記

賣藥順經丸ト稱スル通經藥ニ妊娠ノ婦人又ハ小兒ハ服用スヘカラス

【答】(大正十四年一月二十七日衛生局長ヨリ)
標記ノ件ニ關シ衛發第一八號ヲ以テ御照會ノ趣了承右記載事項ハ御意見通り賣藥法第九條ニ牴觸スルモ
ノト存候條此段及回答候也

● 枇杷葉湯、三味湯ニ關スル件

【通】(明治二十一年十月衛發四三六九號內務省衛生局長ヨリ大阪府知事へ)
枇杷葉湯、三味湯ハ適宜ノ服用量ニ包裝シ合劑ノ儘販賣スル者ハ賣藥トシ單ニ暑氣拂トシ其煎汁ノミヲ
販賣スルモノハ賣藥外トシテ取扱候事ニ省議決定相成候間此段及通牒候也

● 家畜賣藥ニ配伍スル劇藥分量ノ件

(明治二十二年七月內務省指令)

【照】(明治二十二年六月兵庫縣同)

家畜牛羊兔等ノ治病ヲ目的トシテ製造販賣ニ係ル賣藥ニ劇藥吐根及沃度加留謨等ヲ配伍シテ検査願出候
者有之候處其劇藥分量ノ如キハ明治十九年三月十九日御省訓ノ第三二號賣藥検査心得ニ依リ處分難致モ
ノ有之候ニ付右等ノ者ハ病獸治療上限定ノ用量ニ據リ許可可然哉

【答】
家畜賣藥ニ配伍セル劇藥分量ノ件ハ病獸治療上通常用量一回ノ中等量ヲ以テ一日ノ極量ト爲シ許可スル
ハ不苦儀ト心得ヘシ

● 人畜兼用賣藥許否ノ件

【照】(明治二十八年二月五日兵庫縣知事ヨリ衛生局長へ)

人畜兼用ニ服用スル賣藥中主治効能ノ末文へ家畜牛馬ノ疾病ヲ治スル病名ヲ記載シ検査出願シ來リタルモ
ノ有之右一方劑ニシテ人畜兼用ノ賣藥ヲ許可スルモ差支之有間敷哉果シテ然ラハ之ニ下附スル鑑札ハ青
輪廓ノモノヲ下付シ可然哉人體ニ用フル藥品分量ニ比セハ牛馬ニ投スルモノ多量ナルカ故ニ劇藥又ハ有
力藥等配伍ノ賣藥ニ在リテ若シ誤用スルトキハ危險ノ虞有之義ト被存候ニ付從來ヨリ可成各別ニ出願爲
致來リ候得共兼用禁止ニ付テハ何等明文モ無之哉ニ被存候處目下取扱上差掛リタル義有之聊疑義ヲ生シ
候ニ付至急何分ノ御回報相成度此段及問合候也

【答】(明治二十八年二月七日衛生局長ヨリ)
人畜兼用ノ賣藥許否ノ義ニ付御問合之趣了承右ハ御申越通實際危險ノ虞有之候ノミナラス十一年十一月

内務省乙第七十號達賣藥取扱手續第四項ニ就テ家畜牛馬等ニ用フル鑑札ヲ赤輪ノ分ニ限ラレタル以上ハ格別ニ出願爲致候方宜敷ト被存候間此段及御回答候也

●牛馬用賣藥ニ「アニリド」配伍許否ノ件

【照】(大正八年六月二十五日愛媛縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

牛馬用賣藥ニ「アセトアニリド」ヲ内用劑トシテ出願シタルモノ有之候處右ハ差支無之候哉差支無之候ハ、其分量併セテ承知爲致度此段相伺候也

【答】(大正八年七月十九日衛生局長ヨリ)

客月二十五日附衛第一八二六號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ趣了承右ハ許可相成可然ト被存候尙其分量ニ就テハ別紙ノ通りニ有之候條御了知相成度候

(別紙)

「アセトアニリド」ハ新藥中獸醫術ニハ汎ク應用セララルル解熱劑ノ一ニシテ「アンチピリン」ニ比シ四倍大ノ強力ナルト市價ノ之ニ比シ低廉ナルト家畜ニ未タ曾テ藥用トシテ中毒症候ノ發シタルコトナキトニヨリ鎮靜、鎮痛作用ニ基キ諸神經病ニ痙攣性諸症ニ應用セララル、馬ニハ殊ニ蹄葉尖ニ用ヒテ往々良効ヲ奏ス此場合毎六時ニ一回ツ、一日四回毎回一五、〇ヲ内服セシム

其分量ハ一日

- 大動物(牛馬) 二五—四〇瓦
- 羊、山羊 二—五瓦
- 豚 二—三瓦

犬 〇、二五—一瓦

Fröhner氏ノ說ニ馬、牛、羊、犬ニ大量ヲ與ヘタル場合(例ハ體量一基瓦ニ付牛、羊、山羊一〇、犬

〇、五、馬〇、八五以上)ノ外ハ嘗テ中毒症候ヲ呈セス
外用ニハ無毒乾燥性ノ防腐劑トシテ應用ス内服ニハ散劑丸劑紙劑トシテ牛、羊ニハ振盪合劑トシテ大量ヲ一回ニ頓服セシメ又ハ少量ニ分割シテ一日數回ニ服用セシム

●新藥配伍ノ賣藥許否ノ件

【照】(明治二十八年四月五日福井縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

賣藥營業免許鑑札下附ノ件ニ付其方劑中未タ日本藥局方ニ登載無之新藥ヲ配伍セルモノハ其内用ト外用トヲ問ハス允許スル能ハサルモノナルヤ若シ新藥ト雖モ其藥性ト使用ノ目的トニ依リテハ允許可相成モノトスレハ該許容シ得ヘキ藥品ノ名稱及用量ノ制限等承知致度目今現ニ新藥「硫酸イヒチオール」モニヤ」ヲ配伍セル膏藥及洗滌藥等出願中ノ者モ有之加之ナラス向來モ續々斯ル出願者モ可有之ト被考候條至急何等ノ御回答相願度此段及照會候也

【答】(明治二十八年四月九日衛生局長ヨリ)

局方外新藥ヲ賣藥ニ許否ノ義ニ付御照會ノ趣了承然ルニ新藥ニ付テハ別段取扱ノ内規モ無之只其藥品ニ付許否可相成義ニ有之候間出願ノ都度御問合相成候様致度又硫酸イヒチオールアンモニヤハ使藥二十分ノ一ヲ限リ外用ニ許可相成可然ト思考候間此段及回答候也

【照】(明治三十六年五月二十二日栃木縣知事ヨリ衛生局長へ)
賣藥出願ニ對シ其製藥配伍ノ藥品中各國藥局方ニ明定ナキモノニ係ル(例へハ「アセチール」撒里矢爾酸ノ如キ)新藥配劑ハ危害ノ恐レナキモノト認ムルニ於テハ免許差支ナキ義ト存被候へ共聊カ疑義ヲ生シ候ニ付至急御指示相煩度此段及御照會候也

【答】(明治三十六年六月十一日衛生局長ヨリ)
右ハ其効能、用量ニ付醫家ノ研究シツ、アルモノニシテ自然賣藥トシテノ用量ヲモ定メ難キモノハ許可不相成様致度此段及御回答候也

【照】(明治三十七年五月四日宮崎縣知事ヨリ衛生局長へ)
近來賣藥出願者ニシテ其製劑配伍ノ藥品中ニ新藥ヲ配劑セルモノ有之(例之ハデシンフエクトール、タカヂアスターゼ、鹽化アドリナリン、ガロフラルビンガロプロモール、タルリン等其他ノ新藥)其目的ハ内外用ニ區別セラレ居リ危害ノ虞ナキモノト認ムルモ右等ニ對シ許否ノ件ニ付何等ノ通牒無之取扱上差支候條至急何分ノ御通知相成候様致度此段及問合候也

【答】(明治三十七年五月十六日衛生局長ヨリ)
本月四日付衛第三五八號ヲ以テ賣藥ニ配伍スヘキ藥品之儀ニ就キ御問合之處性効不明ナル新藥ニシテ賣藥トシテ用量ヲモ定メ難キモノハ許可相成ラサル様客年六月衛第四五四一號ヲ以テ通牒ニ及置候次第モ有之候ニ付右ノ方針ヲ以テ可然御取計相成度此段及回答候也

●賣藥ニ附着スル衣劑ノ件

【照】(明治三十三年十月五日和歌山縣知事ヨリ衛生局長へ)
丸藥ニ金箔又ハ辰沙等ヲ以テ衣トシ其ノ免許ヲ得テ發賣スルモノ爾後其ノ衣ノミヲ除去シタキ旨出願候モノアリ右ハ衣ハ藥味中ノ一種トシ藥品改正同様ノ取扱ヲ爲スヘキ儀ナルヤ又ハ衣ハ藥味外ト看做シ鑑札書換ニ不及哉差懸承知致度候間至急何分ノ御指示相成度此段及御問合候也

【答】(明治三十三年十月二十九日衛生局長ヨリ)
本月五日衛第一八一五號ヲ以テ賣藥ノ丸劑ニ附着セル衣劑ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ丸劑ノ調製上一種ノ賦形藥ニ付賣藥規則第四條ニ依リ御取扱相成可然ト被存候此段及御回答候也

●賣藥丸衣トシテ「アルミニウム」箔使用許否ノ件 (大正七年三月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正七年二月二十一日兵庫縣知事ヨリ衛生局長へ)
賣藥ニ「アルミニウム」箔ヲ丸衣トシテ調製發賣申請セル者有之候處右ハ許可セサル方可然ト思料セラレ候へ共聊カ疑義相生候條一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

【答】(大正七年三月十二日衛生局長ヨリ)
本件ニ關シ衛收第六四二號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ許可相成可然ト被存候

●賣藥ノ方名ニ日本藥局方又ハ外國藥局方ニ登載シタル藥品名ヲ襲用スヘカラサルノ件

【通】(明治卅五年五月衛甲第二七號衛生局長ヨリ大阪府知事ヘ)
近來賣藥ノ方名ニ日本藥局方又ハ外國藥局方ニ登載セラレタル藥品名ヲ其儘襲用スル者尠カラス右ハ醫藥ト混同スルノ虞アルニ付斯ノ如キ方名ハ最初出願ノ際許可相成ラサル様致度又劇藥其他有力藥品ヲ配伍シタル賣藥ニシテ之カ多量ヲ一時ニ服用スルトキハ危害ノ虞アル製劑ニ何等ノ分割裝置ヲ施スコトナク長日ノ用量ヲ一器ニ格納シ發賣スル者有之右ハ明治十九年訓令第三十二號第九項ニ牴觸スル儀ト被存候ニ付是又御注意相成度依命此段及通牒候也

●日本藥局方所定ノ藥品等ニ局方以外ノ名稱ヲ附シタルモノノ賣藥免許許否ノ件

【照】(大正六年二月十三日秋田縣知事ヨリ衛生局長ヘ)
日本藥局方所定ノ藥品製劑單味ニ局方以外ノ別名ヲ附シ賣藥(用法、用量、効能ヲ記シ)トシテ發賣ノ申請ニ對シテハ許可スヘカラサルモノト被考候得共聊カ疑義相生シ候ニ付貴局ノ御意見承知致度及照會候也

【答】(大正六年三月十四日衛生局長ヨリ)
本件ニ關シ去月十三日附秋發衛第三一〇號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ許可相成可然ト被存候

●「ゼーム」及「エーセン」ハ賣藥以外ノモノト認ムヘキヤ否ヤノ件

(明治三十六年二月四日衛生局長ヨリ各地方長官ヘ通牒)

【照】(明治三十五年十二月十五日富山縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

清涼及芳香劑ト稱シ東京市馬喰町山崎榮三郎發賣ニ係ル「ゼーム」、名古屋市傳馬町小島藥館發賣ニ係ル「エーセン」ナルモノハ其體裁ニ於テハ殆ント賣藥ニ等シ然ルニ効用ニ至ツテハ單ニ鬱ヲ散シ口中ノ惡臭ヲ去リ音聲ヲ能クストノミニシテ治病ノ目的ヲ表示セサルニ依リ賣藥ト看做スヘキモノニ無之ト思料候得共取締上聊カ疑義ヲ生シ殊ニ本縣ニ於テモ目下右同様ノ物品ヲ製造發賣セントスル者有之ニ付果シテ前記「ゼーム」「エーセン」ノ如ク治病ヲ目的トセサル製劑ハ賣藥規則第一條ノ範圍外即チ賣藥以外ノモノト認メ可然哉至急何分ノ御指示相成度此段相伺候

【答】(明治三十六年二月四日衛生局長ヨリ)
客年十二月十五日付衛發第二四〇號ヲ以テ東京市馬喰町山崎榮三郎發賣ニ係ル「ゼーム」並名古屋市傳馬町小島藥館發賣ニ係ル「エーセン」之儀ニ付伺出ノ處右ハ一二ノ効能ヲ付シ又ハ用法ヲ記載スルモ治療ヲ主トスルモノニ非サルヲ以テ賣藥規則ニ據リ取扱フヘキモノニ無之ト御承知相成度依命此段及回答候也

●賣藥ノ名稱ニ於テ煙草ノ代用品類似ノ物品注意方ノ件

【通】(明治三十七年十一月衛甲第八一號內務省衛生局長ヨリ大阪府知事へ) 別紙寫ノ通り煙草專賣局ヨリ依頼ニ付之ニ相當スル賣藥出願ノ際ハ特ニ御注意相成候様致度此段申進候也

(別紙) (明治三十七年十月煙草專賣局ヨリ衛生局長へ)

煙草專賣法第三十五條ニ依リ營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用スヘキ物品ヲ製造販賣スルヲ得サル義ニ有之從テ相當ノ取締ヲ要スヘキ義ニ有之候ニ付テハ將來賣藥ノ名稱ニ於テ右代用品類似ノ物品ヲ調製發賣ノ申請ヲ爲スモノ有之候トキハ夫々御注意相成候様致度御依頼旁此段及照會候也

●煙草代用品ト認ムヘキモノニ賣藥ノ名稱ヲ附シ發賣スルモノ取締方ニ關スル件

【通】(明治四十四年十二月十二日省第一〇三六號衛生局長ヨリ各地方長官(除東京)宛) 近來疾病ヲ治スヘキ効能ヲ付シタル藥劑ヲ賣藥トシテ許可ヲ受ケ發賣スルモノ往々有之趣ニ候處右ハ賣藥檢査心得第一項ニヨリ許可スヘカラサル性質ノモノニ有之候條御注意相成候様致度此段申進候也 (此ノ通牒ハ左ノ照覆ニ依ル)

○專賣局長官照會明治四十四年十一月二十八日甲第二六六二號

營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用スヘキ物品ヲ製造シ又ハ之ヲ販賣スルコトハ煙草專賣法第三十五條ノ禁スル處ナルヲ以テ近來巧妙ナル手段ヲ講シ煙草代用品ニ氣管支炎其他諸種ノ病症ヲ治スヘキ効能ヲ附シ賣藥ニ假製シ地方廳ノ免許ヲ受ケ販賣スル者追々輩出シ其販賣區域ハ一地方ニ止マラス廣キハ東京、鹿兒

島及其他各地方ニ販賣スルモノアリ狹キモ二三縣ニ渉ル狀況ナレハ爲メニ煙草ノ賣行ヲ阻害スルコト尠カラサルヲ以テ從來當局ハ地方廳免許ノ効力ヲ絕對ノモノト認メ即チ製造又ハ販賣者ノ意思カ賣藥トシテ製造シ又ハ販賣スル場合ニ限り免許ノ効アルモ若シ其意思ニシテ賣藥トハ單ニ免許ヲ受クルノ手段ニ止リ其意思カ煙草代用品トシテ製造シ又ハ販賣スルモノナリトノ證據アルトキハ煙草專賣法第三十五條ノ違反トシテ取扱居候要スルニ煙草代用品ノ製造販賣ハ一般且絕對ニ禁止セラレ許可スヘキ筋合ニ無之事ト存候ニ就テハ斯ル行爲ヲモ併セテ許可シタルモノト解スルコト能ハサル次第ト存候然ルニ神戸區裁判所ハ意思ノ如何ニ拘ラス許可ノ効力ハ絕對ニ認ムヘキモノナリトノ趣旨ヲ以テ別紙判決書寫ノ通り無罪ヲ宣告シ檢事ハ此判決ヲ適當ナラストシ控訴シタルモ遂ニ棄却ト相成候ニ付テハ專賣取締上影響尠カラス候條今後地方廳ニ於テ賣藥免許ヲ與フル場合ニハ其服用方法喫煙ニアルカ又ハ服用方法喫煙ニアラストスルモ物品ノ形狀卷、刻煙草ニ類似スルカ其他煙草ニ代用シ得ル疑アルモノニ係ルトキハ許否決定前所轄專賣支局ニ協議シ其煙草代用品ト認ムルモノハ賣藥ノ免許ヲ與ヘラレサルコトニ御内訓相成候様御取計相煩度此段及御協議候也

○衛生局長官答明治四十四年十二月十二日附省第一〇三六號

煙草代用品ト認ムヘキモノニ賣藥ノ名稱ノ下ニ出願シ又ハ發賣スルモノノ義ニ關シ本月二十八日付甲第二六六二號ヲ以テ御申越ノ處本件ニ關シテハ別紙ノ通各地方長官へ通牒致置候條右様御承知相成度此段申進候也 (別紙ハ本項初記)

●煙草代用品ニ關スル件

【照】專賣局京都支局ノ意見徵求ニ因リ(大正十年六月廿五日附衛第四五六五號京都府知事ヨリ内務省へ)
一衛生スモーク

發賣本舖 石川縣金澤市長町一番丁 衛生スモーク發賣所
右調製人 同縣同市石浦町 藥劑師 英 安吉

右ハ煙草專賣法第三十五條ニ據ル煙草代用品トシテ取締ヲ要スヘキモノニ有之候哉何分ノ御回報相煩度
(追書略之)

【照】(大正十年七月九日附衛第八三一號内務省ヨリ石川縣知事へ)

貴管下石川縣金澤市石浦町藥劑師英安吉調製ニ係ル「衛生スモーク」ニ關シ京都府ヨリ之カ取締方ニ付現
品添附照會越候處右ハ煙草專賣法第三十五條ニ抵觸スルモノト被認候得共一應貴官ノ取扱振承知致度候
條折返シ何分ノ儀御回報相成度候

【答】(大正十年八月十二日收庶第一三〇〇號石川縣知事ヨリ内務省へ)

七月九日附衛第八三一號標記ニ關スル御照會ノ趣了承本件ニ對スル取扱ニ關シテハ左記ノ通りニ有之
候

(追書略之)

記

(略之)

【通】煙草代用品取締ニ關スル件(大正十年九月十四日附衛第一〇九六號内務省衛生局長)

標記ニ關シ大正十年八月十一日附收庶第一三〇〇號ヲ以テ御回答ノ趣了承右ニ依レハ金澤市藥劑師英安
吉發賣ノ「衛生スモーク」ニ對シ金澤專賣支局ヨリノ告發ニ係ル煙草專賣法違反ノ問題ハ第一審及第二審
共ニ同支局ノ敗訴ニ歸シタル趣ニ候處同品ハ其ノ成分ヨリ考フルニ明治四十四年内務省令第十八號ノ規

定ニ依ル醫師又ハ醫師ノ指揮ヲ受ケタル者ヲ主タル目的トスル藥品又ハ製劑トハ認メ難ク又効能、用法
用量ノ記載等其ノ販賣ノ方法ニ依レハ去明治四十四年十月三日附秘第一二〇五號通牒ニ照ラシ賣藥ト認
ムヘキモノト存候條相當御處置相成度候

追テ薰烟劑ヲ賣藥トスル件ニ付テハ明治四十四年十二月十二日附省第一〇三六號ヲ以テ通牒相成居候
條爲念申添候

●鑛泉取扱方ニ關スル件

(明治四十年九月六日衛北第一六〇號各地方長官宛)

【照】(明治四十年七月北海道廳長官ヨリ)

明治三十八年五月祕發第一二〇號別項第一從來賣藥ト認メサリシモ賣藥ト認メ課稅スヘキモノハ此項ニ
掲クルモノニシテ治病ノ効能アリト稱シ公衆ヲシテ直ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ發賣セラレ、モノハ
賣藥トシテ課稅スヘキモノトス

第一ノ名目 拔萃

一 天然鑛泉

一 靈鑛泉

一 冷鑛泉

一 鐵冷鑛泉

右御通牒以來本廳ニ於テハ右各鑛泉ニ對シ浴服用タルヲ問ハス治病ノ効能アリト稱シ公衆ヲシテ直ニ
使用セシムルモノハ總テ賣藥トシテ取扱ヒ來リ候處他地方ニ於テハ右ハ賣藥規則外トシテ取扱居候哉ニ
及間候ニ付テハ聊力疑義ニ涉リ候條左記御意見承知致度此段及照會候也

一、天然鑛泉ニシテ何地鑛泉タルヲ明ニシ相當技術者ノ爲シタル分析成績書即チ其成分ノ分析治効假

令ハ用法、分量、効能等ヲ付スルモ人工ヲ加ヘサルモノハ公衆ニ對シ浴用、服用又ハ服用ノ目的ヲ以テ瓶詰等一定ノ裝置ヲ爲シ販賣スルモ賣藥規則外トシテ取扱フヘキヤ

二、同上服用ヲナス浴用ノミニ供シ營業ヲナスモノハ賣藥ト認メサルヤ

三、若シ右解釋ノ御趣旨トスレハ前記御通牒名中天然鑛泉等ハ凡テ人工ヲ加フルカ又ハ自儘ノ効能ヲ付スルモノ、義ト承知致シ可然哉

【答】(明治四十年八月内務省衛生局長ヨリ)

鑛泉取扱方ノ義ニ付七月十六日付回衛第六三三號ヲ以テ御照會之趣了承即チ單ニ鑛泉ヲ採酌シ何地ノ鑛泉タルヲ明ニシ之ニ技術者ノ爲シタル試驗成績書ヲ添付シ販賣スルカ如キモノハ別格鑛泉ニ人工ヲ加フルト否トヲ問ハス効能、用法、用量ヲ明記スル等公衆ヲシテ醫師ノ力ニヨラス藥劑トシテ治病ノ目的ニ使用セシムルノ裝置ヲ爲シ販賣スルモノハ明治三十八年五月祕發第一二〇號通牒ニ依リ又鑛泉ヲ浴湯トシテ販賣スルモノニ對シテハ從來ノ慣行上明治十九年六月訓令第三十二號賣藥檢査心得第十二項ニ依リ御取扱相成度此段及回答候也

●天然冷鑛泉ヲ内外用ニ併用スルモノ許否ニ關スル件

【照】(大正二年五月五日愛知縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

天然冷鑛泉ヲ其儘賣藥トシテ左記ノ通り一方名ノ許ニ内外ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ發賣許可出願セシモノ有之候處右ハ誤用ノ場合ト雖モ何等危險ヲ來タスコト無之様被存候得共一方名ノ賣藥ニ依リ内用

ト外用ニ使用セシムルハ穩當ヲ缺ク嫌ヒ有之候ニ付二方ト爲ササレハ許可セサル見込ニ有之候モ一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

左記

鑛泉効用書

- 一、内用トシテ左ノ諸病ニ効アリ(病名略記)
- 内用分量及用法(略ス)
- 一、外用トシテ左ノ諸病ニ効アリ(病名略記)
- 外用分量及用法(略ス)

【答】(大正二年五月八日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ本月五日附衛收第二八八七號ヲ以テ御照會ノ趣了承御來示ノ如キ鑛泉ハ内外用ヲ兼ネ免許ヲ與ヘルモ差支無之被存候

●鑛泉不二「ラヂウム」販賣取締ニ關スル件

【照】(大正四年四月十五日岡山縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

目下本縣ニ於テ山梨縣金峰山ニ湧出スル不二「ラヂウム」鑛泉ノ販賣者有之候處取扱上ニ疑義ノ點有之即左ニ

- 一、右鑛泉ヲ瓶詰シ之ニ用法、用量醫治効用ヲ記セサル試驗者ノ成績標紙ヲ貼付シ或ヒハ同様ノ事項ヲ記セサル廣告紙ヲ配付シ後之ニ該當スル鑛泉ヲ販賣シタル場合ハ賣藥ト認メ可然哉

二、別紙甲號ノ如ク用法、用量ヲ記載セサルモ醫治効用ヲ記載シタル成績書ヲ容器ニ貼付シ又ハ單ニ甲號、乙號、丙號ノ如キ廣告紙ヲ配付シ後之ニ該當スル鑛泉ヲ販賣スルカ如キハ賣藥外ト認メ可然哉

右ハ差當リ貴局ノ御意見承知致度別紙成績標紙及廣告紙相添へ御照會ニ及ヒ候條至急御回示相煩度候
(別紙略ス)

【答】(大正四年六月二十九日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ本年四月十五日衛第一八三九號ヲ以テ照會ノ趣了承該照會書中第一ノ場合ト雖モ其効能、用法、用量等ノ記事専門的ナルトキハ之ヲ賣藥ト認メ難ク又第二ノ場合ハ無論賣藥外ト認メ候條御承知相成度候

●賣藥効能書中ニ傳染病名ヲ附記方許否ノ件

(明治四十年一月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(明治三十九年十二月二十五日大阪府知事ヨリ衛生局長へ)

法定傳染病及其ノ他ノ傳染性疾患例之トラホーム、肺結核、癩病等ニ効能アリト稱スル賣藥ニ對シテハ甲府縣ニ於テハ之ヲ許可スルモ乙府縣ニ於テハ之ヲ許可セサル等其ノ取扱區々ニ涉リ一定シ居ラサル哉ニ存候右ハ何レニ據リ取扱ヒ可然哉御省ノ御意見承知致度候條至急何分ノ御回報相煩シ度此段及照會候也

【答】(明治四十年一月十一日衛生局長ヨリ)

賣藥効能書中ニ法定傳染病名及其ノ他ノ傳染性疾患ヲ附記スルモノ許否之義ニ付客年十二月二十五日付

衛第四六〇〇號ヲ以テ御照會之處右ハ削除ニ及ハス許可相成可然ト被存候條右御了知相成度此段及回答候也

●和漢藥配伍ノ賣藥許否ノ件

(明治四十二年五月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(明治四十二年四月二十一日廣島縣知事ヨリ衛生局長へ)

本月五日付衛甲第二九號ヲ以テ賣藥許否ノ件ニ付御通牒相成候處和漢藥ノ如キハ古來漢方醫竝民間ニ於テ使用シツ、アリ本草綱目其他之ニ類スル書籍ニハ其効能記載有之候得其實際其効アルヤ否ヤ明カナラズ且ツ成分ニ至リテモ未タ檢明セラレサルモノ多キカ故ニ苟モ其特効不明ナルモノハ假令從來ヨリ一般ニ使用セラルモノト雖モ全然檢査心得第二項ニ據リ取扱フ御方針ニ候哉何分ノ儀承知致度候

【答】(明治四十二年五月二十四日衛生局長ヨリ)

古來漢方醫竝民間ニ於テ使用シ本草綱目其他之ニ類スル書籍ニ其効能記載アル和漢藥ヲ賣藥ニ配伍許否ノ儀ニ付客月二十一日付衛第三〇〇三號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ許可相成可然ト被存候此段及回答候也

●賣藥罨法劑ニ「フォルマリン」及「メチーレン青」配伍許否ノ件

【照】(明治四十二年十二月埼玉縣知事ヨリ衛生局長へ)
左記賣藥罷法劑出願有之候モ賣藥檢査心得第三項ヲ廣義ニ解シ免許差支無之哉一應貴局ノ御意見承知致
度及照會候也

左記

- 一 藥味分量一劑ノ分 フオルマリソ〇・五瓦 メチレン青〇・〇〇〇五瓦 蒸餾水一五〇瓦
- 一 用 量 大人小兒ノ區別ナシ
- 一 用 法 一劑ヲ六百瓦ノ温湯ニ溶シ新井式陰莖尿道消炎器(實用新案登録番號一四五五
四)ノ湯槽ニ入レ陰莖及睪丸温湯法トシテ一日一回乃至三回使用スルモノナリ
- 一 主治効能 陰莖睪丸尿道ノ淋毒、軟性下疳、梅毒ニ因由セシ炎症ニ用ヒテ効アリ

【答】(明治四十三年一月衛生局長ヨリ)
右記載分量「フオルマリソ」ハ許可スヘカラサルノミナラス尙本劑ノ如キ普通ノ用法ニヨラサルモノハ賣
藥トシテ許可スヘキモノニ無之候條右様御承知相成度此段及回答候也

●米糠ニ關スル件

【照】
米糠ヲ乾燥シ脚氣胃腸病者ノ食料トシテ別紙寫ノ通り願出ノ者有之候處其目的治病ニ存スルヲ以テ賣藥
ノ範圍ニ屬スヘキモノト被認候へ共聊カ疑義相生シ候條一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也
「別 紙」 賣藥部外品製造御願

(方 名) 大 和 糖
(製 法) 米 糠 一 種
右一種ヲ細カク粉末ニシテ能ク火氣ニテ乾燥ス

(効 能) 脚氣、胃腸病ノ特效衛生消化食料トス
(使用 方法)

- 一、大人一日三回一回ノ量目一匁、小人五歳以上十五歳迄ハ其半量、十五歳以上ハ大人ト同量
- 一、毎朝味噌汁ヲ碗ニ注クトキニ碗ノ方ニ本品ヲ入レテ其上カラ熱イ汁ヲ注イテ用フ
- 一、鹽ヲ混セテ飯ニマフシ茶ヲカケテ用フ
- 一、砂糖ヲ混セテ食スルモヨシ
- 一、オブラートニ包ミテ白湯ニテ用フ
- 一、粉藥ノ様ニ白湯又ハ水ニテ其儘用フ
- 一、牛乳ヘ混セテ砂糖ヲ加ヘテ用フ
- 一、砂糖ト鹽ヲ混セテ豆ノ粉ノ代用ニ餅ニ付ケテ用ユルモヨシ此外好ム所ニヨリ色々ニ用フル
モヨシ又少々分量ヲ過コスモ差支ナシ故ニ米食家ニシテ脚氣病ノ爲メ水氣癱痺疼痛ノ人或ハ
胃腸ヲ患フ者ハ常備品トシテ食用ニ供セラルヘシ服用後四日ヨリ十日位ニテ全治セシムルノ
効アリ

右今般食料トシテ調製發賣仕度御檢査ノ上御許可被成下度見本品相添此段相願候也
明治四十三年 月 日 出願人 氏 名

【答】
米糠ヲ乾燥シ脚氣、胃腸病ニ効能アリト稱シ販賣スルモノ取扱方ノ義ニ付御照會ノ趣了承右ハ御來示ノ

通り賣藥トシテ御取扱相成度此段及回答候也
追而添付願書文中全治ノ期限ヲ附スルハ穩當ナラスト被存候條相當訂正セシメラレ度此段申添候也

●「ヂアスターゼ」及含糖「ペフシン」配伍許否ニ關スル件

【照】「ヂアスターゼ」及「含糖ペフシン」ヲ賣藥ニ配合シ散劑トナストキハ時日ヲ經過スルニ從ヒ引濕又ハ腐敗ヲ來ス虞アルヲ以テ賣藥檢査心得第五項ニ依リ從來該品ヲ配合スル賣藥出願ニ對シテハ總テ免許セサル事ニ取扱居候得共他府縣ニ於テハ該品ヲ配伍シタル賣藥ヲ免許セル向不尠趣ニ有之果シテ本品ヲ賣藥ニ配伍スルモ前記ノ如ク支障ナク檢査心得ニモ牴觸セサルモノニ候得ハ將來之ヲ免許スルノ方針ニ改メ度候ニ付一應貴局ノ御意見承知致度候間至急何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

【答】「ヂアスターゼ」及「含糖ペフシン」ヲ配伍シタル賣藥許否ノ義ニ付御照會ノ趣了承右ハ容器又ハ被包等ニテ密閉シ濕氣ヲ防クヘキ裝置ヲナサシムルニ於テハ許可相成可然ト被存候此段及回答候也

●醃酥許否ニ關スル件

【照】（明治四十三年三月二十八日大阪府知事ヨリ衛生局長ヘ）

麝香熊膽牛黃等全量五匁五分中ニ醃酥三分ヲ加ヘ五千匁ニ製シ一乃至五粒ヲ大人一日量ト爲シタル賣藥營業願出ノ者有之候處前記醃酥ハ其量僅微ナルモ甚シキ麻酔性ヲ有スルモノナルヲ以テ許可セサル方固然ト思料候ヘ共一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

【答】（明治四十三年七月一日衛生局長回答）
賣藥六神丸ニ配伍スヘキ藥品醃酥許否ノ儀ニ付本年三月二十八日付衛第一二六四號ヲ以テ御照會ノ處右ハ別紙林石津兩博士試驗成績ノ通毒性成分ヲ含有シ其毒力ノ程度等ニ付テハ篤ト調査ヲ要スル儀ニハ候ヘ共御來示ノ如ク配伍分量僅少ナルモノハ許可相成可然ト被存候此段及回答候也
（別紙略）

●賣藥製丸所ニ關スル件

【通】（明治四十四年三月内務省衛生局長通牒）
丸藥檢査又ハ丸藥師ト稱シ賣藥營業者ニ於テ調和シタル賣藥材料ノ交付ヲ受ケ之ヲ自宅ニ於テ丸藥ニ形成シ之ニ對スル賃金ヲ得ル事ヲ業トスル者有之候右丸藥製形ノ事ハ賣藥調製行爲ノ一部ニ外ナラサルカ故其ノ丸藥師ノ製形場所ヲ以テ依頼者タル賣藥營業者ノ賣藥調製所ト見做シ（多數賣藥營業者カ同一物品即チ丸藥師住宅ヲ各自ノ製造場トシテ免許ヲ申請スル場合ヲ豫期ス）其ノ賣藥營業者ヲシテ規則第二一條但書ニ依リ別ニ免許鑑札ヲ受ケシムヘキ儀ニ有之候處取扱區々ニ相成居候哉ノ聞モ有之候、自今此ノ趣旨ニ依リ御取扱相成度爲念此段通牒候也

●丸藥調製所ニ關スル解釋ノ件

(大正三年十二月十九日伺定)

【照】(大正三年八月大阪府衛生課長ヨリ内務省衛生局保健局長へ)

(前 略)

- 一 賣藥法施行規則第八條ニ所謂調製所ハ原料品ノ剉截並精選、藥品ノ配伍包裝封緘印紙貼付等ノ作業所ヲ併稱スルモノナリヤ將單ニ藥品ヲ配伍スル場所ノミノ意ナリヤ
- 二 丸藥捻職又ハ丸藥師ニ對シテハ明治四十四年二月十七日内務省衛第一五五三號御通牒ニ基キ當該場所ヲ多數賣藥營業者ノ共同調劑所トシテ届出日適當ノ藥劑師ヲ置クモノハ新法ノ下ニ於ケル調劑所ト認ムヘキヤ

(後 略)

【答】(大正三年十二月内務省衛生局保健課長ヨリ大阪府衛生課長へ)

(前 略)

賣藥營業者ニシテ賣藥法第五條ノ原料ニ加工スル場所ハ假令剉截精選等ノミヲ爲ス工場ト雖モ調製所タルヘク又藥品ノ配伍及包裝モ賣藥ノ調劑ト見做シ御取扱相成可然ト被存候尤モ單ニ印紙ヲ貼付シ消印ヲ爲スモノニ就テハ賣藥製劑ト難認候右御了知相成度貴答迄如斯ニ御座候 敬具

●藥効ヲ同フスル藥品ニ一種以上ヲ賣藥ニ配伍許否ノ件

【照】(明治四十五年二月二十二日佐賀縣知事ヨリ衛生局長へ)

アンチヘブリン〇・ニアンチピリン一〇・アスピリン一・五ヲ賣藥ニ配合シ許可出願ノ者有之候處明治二十四年七月衛發第一六〇號貴省ノ通知ニ依レハ右アンチヘブリン及アンチピリンハ各別ニ出願ノ場合ハ許可差支無之モノニ候ヘトモ以上藥品ヲ混和スルトキハ一層其作用ヲ強クナラシムルモノト被存候就テハ是カ許否ニ付聊カ疑義相生シ候條一應御意見承知致度至愈何分ノ御回答相煩度此段及照會候也

【答】(明治四十五年二月二十七日衛生局長ヨリ)

アンチピリン其他藥効ヲ同フスル藥品ヲ各限定量賣藥一方劑中ニ配伍許否スルノ儀ニ付本月二十二日付發警第五三號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ相當分量ニ減スルニアラサレハ許可不相成可然ト存候此段及回答候也

●藥劑師カ製絲家ノ依頼ニ應シ工女ニ服用セシムル目的ヲ以テ調製シ効能用法等ヲ附セサル葛根湯ヲ賣藥ト認ムルヤ否ニ關スル件

【照】(大正元年十月二十九日長野縣知事ヨリ衛生局長へ)

常管内ニ於ケル製絲工場へ藥種商若クハ藥劑師ヨリ製劑若クハ漢方藥タル煎劑ヲ數千包若クハ大容器ニ容メ風引藥トシテ販賣スルモノ有之候處曩日藥劑師某ナルモノ其製絲家ヨリ女工ニ服用セシムル目的ヲ以テ葛根湯一錢袋千包ノ製造ヲ委託セラレ葛根麻黃甘草桂皮生薑ヲ混和調製シ交付シタル事實アルヲ稅務官吏ノ認ムル處トナリ刑事追訴ニ附セラレタル結果立會檢事ヨリ賣藥規則違犯トシテ處罰スヘキモノ

ナルヤ否ヤ照會有之候處右事件ノ解決如何ニ依テハ縣下及全國一般ノ工場主藥業者ノ利益消長ニ關シ一面課稅上ニ影響スル所不尠ト思料セラレ候條斯種ノモノヲ賣藥ト認ムヘキヤ否ヤニ付折返シ何分ノ御回報相成度此段及照會候也

追テ本劑葛根湯ニハ用法効能ヲ付シ若クハ口授シタル事實無之候條申添候

【答】〔大正元年十一月十八日衛生局長ヨリ〕

客月二十九日發第一〇〇號ヲ以テ葛根湯ノ件ニ付御照會ノ趣了承右ハ賣藥ト認ムヘキモノニアラスト被存候條此段及回答候也

●藥湯取扱ニ關スル件

【通】〔大正三年十月衛生局長ヨリ各地方長官ヘ〕

賣藥檢査心得第十二項ニ依リ藥湯ハ從來賣藥トシテ取扱ヒ來リ候處右ハ賣藥ト認ムヘカラサルモノト存候條自今賣藥外トシテ御取扱相成度

追テ藥湯ノ原料ニシテ効能用法用量等一定ノ形式ヲ具備シテ販賣スルモノハ賣藥トシテ取換フヘキハ勿論之儀ニ有之候條爲念申添候

●賣藥ニ爐甘石辰砂配伍ノモノ讓渡方ニ關スル件

〔大正四年六月衛生局長ヨリ各地方長官ヘ〕

【照】〔大正四年五月三日京都府知事ヨリ衛生局長ヘ〕

明治三十九年以前當府ニ於テ許可セル賣藥中爐甘石、辰砂（主藥トシテ）配伍ノモノ今回讓渡出願有之候處右藥味ハ其後檢査心得ニ據リ許可セラレサル儀ト相成居候ニ就テハ賣藥法第十條ニヨリ變更セシムヘキモノニ候ヤ一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

【答】〔大正四年六月三日衛生局長ヨリ〕

客月三日附衛第四四〇一號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ御來示ノ通り御取扱相成可然ト存候

●普通ノ用法ニ由ラサル賣藥ノ許否ノ件

〔大正六年四月衛生局長ヨリ各地方長官ヘ通牒〕

【照】〔大正六年三月二十七日大阪府知事ヨリ衛生局長ヘ〕

別紙寫ノ通「メチレンブラウ」溶液ヲ灌腸用トナシタル賣藥免許申請有之候處普通ノ用法ニ由ラサルモノニ付賣藥檢査心得第八項ニ依リ許可セサル方可然ト存シ候ヘ共一應貴局ノ御意見承知致度候

別紙

一、方名 アイフ注腸液

一劑ノ量

メチレンブラウ〇・五瓦ヲ蒸留水三十五瓦ヲ以テ溶解ス

右溶解液ニ攝氏四十度内外ノ微温湯五百瓦ヲ混和シ稀薄ナラシメ一日一回適宜ノ時刻ニ注腸ス

主治効能（略ス）

【答】(大正六年四月十六日衛生局長ヨリ)
本件ニ關シ客月廿七日附衛甲第七四四號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ御見込ノ通御取扱相成可然ト被存候

●吸入劑ヲ賣藥トシテ販賣許否ノ件

(大正七年一月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正六年九月十日大阪府知事ヨリ衛生局長へ)

左記處方ノ吸入劑ヲ賣藥トシテ免許願出ノモノ有之候處衛生上危害ナキモノト認ムルモ賣藥檢査心得第八項ニ該當スルモノニ付許可セサル方可然思料セラレ候へ共貴局ノ御意見承知致度候

左記

原料品分量

クロールナトリウム 五、〇

重炭酸ナトリウム 五、〇

蒸餾水 四五〇、〇

製法(略ス)

【答】(大正七年一月二十三日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ客年九月十日附衛甲第六二八七號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ御見込ノ通り御取扱相成可然ト存候

●薰煙劑、吸入劑等ヲ賣藥トシテ販賣許否ノ件

照 (大正八年七月二日大藏省主税局長ヨリ内務省衛生局長へ)

明治十九年三月貴省訓令第三十二號賣藥檢査心得第八項ニ依レハ薰煙劑吸入劑等ハ賣藥トシテ許可セサル規定ニ有之候處右ハ明治十年十二月制定ノ舊賣藥規則ニ基キタルモノ、様被相考從テ新タニ賣藥法制定ノ今日ニ於テハ苟クモ醫師ノ指揮ニ依ラス疾病治療ノ爲公衆ヲシテ直ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ發賣スルモノハ薰煙劑タルト吸入劑タルトヲ問ハス等シク賣藥トシテ取扱フヘキモノト認候條當局トシテハ薰煙劑、吸入劑ト雖モ賣藥トシテ取扱フコトト致度モ地方廳ニ於テハ今尚ホ賣藥檢査心得第八項ニ依リ賣藥トシテ許可セス藥品トシテ取扱フヤニ及聞候ニ付テハ此際賣藥トシテ取扱フコトニ地方廳ニ御通牒相成候様致度此段得貴意候也

【答】(大正八年九月十三日衛生局長ヨリ)

標記ノ件ニ付七月二日藏第七三三三號ヲ以テ御照會ノ趣了承右薰煙劑吸入劑等ハ現行賣藥檢査心得第八項ニ依リ賣藥トシテ許可セサル取扱ニ候得共之カ將來ノ取扱ニ關シテハ目下研究中ニ付追テ賣藥檢査心得ノ改正ヲ遂クル迄ハ從來ノ通御處理相成候様致度此段及御回答候也

●金密陀配伍ノ賣藥讓渡ノ件

【照】(大正七年八月十七日熊本縣知事ヨリ衛生局長へ)

大正二年當縣ニ於テ許可セル左記賣藥ヲ今回賣藥法第六條及第二十四條ニ該當セサル者ニ讓渡出願有之

第五章 賣藥及賣藥部外類似品

候處右配賣藥品中光明丹ニ付テハ大正四年七月一日付衛東京第一九一號及同五年十月十九日付衛玉第一八四號ヲ以テ硬膏劑トシテ配伍セララルル場合ニ限り明治四十五年三月内務省令第二號毒藥劇藥品目以外ノモノニ付普通藥トシテ取扱可然旨通牒有之候ニ就テハ同時ニ配伍セル金密陀ニ關シテモ光明丹ニ準シ普通藥トシテ取扱差支ナキモノト思料候ヘ共一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

左記

一、方 法 萬能明治膏

一、原 料 品名及其分量

胡麻油五匁六分、光明丹一匁五分、豚脂四分五厘、松脂二匁八分、金密陀二分、乳香五分

一、調製ノ方法 一、用法用量 一、効能 (以上略ス)

【答】(大正七年八月二十六日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ本月十七日附衛發第八四二八號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ光明丹ニ準シ普通藥トシテ御取扱相成可然ト被存候

●一方劑ニシテ散劑或ハ錠劑ノ二様ニ記載セル賣藥取扱方

【照】(大正七年九月二十五日和歌山縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

左記藥品ヲ配伍セル賣藥ニシテ藥味効能ヲ同クシ服用ニ便ナラシムル爲メ同一方劑ニシテ散劑或ハ錠劑ノ二様ニ記載シ免許申請者有之候處該方劑ハ二方劑トシテ取扱フヘキモノト被認候ヘ共各府縣取扱振モ

可有之候間貴局ノ御意見至急承知致度此段及照會候也

記

一、大學蛔蟲(散)藥

一劑量

日本藥局方 サントニン 〇〇五瓦

同 乳 糖 〇〇一瓦

以上二品調合散藥二包トナシ又ハ前記ノ二品ヘ春雪粉十五瓦、日本藥局方白糖末七瓦ヲ加ヘ練合セ白菓二十形ヲ製シテ小兒用トス

用法、用量、主治効能(略ス)

【答】(大正七年十月十日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ去月二十五日附衛第七三八九號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ御見込ノ通ニ方劑トシテ御取扱相成可然ト被存候

●賣藥ニ「アセトアニリド」ノ配伍量ニ關スル件

(大正九年一月衛生局長ヨリ各地方長官ヘ)

【照】(大正九年一月十六日岐阜縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

賣藥ニ對シ「アセトアニリド」ヲ許可量一日〇・三ヲ許可スヘキ旨明治二十四年七月御通牒ニ接シ自來今日迄右ニ依リ許可ヲ與ヘ居リ候處他縣ニ於テ一日量〇・五ノ許可ヲ與ヘツ、アル趣ヲ以テ一日量〇・四

許可ヲ出願候モノ有之候條右許否ニ關シ貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

【答】(大正九年一月三十日衛生局長ヨリ)

本月十六日附衛第四二九號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ明治二十四年七月衛發第一六〇號ヲ以テ大人一日分量〇・二「グラム」内用許可可相成通牒致置候處爾今大人一日分量〇・五「グラム」ノ範圍内ニ於テ許可相成可然ト被存候

●朝鮮總督府製造發賣ニ係ル蔘精ヲ賣藥トシテ可
取扱ヤ否ヤノ件

(大正六年四月十三日内務省衛生局長ヨリ各地方長官へ)

別記

【照】(大正六年三月高知縣知事ヨリ衛生局長へ)

朝鮮總督府製造發賣ニ係ル蔘精ハ左記ノ通記述平易ニシテ通俗的ナル効能書ヲ付シ「公衆ヲシテ醫師ノ指揮ニ依ラス疾病治療ノ爲メ使用セシムルヲ主タル目的」トシテ販賣スルモノト認メラレ候ニ付明治四十四年十月内務省祕第一一〇五號内牒第三條ニ據リ賣藥トシテ取扱フヘキモノト存セラレ候處一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

左記(略之)

【答】(大正六年四月衛生局長ヨリ)

朝鮮總督府製造發賣ニ係ル蔘精ハ賣藥トシテ可取扱ヤ否ヤニ付客月十五日付衛發第七六號ヲ以テ照會ノ趣了承右ハ御意見ノ通ト存候

●朝鮮人蔘ニ効能ヲ付シ販賣スルモノ、取扱方ノ件

(大正六年六月内務省衛生局長ヨリ各地方長官へ)

別紙

【照】(大正六年五月大分縣知事ヨリ衛生局長へ)

朝鮮人蔘行商人若ハ朝鮮人蔘特約販賣所ト稱シ其品名、用法、用量、効能等ヲ左記寫ノ如ク(甲、乙、丙)記載シタル印刷物ヲ現品ニ添付シテ販賣シ或ハ各別ニ配布シテ販賣ノ擴張ヲ圖ルモノアリ右ハ賣藥法ニ依リ相當取締ヲ要スルモノト思料セラレ候得共一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也
左記(略之)

【答】(大正六年六月衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ五月十七日衛第一八二四號ヲ以テ照會ノ趣了承右ハ御意見ノ通ト被存候

●朝鮮人蔘取締ノ件

(大正七年二月内務省衛生局長ヨリ各地方長官へ)

別紙

【照】(大正七年一月熊本縣知事ヨリ衛生局長へ照會)

朝鮮人蔘販賣者取締ニ關シテハ客年六月五日付衛第九六號御通牒ノ次第モ有之爾後注意中偶同年十一月右該當ノ事實アルヲ發見シ所轄警察官署ニ於テ檢舉賣藥法違反事件トシテ檢事局へ送致シタルニ熊本地方裁判所檢事正ハ其ノ擬律ニ關シ司法省法務局長ト照覆ノ結果同局長ヨリ別紙乙號ノ通り分量ヲ定メテ容器ニ收メタルモノニ非ラサルノ故ヲ以テ縱令用法、用量、効能書ヲ添付シテ販賣スルモ賣藥法違反ノ罪ヲ構成セサル旨回答アリタル趣ニ有之候果シテ右見解ヲ至當ナリトセハ自今朝鮮人蔘ハ固ヨリ蘇鐵實其他日本藥局方ニ記載セサル和漢藥類ヲ原料ノ儘(分量ヲ定メテ容器ニ收メサルモノ)是ニ用法、用量、効能書ヲ添付シテ販賣スルモ何等制裁ノ途ナキカ如シ就テハ之カ取締上ニ關シ如何ニ取扱ヒ可然哉一應貴官ノ御意見承知致度至急何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

(甲號) (檢事正ヨリ司法省法務局長宛照會)

甲說 (大要賣藥法違反ナリト云フ說)

乙說 (大要賣藥法ニ抵觸セスト云フ說)

(乙號) (司法省法務局長ヨリ檢事正へ)

客月廿七日附第四二二號ヲ以テ御問合ノ趣了承照會面ノ場合ニ於テハ分量ヲ定メテ容器ニ收メタルモノニアラサルヲ以テ用法、用量、効能書ヲ添付シテ朝鮮人蔘ヲ販賣スルヲ業トスルモ賣藥法違反ノ罪ヲ構成セサルモノト思考致候此段及回答候也

【答】(大正七年二月衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ去月十八日衛收第三五四號ヲ以テ照會之趣了承右ハ賣藥トシテ取扱フヘキモノト存候

●蔘精ノ不正品取締ノ件

(大正八年九月十八日衛省第九二二號衛生局長ヨリ各地方長官へ)

朝鮮總督府政務總監ヨリ標記ノ件ニ付別紙寫ノ通り照會有之候ニ付該當スル不正品ノ取締ニ關シテハ充分御注意相成度候

(別紙寫シ)

【照】(大正八年七月朝鮮總督府政務總監ヨリ內務次官へ)

近來朝鮮人蔘ノ聲價向上ハ需要ノ激増スルト共ニ蔘精人蔘エキス精腦等ノ名稱ヲ附シ人蔘製品ノ販賣加フルニ伴ヒ往々廣告ニ政府製造ニ關係アルカ如キ紛ハシキ文字ヲ記載シ甚タシキニ至リテハ本府出張官吏ナリト詐稱シ本府直營製劑品ノ文字ヲ用ヒ内地土地村落ノ別ナク行商ニ從事シ需要者ヲ欺瞞スル者有之哉ニ及聞候現ニ最近ニ於テ大阪市南區日本橋通二丁目四六二二申泰均ナルモノ自己製品ニ朝鮮總督府專賣局直營ナル文字ヲ記入シタル商標ヲ貼用販賣シ居ルヲ見受候條此際嚴重ナル取締方特ニ御配慮ヲ得度此段及御依頼候也

追而本府製造販賣蔘精商標及朝鮮ニ於ケル取締方針概要竝ニ指定販賣人氏名左記ノ通ニ候間迄御參考申添候也

記

一、取締方針概要
政府專賣品タル紅蔘、粉末紅蔘及政府製造販賣ノ蔘精ハ指定販賣人ヲシテ販賣セシメ而シテ民間ニ於ケル人蔘ノ製藥ニツイテハ明治四十五年三月制令第二十二號藥品及藥品營業取締令ヲ履行且ツ又

不正品ヲ發賣シ若クハ各項ニ該當セルモノニ對シテハ警察犯處罰令ニヨリ處罰シ藥品及藥品營業取締ニヨリ該營業ノ禁止若クハ停止ノ處分ヲ斷シツ、アリ

- 一、官廳ノ名義ヲ濫用スルモノ
- 二、官廳名義ニ類似スル文字ヲ用フルモノ
- 三、政府製品ニ紛ハシキ包裝文書ヲ用フルモノ
- 四、政府ノ製造販賣ニ係ル蔘精ノ商標ヲ浸害スルノ意思アリト認ムルモノ
- 五、政府專賣ノ紅蔘、粉末紅蔘及政府製造販賣ノ蔘精指定販賣人

三井物産株式會社 本支店
 三 越 吳 服 店 本 支 店

蔘精一手販賣指定人(朝鮮京畿道開城郡開城蔘業組合)、
 蔘精小賣指定人(略之)

●賣藥廣告取締ニ關スル件

【通】(大正十年七月十九日廣衛第九一號衛生局長ヨリ各地方長官へ)
 賣藥ノ廣告ニ關シテハ嚴重御取締相成居ル儀ト存候得共近時廣告文中虛偽誇大ト認ムヘキモノ不尠右ハ醫藥ノ智識乏シキ者ヲ惑ハシ醫療ヲ誤ラシムル虞有之候條爾今一層之カ取締ヲ勵行シ違反ノモノニ對シテハ夫々御處置相成様致度

追テ貴官免許ノ賣藥ニシテ改正賣藥法實施後ニ於ケル法第八條及第九條違反者ニ對シ處分相成タル實例有之候ヘハ爲參考御報告相成度候

●賣藥對症投藥ニ關スル件

【照】(大正十五年九月北海道廳長官ヨリ衛生局長へ)
 賣藥營業者ニシテ數方又ハ數十方ノ免許ヲ受ケ患者ノ需ニ應シ其病症ニ適應スル賣藥ヲ其都度調製シ販賣スルモノ有之右ハ賣藥法ニ抵觸セサルモノト思料セラレ候得共眞實對症投藥ノ様ニモ考ヘラレ候ニ就テハ該行爲ノ敢テ差支ナキモノナルヤ貴局ノ御意見承知致度及照會候也

【答】(昭和二年一月衛生局長ヨリ)
 九月四日警衛第一九〇四號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會ノ趣了承賣藥營業者カ自己ノ免許ヲ受ケタル賣藥ノ賣渡シヲ求メラレタルトキ會々其ノ賣藥現存セサルヲ以テ之レヲ調製シ販賣スルハ差支ナキモ患者ノ病態ヲ聽取シ自己ノ判斷ニ從ヒ患者ニ與フヘキ賣藥ヲ選擇シ之ヲ調劑販賣スルカ如キハ醫師法違反ニ付可然御取締相成度

●蛇其ノ他蒸燒類ニ關スル件

【照】(昭和二年四月滋賀縣知事ヨリ衛生局長へ)

第五章 賣藥及賣藥部外類似品

近來蛇、「イモリ」、「スツボン」類ノ蒸焼又ハ蛇ノ焼酎漬等ニ肺病、肋膜、神經衰弱、心臟病等ノ效能ヲ附シテ又ハ口授シテ販賣スルモノ續出シ取締各府縣廳區々ニ亘レル様見受ケラレ候勿論賣藥トシテ當然取締ルヘキモノト存セラレ候ヘ共一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

【答】(昭和二年五月衛生局長ヨリ)
標記ノ件ニ關シ四月八日付衛第一一號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ御意見通り御取扱相成可然ト存候

●賣藥免許ニ關スル件

【照】(昭和二年七月長野縣知事ヨリ衛生局長ヘ)
左記ノ件ニ關シ賣藥免許申請ノモノ有之候處其許否ニ關シ聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

左記

賣藥法第六條又ハ第二十四條該當者ニ非サルモノ第二十五條ノ賣藥ヲ讓受ケ若クハ相續シタル後其ノ免許ヲ變更シ得ルヤ否
【答】(同年八月衛生局長ヨリ)
標記ノ件ニ關シ七月七日附ヲ以テ御照會ノ趣了承賣藥法第六條又ハ第二十四條該當者ニ非スシテ第二十五條ノ賣藥ヲ讓受若ハ相續シタルモノハ當該政廳ニ於テ命令スル場合ヲ除クノ外其ノ免許事項ヲ變更シ得サルモノニ有之候

●賣藥検査心得以外配伍許否決定藥品

賣藥検査心得掲記以外ノモノニシテ配伍許否ノ決定シタルモノ左ノ如シ
△内用許可ノ部

(名)	(稱)	内外用分量ニ拘ラス	(年月日)	(同廳府縣名)
タ	ル	大人一日一〇〇	二十四年七月	大阪府
ア	ン	大人一日〇・三	同	同
ア	ン	効能用量ヲ參酌シテ其量ヲ定ムヘシ	二十七年二月	同
ザ	ロ	一日〇・六五以下	二十八年二月	愛知縣
サ	リ	大人一日〇・三以下	同	和歌山縣
沃	度	大人一日〇・五以下	三十一年一月	大阪府
癩	瘡	一日〇・一	同	富山縣
ブ	ロ	〇・一五	三十三年二月	大阪府
次	亞	一日一・〇以下外用ハ制限ニ及ハス	同	長野縣
鹽	酸	〇・六	三十五年三月	同
次	サ	大人一日量〇・七五	同	和歌山縣
炭	酸	普通醫用範圍	三十六年十月	同
テ	ル			

サリチール酸ナトリウム 一・五瓦
 アンチペリベリン 陸
 ウロフエリン
 安息香酸ナトリウムカフエイン
 イスチチン(サオキノン) 一・五
 クレゾチン 三・〇
 プレノリン 一・五
 フェニール 三・〇
 エタノール 一・五
 アスピリン 一・五
 大スル 一・五
 ヨードナトリウム 一・五
 乳酸カルシウム 一・五
 (丸劑) 三・〇
 ホドフェイルム脂(下劑) 一・五
 セラチン 一・五
 アダリン 一・五

大人一日量一・〇瓦以内ニテ許可
 大正九年六月附衛東京第一四一號通牒ニヨリ米
 標越幾斯同様一日五瓦以下
 衛生上危害ヲ生シタル實例等無之候場
 合ハ届出受理相成方可然
 大人一日量一・〇瓦
 大人一日量一・〇瓦
 普通醫用範圍
 大人一日量一・〇以下
 一日量三・〇以下
 大人一日量〇・一ヲ最大限度
 普通醫用範圍
 同

大正十年三月 大阪府
 同十年十二月 島根縣
 同十三年九月 大阪府
 同十一年五月 栃木縣
 同十二年六月 宮崎縣
 同 大阪府
 同 同
 同十年十二月 廣島縣
 同十一年二月 大阪府
 同 同
 同 同
 同十三年五月 滋賀縣
 同 鳥取縣
 同 北海道廳
 同 北海道廳

アンモニア 二・四
 ゼネガ 二・〇
 ヨードカリウム 二・〇
 單 適量
 ミアノ 一
 ジヤンブル 一
 アリオチン、アトミノール、ア
 ニモスターゼ 一
 グラビ 一
 苺 一
 フロカーセ及エルボン 一
 フス タギ 一
 アンチペリベリン末 一・〇
 硫酸マカネシウム 一・〇
 苦味丁幾 二・〇
 パラギン(セネガ根ノ
 有効成分) 二・〇
 ポドフェイルム脂 一・〇
 ボロフェルチン(三硼酸カ
 トロピン) 一・〇
 フアトシ 一・〇
 ザープロ(サリチール酸サリ
 チールエステル) 一・〇

普通醫用範圍
 同
 苺若越幾斯ニ準ス
 普通醫用範圍
 同
 下劑大人一日〇・一以下
 普通醫用範圍
 同
 内外用同

大正十三年五月 北海道廳
 同 二月 同
 同 五月 廣島縣
 同 同 靜岡縣
 同 同 北海道廳
 同 同 同
 同 七月 同
 同 八月 千葉縣
 同 十月 岩手縣
 同十三年四月 佐賀縣
 同 十二月 滋賀縣
 同十四年十二月 高知縣
 同 同 廣島縣
 同 七月 島根縣

重曹及食鹽(吸入劑)
 クロール酸加里 四〇〇〇
 過酸化水素液 二〇〇〇
 蒸餾水 水
 ヤト 二〇〇〇
 枸橼酸 銅
 イヒチオ酸 銀
 コロイオ酸 幾
 莫若越オ酸 脂斯
 カカ越オ酸 脂斯
 無色沃度丁 幾
 アルバルギ ン
 アルゾ ン
 トリパフゾ ン
 ヒラフオ ン
 メチールアルコ ン
 チユール ン
 石炭酸、精製樟腦、黄色ヒオ ン
 クタニン ン
 カヅイド ン
 アネステジ ン
 アネステジ ン
 ヲルマン、エルトホルム、ク ン

外用二%、含嗽用五%
 外用ニハ普通醫用範圍(内用ニハ不許可)
 ○・五%點眼藥
 陸坐藥
 普通醫用範圍
 普通醫用範圍 尿道洗滌不許可
 普通醫用範圍
 貯藏法考慮 普通醫用範圍
 同 普通醫用範圍
 同

昭和三十九年三月 京都府
 同 四月 岐阜縣
 同 十二月 廣島縣
 昭和二年二月 北海道廳
 同 四月 靜岡縣
 同 五月 島根縣
 同 五月 高知縣
 同 八月 同 縣
 同 十一月 滋賀縣
 同 十一月 千葉縣
 同 十一月 宮城縣
 同 三月 京都府
 同 三月 福島縣
 同 三月 廣島縣

ウルクモール
 阿片 幾、硫酸銅
 杏仁桃水
 苦扁桃水
 カンタリス製劑
 ヨタルビ
 白礬土(單味藥湯)
 爐甘石(不純亞鉛)
 石炭酸
 酒酸
 龍腦精
 ビク ン
 殿毒媒介體ヘモリツン
 淋菌 ン
 過滿俺酸加里 九〇七
 蒸餾水 九〇三
 硫酸亞鉛 〇〇六
 芳香阿片酒 〇〇〇
 蒸餾水 〇〇〇
 クロ 〇〇〇

△外用不許可ノ部
 外用 但點眼用
 同
 無効ニ付不許可
 點眼撒布料トシテ
 外用塗布
 眼藥
 外用塗布
 外用塗布

昭和三年一月 京都府
 三十九年十月 富山縣
 四十二年二月 京城府
 同 三月 山形縣
 同 三月 熊本縣
 四十四年五月 富山縣
 同 六月 沖繩縣
 四十四年二月 愛媛縣
 大正五年二月 佐賀縣
 同 六月 大分縣
 同 七月 山口縣
 同 八月 鹿兒島縣
 同 二月 宮崎縣
 同 八月 高知縣

製販賣スルモノヲ云フ其品類左ノ如シ

- 一、除鼠劑、驅蟲劑
- 二、防腐劑、清澄劑
- 三、防臭劑、消毒劑
- 四、染髮劑、毛生劑、脫毛劑
- 五、涅齒料、齒磨及危害ノ恐レアル藥品ヲ配伍スル化粧品
- 六、明治三十八年勅令第五百五十五號賣藥稅法施行規則第十一條ノ賣藥類似品
- 第二條 賣藥規則外藥劑ヲ製造販賣セントスルモノハ方名、藥味分量、製法、用法、効能ヲ詳記シ第二號書式ニ依リ原品ヲ添ヘ郡市區役所ヲ經テ當廳ニ出願許可證ヲ受クヘシ其ノ製劑ノ藥味ヲ加減シ若クハ劑名、用法、用量、効能ヲ變更セントスルトキ亦同シ
- 前項ノ製劑ニシテ配合分量、用法ニ依リ危害ヲ生スルノ虞アリト認ムルモノハ許可セス
- 第三條 包紙容器等ニハ製劑者ノ住所氏名ヲ記載シ封緘ヲ爲スヘシ
- 第四條 他府縣ニ於テ許可ヲ得タルモノ及外國ヨリ輸入シタル製劑ヲ受賣又ハ行商セントスルモノハ第二號書式ニ依リ當廳ニ出願許可ヲ受クヘシ
- 第五條 許可證ヲ毀損亡失シタルトキハ其再渡ヲ、方名住所氏名ヲ變更シタルトキハ其書換ヲ第二條ノ手續ニ依リ願出スヘシ
- 第五條ノ二 營業者他人ニ許可證ヲ讓渡サントスル時ハ讓受人連署シ許可證ノ書換ヲ願出スヘシ
- 第六條 廢業死亡又ハ他府縣ヘ轉籍シタルトキハ十日以内ニ第二條ノ手續ニ依リ届出許可證ヲ返納スヘシ
- 第七條 警察官ニ於テ必要ト認メタルトキハ何時タリトモ製劑所、店舗、製品及許可證ヲ檢査スルコトアルヘシ

- 第七條ノ二 許可後衛生上危害ヲ生スル虞アリト認ムルトキハ藥味ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ
- 第八條 私ニ藥味分量ヲ増減變更シタルモノハ其製劑ノ發賣ヲ禁止シ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第八條ノ二 營業者六ヶ月以上行衛不明トナリタルトキハ許可ノ効ヲ失フモノトス
- 第九條 本則第二條乃至第六條ニ違背シ又ハ第七條ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十條 本則ハ明治三十二年十月一日ヨリ施行ス

〔第一號書式〕

賣藥規則外製劑檢査願	
一劑名	製法
藥味分量	効能
用法	
右ノ方劑調製發賣仕度候間許可證御下付相成度原品相添ヘ此段奉願候也	
年月日	
大阪府何市何郡區町村番地(寄留ナレハ原籍ヲ併記ス)身分職業	
大阪府知事宛	氏名

名 ①

「第二號書式」

賣藥規則外製劑請賣(行商)願

一劑名 營業人住所 氏名

右ノ製劑請賣(行商)仕度依テ別紙發賣願許可證書寫(外國輸入ニ係ルモノハ調劑書)相添ヘ此段奉願候也

年月日 (肩書第一號書式ニ同シ)

宛名前ニ同シ 氏名

●賣藥規則外製劑取締ニ關スル件

(明治三十二年十月三日大阪府訓令第七二號)

本年九月府令第八十二號賣藥規則外製劑取締規則第四條第二號書式ニ依リ出願ノ際發賣願書及許可證書寫

又ハ配劑書等添附シ能ハサル場合ハ其理由ヲ付シ現品ヲ添ヘ出願セシムル儀ト心得ヘシ

●賣藥部外品免許手数料及手数料免除等ニ關スル件(抄録)

(明治四十三年五月十三日内務省令第一九號、昭和二年三月内務省令第一八號改正)

第一條 明治四十三年五月勅令第二百十九號ニ依リ道府縣ニ於テ徵收スル手数料ハ左記金額ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス(第八章參照)

一 賣藥部外品(賣藥稅法第十九條ノ賣藥類似品ヲ含ム以下做之)免許手数料 一方ニ付金貳拾錢

一 賣藥部外品免計鑑札名義書換及再渡手数料 一回ニ付金拾錢

一 賣藥部外品請賣免許又ハ行商免許手数料 一方ニ付金拾錢

一 賣藥部外品請賣免許又ハ行商免許鑑札名義書換及再渡手数料 一回ニ付金拾錢

(以下十項略ス)

第二條 道府縣ハ按摩術及「マツサージ」術ニ關シ他ニ生業ヲ營ミ難シト認ムルモノニ對シ前條ノ手数料ヲ免除スルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五章 賣藥及賣藥部外類似品

●賣藥規則外製劑免許其他ノ手数料徴收ノ件 (援萃)

(明治四十四年大阪府令第三二號)

第一條 賣藥規則外製劑免許手数料左ノ通徴收ス

- 一 賣藥規則外製劑免許手数料
 - 一 賣藥規則外製劑免許鑑札名義書換及再渡手数料
 - 一 賣藥規則外製劑請賣免許又ハ行商免許手数料
 - 一 賣藥規則外製劑請賣免許又ハ行商免許鑑札名義書換及再渡手数料
- 一方ニ付金貳拾錢
一回ニ付金拾錢
一方ニ付金拾錢
一回ニ付金拾錢

第二條 前條ノ手数料ハ出願ノ時之ヲ徴收ス

附 則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(通牒 照 覆)

●鼠取蠅取藥ニ礬石ノ類調合禁止ノ件

(明治五年五月三日太政官布告第一四二號)

鼠取或ハ蠅取藥ト唱ヘ礬石ノ類ヲ調合致シ世間ニ賣買致來候處自今令禁止候事

●動物ニ寄生スル虫類驅除劑販賣方ノ件

【通】(明治三十九年五月内務省衛甲第一一九號各地方長官へ)

動物ニ寄生スル虫類驅除劑販賣方ノ儀ニ關シ別紙甲號ノ通牒專賣局ヨリ照會ニ付乙號ノ通り回答候條爲念此段及通牒候也

(甲 號)

動物ニ寄生スル諸害虫驅除ノ目的ヲ以テ販賣スヘキ藥劑ハ總テ賣藥部外品取締規則ニ依リ各府縣ニ於テ相當取締相成候條及聞候處今回當局ニ於テモ煙草製造上廢棄ニ歸スヘキ煙草ノ葉莖及屑葉等ヲ利用シテ越幾斯ヲ製出シ專ラ各種農作物ノ害虫及家畜家禽ノ皮膚羽毛等ニ寄生スル虫類驅除劑トシテ賣下致度見込ニ有之候ニ付若シ普通民製ニ係ル諸殺虫劑ト同様賣藥部外品取締ノ規則ニ拘束セラル、ニ於テハ自然需要者ニ非常ノ煩雜ヲ與ヘ隨テ賣下方ニ關シテモ影響不尠義ト思料候間自由販賣方ニ關シ一應御意見相同度製法及用途書相添此段及御照會候也

一 製法 細斷セル煙草ノ葉莖又ハ葉屑ヲ冷水又ハ熱湯ヲ以テ浸出シ其浸出液ヲ壓搾濾過シ(此際ボイメーノ暗褐色液)更ニ真空鍋若クハ適當ノ蒸發鍋中ニテ濃厚ナラシメ「ボイメー」比重計四十度内外ノ暗褐色汁トナル)利別様液トナシ一昕又ハ一基瓦入ノ玻璃壺又ハ鐵葉罐入トナシ密閉シテ發賣ノ見込
前段蒸發スル水分中ニハ「ニコチン」ヲ含有スルヲ以テ適當ノ裝置ヲ以テ凝縮シ其ノ液ハ浸出ニ再用ス
右舍利別様生産品ノ重量百分中二内外ノ「ニコチン」ヲ含有ス
近距離ハ需要者ノ希望ニ依リテハ浸出液ヲ濃厚ナラシメ「ボイメー」比重計一度内外ノモノトシ之ニ石炭酸等適量ノ防腐劑ヲ加ヘ大ナル鐵葉容器ヲ以テ販賣スルコトアルヘシ

一用途 四十度濃厚液ニハ百倍乃至二百倍ノ水ヲ加ヘ稀釋シ各種農作物ノ害虫及家畜家禽ノ皮膚羽毛ニ寄生スル虫類驅除ニ供ス
一參考 獨逸ヨリ本邦ニ輸入スル Tabac Extract ハ前者ト製法同一ナリ
(乙) 號
動物ニ寄生スル諸害虫類驅除劑販賣方ノ義ニ關シ本年三月二十六日附乙第一五九二號ヲ以テ御照會ノ處右ハ任意販賣相成差支無之依命此段及御回答候也

●水銀配伍ノ賣藥部外品「しらみうせ」懷中紐許否ノ件

(明治四十年二月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(明治四十年一月二十五日山梨縣知事ヨリ衛生局長へ)
水銀配伍ノ賣藥規則外品出願ノ者有之候右ハ賣藥検査心得ニ依レハ劇藥ノ部ニシテ許可難相成モノニ有之然ルニ明治二十五年一月日本藥局方改正ノ際普通藥ニ編入セラレタルニ付用量ノ程度ニ依リテハ許可無差支モノト被存候得共貴局御意見一應承知致度果シテ差支ナキモノトセハ其用量併セテ承知致度此段及照會候也

【照】(明治四十年二月衛生局長ヨリ)
水銀配伍ノ賣藥規則外品許否ノ儀ニ付客月二十五日付梨衛收第二七五號ノ一ヲ以テ御照會ノ處右ハ如何ナル目的ニ使用スルモノニ有之候哉其製法用法ヲモ併セテ承知致度此段及照會候也

【答】(明治四十年二月山梨縣知事ヨリ)
梨第一一號ヲ以テ御照會ニ依ル水銀配伍ノ賣藥ノ件別項ノ通りニ付及御回答候也

- 一、使用ノ目的 出願セシ方名ハしらみうせ懷中紐ト稱シ衣服ニ生スル蟻虱ヲ除去スルニ在リ
- 一、製法 水銀三匁、砂糖三匁 布糊七匁ニ水四合ヲ加ヘテ煎シ其中へ晒木綿一反(二丈五尺)ヲ百筋裂キ漬シ而シテ之ヲ乾燥シテ製ス但シ一筋ノ量ハ水銀三厘砂糖三厘布糊七厘ノ割合ナリ
- 一、用法 (略ス)

【答】(明治四十年二月二十日衛生局長ヨリ)
水銀配伍ノ賣藥規則外品しらみうせ懷中紐許否ノ儀ニ付客月二十五日付梨衛收第二七五號ノ一ヲ以テ御照會ノ處右ハ危害ヲ生スル虞有之候ニ付許可不相成可然ト被存候此段及回答候也

●殺鼠劑スルフオナール配伍許否ノ件

【照】(明治四十三年六月二十五日長崎縣知事ヨリ衛生局長へ)

本年五月二十三日附衛第三二號ノ内ヲ以テ藥品「スルフオナール」ヲ賣藥部外品タル殺鼠劑ニ配伍差支ナキ旨御通牒ノ處右賣藥部外品ニ關シテハ各府縣ニ於テ取締規則ヲ制定シ賣藥規則ト同シク毒劇藥ハ勿論普通藥タル水銀ト雖モ賣藥検査心得ニ準シテ一切許可セサル方針ト相容レサルコト、相成取扱上困難不尠ニ就テハ御意見承知致度此段及照會候也

【答】(明治四十三年七月五日内務省衛生局長ヨリ)
藥品「スルフオナール」ヲ賣藥部外品タル殺鼠劑ニ配伍許可ノ件ニ付本年六月廿五日附御照會ノ處右ハ

ベスト豫防上相當有効ナルヲ以テ使用上危険ナキ様調製シタルモノニ限り發賣セシムル趣旨ニ付水銀劑ノ如キハ從前ノ通御取締相成度此段及回答候也

(參照)五月廿三日附通牒ノ要旨左ノ如シ

「問」劇藥「スルフオナール」ヲ配伍シ左記ノ如キ調製法用法ノ殺鼠劑ハ許可セラル、ヤ

左記

スルフオナール 〇・五
澱粉 一・〇

以上一味混合シ二包ニ分チ一袋トス

一包ヲ飯粒三十粒位ト煉合シテ一塊トナシ厚紙又ハ板片ニ塗布シ鼠ノ通路ニ配置ス

「答」誤用ナキ様尙他ノモノヲ加味シタルモノハ許可セラル

●殺鼠劑ニ重クローム酸カリウム配伍許可否ノ件

【照】(明治四十四年三月二十一日德島縣知事ヨリ衛生局長へ)

殺鼠ノ目的ヲ以テ退鼠散ト稱シ貝殼粉百分ニ對シ重クローム酸カリウム五分ヲ混合セル賣藥規則ハ藥劑ヲ許可出願スルモノ有之候處右ハ取扱上失誤ヲ生シ易キモノトシテ許可スヘキモノニ無之モノト思料候得共聊カ疑義ノ點有之候付テハ一應貴局ノ御意見承知致度至急何分ノ御回報相煩度此段及照會候也

【答】(明治四十四年四月四日衛生局長ヨリ)

殺鼠劑中ニ重クローム酸カリウム配伍許可ノ儀ニ付去月二十一日警衛第一一七五號ノ一ヲ以テ御照會ノ

趣了承右ハ御來示ノ通り許可スヘキモノニ無之ト被存候此段及回答候也

●賣藥部外品ニ輕粉配伍許可否ノ件

(大正四年六月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正四年六月三日滋賀縣知事ヨリ衛生局長へ)

左記照會候也

賣藥部外品毛しらみ藥ニ左記方劑ヲ出願セルモノアリ右ハ許可差支無之哉貴局ノ御意見承知致度候

記

方劑

一、サリチール酸 三匁五分五厘

一、輕粉 四分五厘

一、雲母 六匁

以上三味十匁ヲ調合散藥トナス

主治効能

一、頭ノ毛虱、下ノ毛虱及牛馬、犬猫等總テ毛中ニ生スル時附テ去ル事奇妙ナリ

用法 (略ス)

【答】(大正四年六月十一日衛生局長ヨリ)

輕粉配伍ノ賣藥部外品許可ノ儀ニ付本月三日附衛第三七七三號ヲ以テ御照會ノ處右ハ許可スヘキモノニ無之ト被存候條此段及回答候也

●賣薬部外品「ピクリン酸」配伍許否ニ關スル件

(大正五年二月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正五年二月二日佐賀縣知事ヨリ衛生局長へ)

左記方劑ヲ賣薬部外品トシテ出願スルモノ有之候處許可差支無之哉貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

左記

製法

デシンフエクトール

七五〇瓦

除蟲菊粉末

一〇〇〇瓦

鯨魚

五〇〇〇瓦

樟腦

五〇〇瓦

ピクリン酸

二〇〇瓦

水

一斗五升

右混和シシヨロ又ハ噴霧器ヲ用ヒテ灌注ス

効能

果樹、蔬菜ノ蚜蟲、青蟲、さるは蟲ヲ驅除ニ効アリ

【答】(大正五年二月十八日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ本月二日附衛第三五一號ヲ以テ御照會ノ處右ハ許可スヘキモノニアラスト被存候

●賣薬部外品ニ硫酸銅配伍許否ノ件

(大正五年八月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正五年七月十五日長崎縣知事ヨリ衛生局長へ)

果樹園害蟲驅除用製劑ニハ硫酸銅ノ分量何程迄配合差支無之哉貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

【答】(大正五年八月二日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ七月十五日附衛第三七七〇號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ普通使用ノ分量範圍ニ於テ配伍許可相成可然ト被存候

●賣薬部外品杉根又ハ硝石配伍許否ノ件

(大正五年十二月二日衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正五年十一月九日滋賀縣知事ヨリ衛生局長へ)

左記及照會候也

賣薬部外方劑中左記ノ如キ杉根又ハ硝石等ヲ配合シ出願セル者有之候處許否ニ付疑義相生シ候條一應貴局ノ御意見承知致度候

左記

方劑

一、清酒ニ酒香油

木香附

第五章 賣薬及賣薬部外類似品

杉 三百匁
根 三百匁
計 五百匁

本劑ハ杉ノ根ヲ削リ之ニ水及重曹ヲ加ヘ蒸餾器ヲ以テ蒸餾シ油液量二十匁ヲ得
本劑二十匁ヲ以テ清酒十石量ニ使用スルノ分量トス

一、酒類除治酸

重 硝石 六十五匁
曹 五十五匁

前項二品ノ内硝石ヲ能ク粉碎シ重曹ト混和シ調製ス

酸味ノ輕重ニ依リ本劑百二十匁ヲ以テ清酒及火落酒ハ二石乃至三石ヲ醱ハ一石乃至一石五斗ヲ醬油ハ
三石乃至五石ヲ味噌ハ五貫目乃至七貫目ヲ奈良漬ハ三貫五百目乃至五貫目ヲ何レモ適量トス

【答】(大正五年十二月一日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ本月九日附衛發第三三七號ヲ以テ御照會ノ趣了承第一方劑酒香油ハ許可相成可然ト被存候得
共第二方劑酒類除治酸ニアリテハ許可無之方可然ト被存候

●驅蟲用粉烟草販賣ニ關スル件

(大正六年五月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正六年四月二十四日專賣局長官ヨリ衛生局長へ)

當局所管煙草製造官署ニ於テ煙草製造ノ際生出スル多量ノ粉煙草及中骨、葉屑等ハ專賣取締ノ趣旨ニ添
フヘキ處理ヲ施シテ民間ニ拂下ケ相當利用セシメ居候處偶々農作物害蟲驅除ノ目的ニ使用スル煙草越幾
斯及ヒ粉煙草ノ賣渡ヲ要望スルモノアリ當局ニ於テモ煙草ヲ越幾ストナシタルモノハ專賣取締ト何等懸
念ナク粉煙草ハ簡易ノ加工ヲ施シテ取締ノ目的ヲ達スヘキヲ認メ別紙記載ノ如ク驅除用ノ名稱ヲ冠シ發
賣スルニ至リ候而シテ煙草越幾發賣ノ際ハ貴局ノ御見込(明治三十九年三月二十六日乙第一五九二號
ヲ以テ當局ヨリノ照會ニ對シ同年五月十八日內務省衛甲第二九號任意販賣差支ナシトノ回答)ニ基キ處
理致候モ粉煙草ハ單ニ煙草ノ粉末ニ過キス且喫煙防止ニ使用スル混合劑モ別紙記載ノ如ク少量ノ非毒物
ニシテ當然任意販賣差支ナキモノト認メ何等御意見ニ依ラス販賣方取計リタル次第ニ候然ルニ今般廣島
專賣支局ノ申報ニ依レハ山口縣警察部ニ於テハ刻煙草ノ粉末ニ他物ヲ配伍シテ製出シタルモノハ煙草製
劑ニシテ明治四十五年五月內務省令第五號毒物、劇物營業取締規則第一條ニヨル毒物、劇物品目中劇物
ノ部類ニ屬スルヲ以テ毒劇物營業者ニ非サレハ販賣讓渡スルコトヲ得サルモノト解シ從テ本劑ハ同年同
月內務省令第七號ヲ以テ指定セラレタル家事用劇物ノ品目中ノ煙草製劑トシテ取締中ノ趣果シテ然リト
セハ需用者ハ購買上年齡其ノ他ノ制限及取扱上載置所、専用器具ノ制限ヲ受クルノ不便ヲ來シ又容器ノ
制限其他ニヨリ價格ノ昂騰ヲ免レサルヘク使用ヲ躊躇シ從ツテ殖産上ノ打擊ト相成候而已ナラス行政上
ノ處分トシテモ煙草越幾斯ノ取扱ト權衡ヲ失スルヤニ被認候間至急山口縣廳へ可然御通牒相成様致度御
協議旁此段及照會候也

追テ山口縣下ニ於テ多數ノ販賣人等本文警察部ノ意見ニヨリ甚タシキ迷惑ヲ被リ居候場合ナルヲ以テ
大至急御詮議相煩度候

驅蟲用粉煙草ニ關スル調書

一、驅蟲用粉煙草ノ種類

第五章 實業及實業部外類似品

(一) 燻煙撒布用

(二) 撒布用

一、同原料配合割合

(一) 燻煙撒布用

(二) 撒布用

一、同裝置方法

何レモ「ボール」紙筒入ニシテ燻煙撒布用ハ二百匁入、撒布用ハ二百匁入及五百匁入ノ二種トシ二百匁入ハ二十七個(五貫四百匁)五百匁入ハ十二個(六貫匁)入ヲ以テ一本箱詰トス

一、同用法

燻煙撒布用ハ溫室内ニ於テ點火燻煙セシメ又ハ植物ニ撒布シ撒布用ハ單ニ植物ニ撒布スルモノナリ

一、同價格

燻煙撒布用ハ二百匁八錢、一本箱入貳圓、撒布用ハ二百匁入七錢、一本箱入壹圓七拾八錢、五百匁入拾貳錢、一本箱入壹圓參拾八錢トス

一、同需用高

大正五年度實蹟五萬三千餘貫匁

【答】(大正六年五月十五日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ客月二十四日乙第四一三號ヲ以テ照會ノ趣了承右ハ煙草製劑ト認ムヘキモノニアラスト被存候條御承知相成度

追テ煙草越幾斯ハ煙草製劑ト認ムヘキモノニシテ明治四十五年五月内務省令第五號毒物、劇物營業取締規則及同月内務省令第七號發布ノ結果明治三十九年三月二十六日乙第一五九二號貴局照會ニ對スル

同年五月十八日内務省衛甲第二九號回答ハ自然消滅シタル義ニ有之又粉煙草ハ毒物、劇物取締規則ニ依ル取締ヲ受クルニ及ハストスルモ驅蟲ニ用フルモノハ賣藥部外品トシテ往々取締ル府縣モ有之候條爲念申添候也

● 雜藥「のみどり液」許否ニ關スル件

(大正六年十月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正六年八月二十二日秋田縣知事ヨリ衛生局長へ)

左記雜藥出願シタルモノ有之候處許可シ可然哉貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

左記

一、のみどり液

配合分量 除蟲菊四五〇〇瓦 酒精四五〇〇瓦 ナフタリン一〇〇瓦 桂皮油三三〇瓦 硝基

ペンツオール三三〇 水七八〇〇

用法用量 (略ス)

効能 蚤、毛虱、頭虱等ヲ驅除及撲滅ス

【答】(大正六年十月四日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ八月二十二日附秋發衛第二〇七一號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ許可相成可然ト被存候

● 炭酸バリウムヲ主藥トセル殺鼠劑販賣許否ノ件

(大正七年七月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正七年六月二十六日和歌山縣知事ヨリ衛生局長へ)
殺鼠劑トシテ左記藥品(炭酸バリウムヲ主藥トシテ)ヲ配合シ賣藥部外品トシテ發賣許可出願ノ者有之候
處右ハ賦形藥トシテ蕃椒末ヲ加味シ比較的誤用ノ虞少ナキモノト被認候條免許差支無之候哉許可制限量
共御意見承知致度此段及照會候也

記

- 一、方名 イチヤマ 鼠取藥
- 一、藥味分量 炭酸バリウム〇〇・〇五 蕃椒末〇〇・〇五 焦麥粉〇・七
- 一、製法 右混和シ一包トス
- 一、用法 (略ス)
- 一、効能 殺鼠

【答】(大正七年七月十日衛生局長ヨリ)
本件ニ關シ客月二十六日付衛第四五二〇號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ主藥タル炭酸バリウムノ量ヲ十分
以下トシ蕃椒末約四十分ヲ加味セシメテ御許可相成可然ト被存候

●賣藥部外品「火落酒復活料、稻苗害蟲豫防藥」
許否ノ件

(大止八年二月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正七年十二月十九日廣島縣知事ヨリ衛生局長へ)
左記方劑ヲ賣藥部外品トシテ出願シタル者有之候處右ハ許可スヘカラサルモノト認メラレ候得共一應貴

局ノ御意見承知致度候

記

- 一、名稱 火落酒復活料
- 一、原料品及分量 火落酒一升ニ對シ本品ノ配合量
 - 柿タンニン液 一・五
 - 葡萄液 一・五
 - 炭酸加里 三・〇
 - 沈降磷酸加里 〇・〇二
 - 礬土 〇・〇一
 - 麥粉末 一・〇〇
 - 馬鈴薯粉末 〇・〇一
- 一、調製方法 (略ス)
- 一、効能 火落酒ノ濁ヲ澄シ酸味ヲ除去ス
- 一、用法 (略ス)
- 一、名稱 稻苗害蟲豫防藥
- 一、原料 あせびノ枝葉
- 一、調製方法 右原料品二千瓦ニ水二萬瓦ヲ入レ煎シ詰メ之ヲ濾過シ更ニ此液ヲ重湯煎上ニテ「エ
キス」百瓦ヲ製ス
- 一、効能 ナカザシ、サバエ、ウンカ等稻ニ發生スル諸蟲ヲ驅除スヘシ
- 一、用法及用量 (略ス)

【答】(大正八年二月二十八日衛生局長ヨリ)
客年十二月十九日附衛第六五三八號ヲ以テ標記ノ件御照會之趣了承右ハ何レモ許可スヘキモノニ無之ト被存候

●賣薬部外品「魚類防腐劑」トシテ藥品沃度配伍
許否ノ件

(大正八年十月衛生局長ヨリ各地方長官ヘ)

【照】(大正八年九月二十三日北海道廳長官ヨリ衛生局長ヘ)
左記方劑ヲ魚類ノ防腐用賣薬部外品トシテ出願シタル者有之候處其藥味中沃度ハ許可スヘカラサルモノト思考セラルモ其配合分量少量ナルカ故ニ一應貴局ノ御意見承知致度候

- 一、名稱 カルボツタース
- 一、原料品及分量
 - 重炭酸ナトリウム 六十匁
 - 硝酸カリウム 六十匁
 - ヨード 六厘
- 右分量ヲ以テ一劑量トス
- 一、用法用量 鹽一貫目ニ付本劑千匁ヲ混シ適宜量ヲ使用
- 一、効能 魚類ノ防腐

【答】(大正八年十月二十七日衛生局長ヨリ)
客月二十三日附衛第一〇〇八〇號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ趣了承右ハ許可スヘキモノニ無之ト被存候

●賣薬部外品配伍許否決定藥品

△許可ノ部

(原料品名)	驅蟲用トシテ	年月日	何處府縣名
除蟲菊成分(ピントロン)	驅蟲用トシテ	大正三年七月	大阪府
チアミノフェニールズルフォ	染毛料トシテ	同	同
四 鹽 化 炭 素	驅蟲防腐劑トシテ	同十四年四月	同
ハラヂクロール	防臭驅蟲トシテ	同 五月	同
ヂクロールベンツオール	同	同	同
油 酸 亞 鉛	硫酸亞鉛ニ準シテ	同	同
アンスラセン硫酸銅水溶液	農作物種子消毒用トシテ	同 八月	同
石炭酸低溫 攝氏四百五十	乾餾テール 防臭除蟲劑トシテ	同 九月	同
乃至六百度	防臭除蟲用	同	同
ウルゾール(二三五分ノフェ	同	同	同
ニールヲ含有ス	粉末トシテ何首烏末ト混和強壯劑	同 十二月	徳島縣

第五章 賣薬及賣薬部外類似品

第六章 飲料、飲食物等

第一節 清涼飲料

●清涼飲料水營業取締規則

(明治三十三年六月五日內務省令第三〇號【最近】大正十二年三月七日內務省令第七號改)

第一條 本則ニ於テ清涼飲料水ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル「ラムネ」、「リモナーデ」(果實水、薄荷水及桂皮水ノ類ヲ含ム)曹達水及其ノ他炭酸含有ノ飲料水並果實汁、果實蜜及之ニ類似スル製品ニシテ稀釋シテ飲用ニ供スルモノヲ謂フ

清涼飲料水營業者ト稱スルハ清涼飲料水ノ製造(清涼飲料水ニ供スル「泉」販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ)

第二條 清涼飲料水製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ製造場ノ構造、設備及用水ヲ検査セシムヘシ

第三條 清涼飲料水營業者ハ飲料水ニ接觸スル部分ヲ銅、鉛又ハ其ノ合金ニテ製シタル調製器、容器又ハ量器ヲ使用スルコトヲ得ス但シ鍍錫其ノ他衛生上有害ノ虞ナキ方法ヲ施シタルモノハ此限リニ在ラズ

第四條 清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ製造又ハ貯藏ニ有害性「テール」色素、「サツカリン」其ノ他人工甘味質、有害性芳香質又ハ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス

「テール」色素ハ前項以外ノモノト雖モ製造地地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 清涼飲料水營業者ハ左ノ清涼飲料水ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若クハ貯藏スルコトヲ得ス

- 一、瀾濁又ハ變敗シタルモノ
- 二、沈澱物又ハ固形ノ夾雜物アルモノ
- 三、鹽酸、硝酸及硫酸其ノ他遊離鹽酸ヲ含有スルモノ
- 四、砒素、安知母紐、鉛、亞鉛、銅、錫ヲ含有スルモノ
- 五、有害性其ノ他製造地又ハ輸入地地方長官ノ許可ヲ受ケサル「テール」色素ヲ含有スルモノ
- 六、「サツカリン」其ノ他人工甘味質ヲ含有スルモノ
- 七、有害性芳香質ヲ含有スルモノ
- 八、防腐劑ヲ含有スルモノ

果實汁、果實蜜及之ニ類似スル製品ニシテ稀釋シテ飲用ニ供スルモノ、中原料トシテ使用スル果實ノ類、砂糖及水ノ他物ヲ混和セサル製品ニ於テハ前項第一號及第二號ノ規定ハ原料植物ノ組織及成分ニ基因スル場合ニ限リ之ヲ適用セス但シ變敗シタルモノニ就テハ此ノ限リニ在ラス

第六條 清涼飲料水製造者ハ其氏名、社名、營業所ノ所在並製造年月日ヲ記載シタル票紙ヲ以テ清涼飲料水ノ販賣スル容器ヲ封緘スヘシ但シ地方長官ニ於テ許可シタルモノニ就テハ此限リニアラス

第七條 清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ調製器、容器、量器及製造場其ノ他清涼飲料水ヲ取扱フ場所ヲ常ニ清潔ニ爲スヘシ

第八條 清涼飲料水營業者ハ結核、癩病、微毒及傳染病ニ罹レル者ヲシテ清涼飲料水ノ調製若クハ小分ヲ爲サシメ又ハ其ノ場所ニ立人ラシムルコトヲ得ス清涼飲料水營業者ニシテ其ノ疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス

第九條 地方長官ハ第三條ノ器具、第五條ノ清涼飲料水ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得、本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第十條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十一條 清涼飲料水營業者虛偽ノ記載ヲ爲シタル封緘票紙ヲ貼用シ若クハ貼用セシメタル者又ハ封緘票紙ニ虛偽ノ改竄ヲ爲シ若クハ爲サシメタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十二條 左ニ掲クル者ハ十五圓以下ノ罰金ニ處ス
一、認可ヲ受ケスシテ第二條ノ營業ヲ爲シタル者
二、第三條乃至第五條ニ違背シタル者

第十三條 第六條乃至第八條ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 清涼飲料水營業者力未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限りニアラス

清涼飲料水營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カル、コトヲ得ス
法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規

定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス
法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第十五條 本則ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ「ラムネ」ニ關シテハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 地方長官ハ清涼飲料水ノ製造場ノ構造、設備及管理方法ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十七條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●清涼飲料水營業取締規則施行細則

(明治三十八年五月二十五日大阪府令第四七號【最近】大正五年七月同府令第四七號改正)

第一條 清涼飲料水製造營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

- 一、製造場ノ位置、敷地及建物ノ坪數
- 二、製造附近ノ見取圖、建物ノ配置圖、平面圖、外面圖及構造仕様書
- 三、製造品ノ種類、製造方法ノ使用器械ノ名稱並用法
- 四、用水汲取場
- 五、容器ノ種類及其ノ見本
- 六、鑛泉採取場及其ノ採取方法

七、工事落成期日

建物ノ改築、増築、變更又ハ修繕ヲ爲サムトスルトキハ前項中關係ノ事項ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ他ノ各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
製造機械ノ構造ニ依リ一定ノ製造場ヲ要セサルモノハ第一項第一號、第二號及第七號ノ事項ヲ具スルヲ要ス

第二條 清涼飲料水製造場ハ左ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ認可セス

- 一、衛生上位置不適當ト認ムルトキ
- 二、建物ノ構造堅牢ナラス又ハ一箇所ノ建坪十坪未満ナルトキ
- 三、用水供給充分ナラス又ハ其ノ水質ノ不良ナルトキ

第三條 清涼飲料水製造場ハ左ノ設備ヲ爲スヘシ

- 一、他室ト區別ヲ設ケ地盤ハ板石敷、煉瓦敷若クハ漆喰叩トシ側壁及天井ハ板張ト爲スコト
- 二、水ノ供給ヲ充分ナラシメ且ツ適當ノ排水装置ヲ爲スコト
- 三、蠅類及塵埃等ノ侵入又ハ附着ヲ防ク装置ヲ爲スコト

前項ノ設備ハ之ヲ有効ニ保持スヘシ

第三條ノ二 當廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ清涼飲料水ノ製造場又ハ製造機械ニ對シ其ノ改修若クハ別

段ノ設備ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 工事竣成シタルトキハ當廳ニ届出検査ヲ受クヘシ工事ニ付特ニ指示シタルトキ亦同シ

前項ノ工事ヲ適當ト認ムルトキハ當廳ニ於テ検査證ヲ交附ス

工事竣成スルモ其ノ検査證ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

検査證ハ場内暗易キ場所ニ之ヲ掲クヘシ

第五條 清涼飲料水製造場ヲ他ノ目的ニ使用セムトスルトキハ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 清涼飲料水ノ調製又ハ小分ケ等ニ従事スル者ハ就業中常ニ身體ヲ清潔ニシ且清淨ナル白地ノ帽子及外衣ヲ着用スヘシ

第七條 警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ清涼飲料水ノ調製又ハ小分ケ等ニ従事スル者ニ對シ指定シタル醫師ノ健康證明書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第八條 清涼飲料水ノ容器ニ封緘ヲ施サスシテ販賣セントスルトキハ其ノ製造販賣方法又ハ容器ノ種類ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル者ハ住所氏名ヲ記載シタル票紙ヲ容器ニ貼付スヘシ

他府縣ニ於テ封緘省略ノ認可ヲ受ケタル清涼飲料水ヲ府下ニ輸入シ販賣セムトスルトキハ當該指令書寫ヲ添ヘ豫メ當廳ニ届出ツヘシ

第九條 (削除)

第十條 清涼飲料水營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一、容器ハ完全ニシテ内容ノ透視ヲ妨ケサルモノヲ使用スルコト
- 二、容器ノ木栓ハ清淨ニシテ安全ナルモノヲ使用スルコト
- 三、容器ニ貼付スル票紙ハ小形ノモノヲ用ヒ内容ノ透視ヲ妨ケサルコト
- 四、容器及飲用器具ハ蠅類及塵埃等ノ附着セサル様注意スルコト
- 五、客ニ使用スル飲用器具ハ使用毎ニ淨水ニテ洗滌スルコト

第十一條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ製造營業者ハ當廳ニ届出ツヘシ

- 一、營業ヲ廢止若クハ休止シタルトキ
- 二、製造場ヲ繼承セムトスルトキ

三、營業者ノ死亡(法人ニ在リテハ解散)シタルトキ
 四、検査證ヲ毀損、亡失シ又ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキ
 五、製造場ノ燒失崩壞其ノ他變災ニ罹リタルトキ
 前項第二號ノ場合ニ於ケル届書ニハ雙方連署シ若シ連署シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具スヘシ
 第一項第三號ノ場合ハ戶籍法上ノ届出義務者、法人ノ解散シタル場合ハ清算人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第一項第二號、第四號ノ場合ニ於テハ検査證再下附ヲ受クヘシ

第十二條 當廳ニ差出ス願届ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ但シ第八條第二項ノ場合ニ於テ所轄警察官署ヲ經由スル能ハサルトキハ此ノ限リニ在ラス

第十三條 六箇月以上休業シ又ハ設置認可ノ後一箇年以内ニ工事ニ着手セス又ハ落成期日ヲ過キ落成セサルトキ又ハ本則若ハ本則ニ基キテ爲ス處分ニ違背シタルトキハ當廳ニ於テ認可ヲ取消スコトアルヘシ製造場設置認可後ニ於テ第二條ニ該當スルニ至リタルトキ亦同シ

第十四條 本則第一條第二項、第三條第一項、第四條第一項第三項第四項、第五條、第六條、第八條、第十條、第十一條第一項第四項ニ違背シタル者及第七條ニ背キ健康證明書ヲ提出セサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十五條 前條ノ科料ハ法人ニ在リテハ其ノ代表者、十二年未滿ノ者又ハ禁治産者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ代リテ適用ス

附 則

第十六條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 明治三十三年六月府令第四十號清涼飲料水營業取締規則施行細則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十八條 本則施行前ニ認可ヲ得タル清涼飲料水製造販賣業者ハ明治三十八年七月三十一日迄ニ更ニ本則ニ依リ認可ヲ受クヘシ此ノ手續ヲ爲ササルモノハ認可ノ効ヲ失フモノトス

●清涼飲料水營業取締規則施行細則執行手續

(明治三十八年六月大阪府警察部長訓示第一五號)

(本文略ス)

●葡萄蜜其他取締方ノ件

(明治三十七年四月衛甲第七〇一號大阪府警務部長ヨリ各警察(分)署長ヘ)

近來葡萄蜜、レモン蜜、アンズ蜜等ト唱ヘ舍利別様ノ液ヲ製造販賣スルモノアルヤノ聞ヘ有之候處右ハ清涼飲料水トシテ相當取締ラルヘシ

(通牒照覆)

●清涼飲料水營業取締規則中改正ニ關スル件

【通】(明治四十三年七月衛第五三六六號衛生局長ヨリ各地方長官ヘ)

第六章 飲料食物等

今般清涼飲料水營業取締規則中改正相成候處「テール」色素中ニハ無害性ノモノ有之是等ハ必要ニ應シ
 使用ヲ許可シ可然ト趣旨ヲ以テ改正相成候次第ニ有之候得共該色素ハ其種類甚多ク既製品ニ付果シテ同
 レノ種類ノモノヲ用ヒタリヤ從テ無害ノモノナリヤヲ檢定スルハ至難ナル趣ニ付營業者ヲシテ先以テ其
 使用セントスル「テール」色素(輸入品ナルトキハ其使用シタル「テール」色素)ノ種類ヲ詳記出願セシ
 メ且之ニ試験用ノ現品ヲ添付セシメ願書記載ノ種類ト一致スルヤ否ヤヲ檢定シタル上許可セラレ而シテ
 許可後販賣ノ製品カ許可以外ノ「テール」色素ヲ含有セルヤ否ヤヲ取締上御注意相成様致度候而シテ「テ
 ール」色素中在記ノモノハ必要ニ應シ前記手續ニ依リ許可セラレ可然モ其他ノ「テール」色素若クハ之
 ヲ含有スル著色料ノ使用ヲ出願シ又ハ是等ヲ含有スル飲料水ノ輸入販賣若クハ是等ヲ含有スル原料ノ使
 用ヲ出願スル者アリタルトキハ當分ノ内一應當局ニ御打合せノ上許可相成度候又第六條第一項ノ改正ハ
 「クラウンコルク」(或ハ云フ下冠打)硝子玉栓等ヲ用フル「サイダー」「ラムネ」等ハ其製造場ノ構造設
 備製法等近來概シテ改良セラレ製品又相當持久力ヲ有スルニ至リ強テ之ニ製造年月日ヲ記載セシムルノ
 必要ナク而モ運搬又ハ販賣上多大ノ困難ヲ感シ候趣ニ付今回之ヲ改正セラレタル次第ニ有之依テ前記ノ
 趣旨御斟酌ノ上封緘省略ヲ許可セラレ可然候次ニ今回ノ改正中製造地又ハ輸入地地方長官ノ許可云々ト
 アルハ一旦製造地又ハ輸入地地方長官ニ於テ許可シタルモノハ他管内ニ於テハ更ニ許可其他ノ手續ヲ要
 セス販賣セシムルノ趣旨ニ有之候間御承知相成度尙第六條第二項ハ需用者ヲシテ製造原料ヨリ生シタル
 色相ト誤認セシムルノ弊ヲ防クノ趣旨ニ出テタル義ニ付貼紙ノ相當ナル位置ニ明瞭ニ記載セシムル様御
 取締相成度此段及通牒候也

一、赤 色

- (1)「フロキシ」Phloxin(「ヂクロール、テトラブROOM、フルオレスツエイン」ノ「カリウム」鹽類)
- (2)「エオジン」Eosin(「テトラブROOM、フルオレスツエイン」ノ「アルカリ」鹽類)

- (3)「エリトロジン」Erythrosin B 又「ヨードエオジン」B Jodeosin B (テトラヨード、フルオレ
 スツエイン)ノ「アルカリ」鹽類)
 - (4)「ローゼンガー」Rose bengale 又「ベンガールローゼ」Bengalrose (ヂクロール、テトラヨ
 ード、フルオレスツエイン)ノ「カリウム」鹽類)
 - (5)「アマラン」Amaranth 又「ハマトロート」Echrot NS又「ナフトールロート」N Naphtholrot
 S 又「ボルデー」Bordeaux S (二)ヂスルフオ酸(三、六)ノ「ナトリウム」鹽酸)
- 二、橙 黄色
- 「オレンジ」Orange I 又「アルフアナフトールオレンジ」d-Naphtholorange 又「トロペオリ
 ン」000一號、Tropäolin 000 Nr I (「スルフアニル酸アツオ、アルフアナフトール」ノ「ナトリウム」
 鹽類)

三、黄 色

- 「ナフトールゲルブ」Naphtholgelb S 又「シュウエーフェルゲルブ」S Schwefelgelb S 又「ア
 ニリンゲルブ」Anilingelb 又「チトロニン」Chitronin 又「ヤウネアチヂ」Jauneacide 「チニ
 トロ(二、四)ナフトール(一)スルフオ酸(七)ノ「カリウム」又ハ「ナトリウム」鹽類

四、青 色

- 「インヂゴヂスルフアチヂ」Indigodisulfacid (インヂゴヂスルフオ酸ナトリウム)

五、緑 色

- 「リヒトグリオン」F Lichtgrün S.F 又「ソイレグリュン」D Säuregrün D 又「ソイレグリュン、エ
 キストラ」Säuregrün extra (「メチール、ヂベンチール、ヂアトミ、トリフェニール、カルビ

●清涼飲料水營業取締規則改正ノ件

【通】(大正十二年三月二十六日衛第五三號衛生局長ヨリ各地方長官ヘ)
今般内務省令第七號ヲ以テ標記ノ取締規則改正ノ件公布相成候處右實施ニ關シテハ左記要項御了知ノ上
取締上遺憾ナキヲ期セラレ候様致度

記

- 一、果實汁果實蜜ニ類似スル製品ニシテ稀釋シテ飲料ニ供スルモノトハ植物ノ根、葉、種子等ヲ原料トシテ製造シタル「牛薔蜜」「薄荷蜜」「紅茶シロツブ」「珈琲シロツブ」ノ類ヲ指スモノト御承知相成度
- 二、第五條第二項ノ規定ニ該當スル製品ニ付テハ其ノ濁濁、沈澱物及固形夾雜物カ原料植物ノ組織及成分ニ基因スルモノナルヤ或ハ他ノ事由ニ基因スルモノナルヤノ鑑別ハ衛生上特ニ重要ト認メラル、ノミナラス右製品ハ製法ニ依リテハ比較的變敗シ易キ性質ヲ生スルヲ免レサルニ付製品ノ取締ヲ勵行スルト共ニ特ニ製造場ノ監督指導ニ留意セラレ兼ネテ規則第五條第二項ヲ適用スヘキモノト然ラサルモノトヲ豫メ區別シ店頭取締上ノ便宜ニ供スル様致度
- 三、「テール」色素ヲ含有スル清涼飲料水ニハ人工着色ノ文字ヲ明記スルヲ要スル規定ナルニ拘ハラス其ノ位置及字體ノ大サ等ニ於テ往々明記ト難認モノ尠カラス右ノ規定ハ改正規則第五條第二項ノ規定ニ該當スル製品ト他ノ製品トノ區別ヲ判明ナラシムル上ニモ關係尠カラサル儀ニ付規定ノ文字ハ容易ニ認識シ得ル位置ニ明瞭ニ記載セシムル様督勵セラレ度

- 四、輸入製品ニシテ「テール」色素ヲ含有スルモノニ付テハ歐文ヲ以テ人工着色ナルコトヲ表示シアル場合ト雖モ人工着色ノ文字ヲ明記セシメラレ度
- 五、果實汁、果實蜜ニ關シ既ニ規則第二條ノ認可ヲ受ケ居ル者ニ對シテハ改正規則ニ據リ更メテ認可ヲ受クルヲ要セサルコトニ御取扱相成度

●アイスクリームハ清涼飲料水取締規則ノ範圍ニ入ルヘキヤ否ノ件

【照】(明治三十三年七月十六日衛第七五四三號)

飲食物アイスクリームハ清涼飲料水取締規則ノ範圍ニ入ルヘキヤ至急御指令アリタシ

【答】(明治三十三年七月衛生局長ヨリ)

アイスクリームハ清涼飲料水取締規則ノ範圍内ニアラスト思考ス

●固形及粉末「ラムネ」ニハ清涼飲料水取締規則ヲ適用スルヤ否ノ件

【照】(明治三十四年六月十二日埼玉縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

固形又ハ粉末「ラムネ」ト稱シ酒石酸炭酸曹達炭酸マグネシア白糖芳香質等ヲ配伍シ水ニ溶和セサル製劑ノ販賣願出者有之右ハ清涼飲料水取締規則ニ據ルヘキモノニ候哉御意見承知致度候間至急御回報相煩

シ度此段及照會候也
【答】(明治三十四年六月二十日衛生局長ヨリ)
本月十二日付衛發第一二四號ヲ以テ固形ラムネニ關スル件御照會ノ趣了承右ハ清涼飲料水營業取締規則ニ依ルヘキモノニ無之ト被存候此段及御回答候也

●清涼飲料水ノ防腐劑ニ關スル件

【照】(明治三十四年六月二十八日香川縣知事ヨリ衛生局長ヘ)
清涼飲料水ニシテ撒爾失爾酸硼酸等ノ如キ防腐劑ヲ混有スルモノニ對シテハ相當取締中ノ處在々安息香酸盧利斯林等ヲ附加スルモノアリ右ノ安息香酸ノ如キハ祛痰藥ナルモ製造者カ調査スルノ目的ニシテ沈澱若クハ瀾濁ヲ豫防スルニ出スル以上ハ防腐劑ト認メ客年六月御省令第三十號清涼飲料水取締規則第九條ニ依リ相當措置シ可然哉目下差懸リタル儀有之候條至急何分ノ御意見相何度此段問合候也
【答】(明治三十四年七月四日衛生局長ヨリ)
客月二十八日付衛發第四二號ヲ以テ清涼飲料水中ニ混和スル安息香酸盧利斯林等ノ取締ニ關スル御問合ノ趣了承右ハ御意見ノ通御措置相成可然ト被存候此段及御回答候也

●桂皮油、酒精ヲ配伍シタル清涼飲料水取締ニ關スル件

【照】(明治三十五年五月和歌山縣知事ヨリ衛生局長ヘ)
清涼飲料水取締規則ニ關スル左記事項ニ付御意見承知致度候間至急御回答ヲ煩シ度此段及照會候也
左記

- 一、桂皮油酒精ノ二藥品ヲ等分ニ配伍シ之ヲ十瓦乃至十五瓦ノ小瓶ニ入レ一瓶ヲ二錢乃至三錢ニテ卸賣若ハ小賣營業ヲ爲スモノアリ其目的トスル處ハ主トシテ兒童ノ夏季飲料水ニ供スルモノニシテ何レノ店頭ニモ陳列販賣セリ右ハ清涼飲料水取締規則第二條ニ依リ取締ヲ爲スヘキ哉將又本劑ハ清涼飲料ノ原料ニシテ同條ノ範圍外ニ屬スルモノトシ自由ニ製造販賣セシムヘキ哉若シ之ヲ不問ニ置クトキハ從來規則ノ下ニ營業セル飲料水製造者ハ其繁雜ナル取締ノ羈絆ヲ脱シ比較的手數ト費用トヲ要セサル本品ヲ製造販賣スルモノ多ク遂ニハ取締ノ目的ヲ達スル能ハサルノ虞アリ
- 二、前段末段ニ依リ取締ヲ爲スヘカラストセハ本品二種ノ原料ハ日本藥局方所定ノ藥品ニ屬スルヲ以テ之ヲ混合販賣スルモノハ製藥者ト見做シ取締ルコトヲ得ヘキヤ

【答】(明治三十五年六月衛發第四二四八號衛生局長ヨリ)
客月二十九日付衛發第一六六號ヲ以テ桂皮油及酒精ノ二品ヲ配合シタルモノ販賣營業者取締ノ件ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ桂皮水ト見做シ清涼飲料水取締規則ニ依リ取締ルヘキモノト被存候此段及回答候也

●桂皮油、酒精ヲ配合シタル清涼飲料水取締ノ件

【照】(明治三十五年七月二十一日廣島縣知事ヨリ衛生局長ヘ)
近來坊間ニ於テ桂皮油酒精ノ二藥品ヲ配合シ即チ桂皮精ナルモノヲ作り販賣セルモノアリテ兒童等コレヲ買入レ水中ニ混シテ飲用セリ付テハ該品ハ桂皮ヲ作ルノ原料タルヲ以テ桂皮水ニ準シテ取締ルヘキモ

ノナリトノ説有之然ルニ明治三十三年六月内務省令第十三號第一條ニ記載アル清涼飲料水トハ幾分カ水ヲ配台スヘキモノニシテ單ニ桂皮油酒精ノ二種ヲ配合シタルモノヲ以テ清涼飲料水ト同一視ス可ラサルハ勿論ト存候若シ桂皮油酒精ノ配台物ヲ清涼飲料水ニ準シテ取締ラントセハ懷中ラムネ(砂糖ニ酒精又ハ枸櫞酸及橙皮油ヲ混シ壓搾シテ錠劑トナシタルモノ)蜜柑水原料(酒石酸又ハ枸櫞酸及橙皮油ヲ砂糖ニ混和シタルモノ)ノ如キモノ亦清涼飲料水トシテ取締ラサル可ラサルノ結果ヲ生スルヲ以テ現行法規ノ上ニ於テハ到底コレヲ不問ニ置クノ外無之ト認メ候得共貴省ノ御意見如何可有之乎至急何分ノ御回報相煩シ度此段及照會候

【答】(明治三十五年九月二十二日衛生局長ヨリ)本年七月二十一日付警坤第一二七號ヲ以テ桂皮油酒精ノ二藥品ヲ配伍シタルモノノ取締方ノ義ニ付御照會ノ趣了承右ハ桂皮水ト見做シ清涼飲料水營業取締規則ニ依リ取締ルヘキモノト被存候此段及回答候也
追テ懷中ラムネ、蜜柑水原料ノ如キハ取締規則ニ依ルヘキモノニ無之ト被存候

●清涼飲料水ニ酒精ヲ含有スルモノノ取扱方

(明治四十年十二月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(明治四十年十一月二十日愛知縣知事ヨリ衛生局長へ)清涼飲料水トシテ白葡萄酒ナルモノノ左記ノ如キ配台ニ依リ製造販賣ノ儀認可申請有之候處製造原料中ニ酒精ヲ加味スル場合ハ明治三十四年三月法律第八號及酒精含有飲料税法及同年八月勅令第六十五號酒精及酒精含有飲料税法施行規則ニ據ルヘキモノト思料セラレ候得共桂皮油及酒精ノ二藥品ヲ等分ニ配伍シタル飲料ノ販賣取締ニ關シ明治三十五年五月和歌山縣ノ照會ニ對シ同年六月五日付御回答ノ次第モ有之

物議相生シ候ニ付テハ至急何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

左記

製造原料

- 一、酒精四分
- 一、酒石酸七匁
- 一、葡萄酒四匁
- 一、煮沸水一斗
- 一、ザラメ砂糖七百匁

追テ和歌山縣ニ對シテノ御回答ハ桂皮油ニ酒精ヲ配伍スルモノニアラスシテ桂皮油ヲ溶解ス可キ目的ニ使用シタルモノト御承認相成タル義ニ無之哉併セテ相伺候

【答】(明治四十年十二月二十五日衛生局長ヨリ)

清涼飲料水中ニ酒精ヲ加味スルモノノ取扱方ノ義ニ付客月二十日衛發第九三五號ヲ以テ御照會之處右ハ清涼飲料水營業取締規則ニ據ルノ外油類ヲ溶解スル目的ヲ以テ酒精ヲ使用スルト否トニ關セス苟モ酒精ヲ含有スル清涼飲料水ハ酒精含有飲料税法ニモ據ルヘキモノト被存候條右様御了知相成度此段及回答候也

追テ桂皮油及酒精配伍ノ飲料取締ニ關シ明治三十五年六月和歌山回答ハ酒精及酒精含有飲料税法ヨリ見テ回答シタル義ニ無之候ニ付爲念申添候

●清涼飲料水ニ「サポニン」及之ニ類スル物質使用取締ノ件

(明治四十一年六月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(明治四十一年六月十九日廣島縣知事ヨリ衛生局長へ)近來「ラムネ」ニ持續的ニ泡起性ヲ與フル爲メ「サポニン」及之ニ類スル物質ヲ使用スルモノアリ右ハ清涼

飲料水取締規則以外ノ品ニ有之候得共之カ許否ニ關シテハ聊カ疑義相生シ候條何分ノ御回答相成度候

【答】(明治四十一年六月二十六日衛生局長ヨリ)
清涼飲料水「ラムネ」ニ「サボニン」及之ニ類スル物質使用許否之義ニ付本月十九日付衛第五三三九號ヲ以テ照會ノ趣了承右ハ亞硫酸ヲ含有スルモノニ付規則第五條ニヨリ御取締相成度此段及回答候也

●清涼飲料水原料「シヤンペンサイダー」及「パイ
ンアツプル」ヲ含有スルモノ取締方

(明治四十三年八月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(明治四十三年七月廣島縣知事ヨリ衛生局長へ)
本縣ニ於テ昨年來清涼飲料水原料タル芳香質ニ付試験セシ結果ニ依レハ「シヤンペンサイダー」「バインアツプル」ト稱スルモノハ殆ト皆「アミールアルコホル」ヲ含有致居リ候依テ規則第四條ニ牴觸スルモノト認メ其使用ヲ差止メ居候へ共府縣ニ依リテハ之ヲ許可セル向有之哉ニ及聞候果シテ然ラハ其取扱區々ニ涉リ取締上不都合ヲ生スル義ト存候ニ付御參考迄ニ此段申進候

【答】(明治四十三年八月衛生局長ヨリ)
清涼飲料水原料「シヤンペンサイダー」並ニ「バインアツプル」ト稱スルモノ取締方ノ儀ニ付客月七日附衛第三四七一號ヲ以テ御照會ノ趣了承篤ト調査候處右ハ本年三月三十一日發行衛生試験彙報第十一號中「シヤンペンサイダー」「エツセンス」試験成績記載ノ如ク本品中ニハ揮發油ノ外「アミールアルコホル」「エステル」ヲ含有スルモノニ付「アミールアルコホル」「エステル」ヲ以テ「アミール、アルコホル」同様有害性芳香質ト認ムルハ穩當ナラスト被存候此候及回答候也

●清涼飲料水類似品取扱方ニ關スル件

【照】(明治四十三年十二月十九日熊本縣知事ヨリ衛生局長へ)

左記ノ件ニ付取扱上疑義相生シ候ニ付貴官ノ御意見相同度此段及照會候也
一、寒天及砂糖ヲ水ニ溶解シ半流動體トナシ是ニ桂皮油若クハ薄荷油等ノ芳香質ヲ加ヘタルモノ又ハ砂糖質(單舍利糊度)ニ少量ノ有機酸及ヒ芳香質ヲ加ヘタルモノ等ハ清涼飲料水トシテ取締ルヘキモノナリヤ

【答】(明治四十三年十二月二十七日衛生局長ヨリ)

清涼飲料水類似品取扱方ノ義ニ付本月十九日付衛第一二八九號ヲ以テ御照會ノ趣了承寒天及砂糖ヲ水ニ溶解シ之ニ揮發油ヲ加ヘタルモノハ清涼飲料水ト看做シ又砂糖液ニ有機酸及芳香質ヲ加ヘタルモノハ清涼飲料水取締規則ニ依リ御取扱相成度此段及回答候也

●清涼飲料水ニ乳酸使用許否ノ件

(大正十二年二月十五日衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正十二年一月三十日茨城縣知事ヨリ衛生局長へ)
今般清涼飲料水原料ニ左記ノ通り乳酸ノ使用出願有之候處差支無之様認メラレ候へ共該乳酸ノ許否ニ付一應貴局ノ御意見何度尙許可差支無之候ハ、其ノ分量等承知致度

左記

砂糖	一貫匁
枸橼酸	十匁
乳糖	五十瓦
香料	五十瓦
ボルドーエス	二分
水	一斗三升六合

但シニ合壘六十六本ヲ製造ス
 【答】(大正十二年二月十五日衛生局長ヨリ)
 標記ノ件ニ關シ客月三十日附衛發第二六號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ許可差支無之モノト認メラレ候

●果實蜜類似品取扱方ニ關スル件

(大正十二年八月二十一日衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正十二年八月十三日衛第三九五二號和歌山縣知事ヨリ衛生局長へ)
 果實蜜ノ素ト稱シ清水、酒石酸、色素及之ニバナ、又ハイチゴ、レモン、ブドウエツセンスヲ加ヘタル濃厚液ヲ製造販賣届出タルモノ有之右ハ果實蜜ニ類似スル製品ト見做シ取扱可然哉何分ノ御回示相成度此段及照會候也

【答】(大正十二年八月二十一日衛保第四二三號衛生局長ヨリ)
 本件ニ關シ八月十三日衛第三九五二號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ御意見ノ通りニ被存候

●清涼飲料水著色料使用許否ノ件

【照】(明治四十三年七月二十七日兵庫縣知事ヨリ衛生局長へ)
 清涼飲料水營業者ニシテ「テール」色素ヲ含有スル「シナルコエツセンス」ノ使用届出テタル者有之候處右ハ獨逸國デットモルト市シナルコ株式會社製造ニ係ル「ノイコクチン」及「ゾイレゲンブ」ノ二種ヨリナリタルモノニシテ使用差支ナキモノト思料候モ該色素ハ本月十五日附内務省衛第五三六六號御通牒列記外ノモノニ付一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

【答】(明治四十三年八月二十四日衛生局長ヨリ)
 客月二十七日附御照會ノ清涼飲料水ニ「シナルコエツセンス」許否ノ件ハ使用セシムルモ差支ナシト存ス

●同上

【照】(明治四十三年九月二十一日千葉縣知事ヨリ衛生局長へ)
 テール色素ストロベリ植物性赤色素(ベセテブルレットカラリングマリー)ヲ清涼飲料水ニ配伍方出願者有之候處右ハ許可スルモ差支無之哉御回答相煩度本年七月十五日内務省衛第五三六六號ヲ以テ御通牒ノ次第モ有之候ニ付現品相添此段及照會候

【答】(明治四十四年六月十七日衛生局長ヨリ)
 清涼飲料水著色料ノ儀ハ客年九月二十一日附衛第五六四五號及本月十三日附衛第五六四五號ヲ以テ御照

會ノ處ノ植物性著色料ハ規則ニヨリ取締ルヘキモノニ無之候得共テール色素ストロベリート稱スルモノハ未タ其ノ本體ヲ證明シ得サルモノニ付許可スヘキモノニ無之ト被存候條右様御了知相成度此段及回答候也

●同 上

【照】(明治四十四年一月十三日北海道廳長官ヨリ衛生局長へ)
一、テール色素 ブラウン(BROWN) 獨逸國伯林アニリン染料製造合資會社製造
右テール色素ヲ清涼飲料水シヤンペンサイダーニ加味(水量一升ニ付一分弱)致度旨出願者有之候處本品ハ客年七月十五日附衛第五三六六號ヲ以テ御通牒相成タル品目以外ノモノト被認候ニ付テハ許否ニ關シ御意見承知致度候條何分ノ御回報相煩シ度此段及照會候
追テ別便ヲ以テ原品及御送附候條此段申添候也

【答】(明治四十四年七月七日衛生局長ヨリ)
清涼飲料水ニ「テール」色素使用許否ノ儀ニ付本年一月十三日附警衛第二〇一號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ衛生上害否不明ノモノニ付許可不相成方可然ト存候此段及回答候也

●同 上

(明治四十四年八月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(明治四十四年三月十六日廣島縣知事ヨリ衛生局長へ)
別封テール色素ヲ清涼飲料水著色料トシテ使用方願出ツルモノ有之候處許可差支ナキヤ御意見承知致度候

【答】(明治四十四年八月三日衛生局長ヨリ)
清涼飲料水著色料使用許否ノ儀ニ付本年三月十六日附衛第一、六〇九號ノ内ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ別封東京衛生試驗所試驗成績寫ノ通りボンゾールRニ該當スルモノニ付許可相成可然ト被存候此段及回答候也 (別紙略ス)

●同 上

(明治四十四年九月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(明治四十四年六月六日廣島縣知事ヨリ衛生局長へ)
清涼飲料水著色料トシテ「ボスボレタ」ナルモノ、使用ヲ出願セルモノ有之候ニ付試驗スルニ「テール」色素ヲ含有スルモノト被認候處右ハ許可シ可然哉御意見承知致度候

【答】(明治四十四年九月二十七日衛生局長ヨリ)
清涼飲料水著色料「ボスボレタ」ト稱スルモノ許否ノ儀ニ付本年六月六日附衛第二一八三號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ別紙衛生試驗所試驗成績寫ノ通り成分不明ニ付許可スヘキモノニ無之ト被存候此段及回答候也 (別紙略ス)

●同 上

【照】(明治四十四年九月六日宮城縣知事ヨリ衛生局長へ)
別紙テール色素ヲ清涼飲料水著色料トシテ使用致度趣出願ノモノ有之候處許可差支無之候哉御意見承知
致度此段及照會候也

【答】(明治四十四年九月二十七日衛生局長ヨリ)
清涼飲料水著色料ノ儀ニ付本月六日附衛發第七五三八號ヲ以テ御照會ノ處右ハ無害植物性色素ニ付許可
相成可然ト存候此段及回答候也

●同 上

【照】(明治四十三年八月十七日警視總監ヨリ衛生局長へ)
清涼飲料水營業者中左記著色料ノ使用方ヲ出願シタルモノ有之右ハ本年七月十五日附内務省衛第五三六
六號御通牒列記以外ノ著色料ナルヲ以テ其許否ニ關シ何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

左記

- 一、クロセインスカレット
- 一、マゼンダフクシン

【答】(明治四十四年十月五日衛生局長ヨリ)
清涼飲料水ニ使用スヘキ著色料許否ノ儀ニ付客年八月十七日附第一〇七〇號ノニヲ以テ御照會ノ趣了承
御送附ノ現品ニ付東京衛生試験所ヲシテ調査セシメ候處右ハ略ホ御來示ノ名稱ニ一致スルモ果シテ同一

色素ナルヤ否ヤハ不明ニ有之從ツテ該色素ハ之ヲ使用セシメサル様致度尤モ其ノ性状「クロイセンカレ
ツト及マゼンダフクシン」ニ一致スルモノハ衛生上無害ナルニ付許可相成可然ト被存候此段及回答候也

●同 上

【照】(大正二年二月十三日三重縣知事ヨリ衛生局長へ)
清涼飲料水著色料トシテ獨逸國ライプチツヒ・シムメル會社製造ノ赤色々素「スカーレット」使用方出願
スルモノ有之候處右ハ許可差支無之哉御意見承知致度候

【答】(大正二年四月十日衛生局長ヨリ)
本件ニ關シ本年二月十三日附衛發第一〇九四號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ「テール」色素中ノ「モノアツ
オ」簇色素ニ屬シ學術上已ニ證明セラレタル有害性色素ニハ該當セスト雖モ其ノ果シテ無害ナルヤ不明
ナルモノニ付許可相成ラサル様致度候

●同 上

【照】(大正二年六月四日島根縣知事ヨリ衛生局長へ)
清涼飲料水著色料トシテ「ローヤルゴールド」ナルモノ使用出願スルモノ有之候處之レカ使用許可可然哉
明治四十三年七月内務省衛第五三六六號御通牒ニ基キ原品相添へ此段及照會候也

【答】(大正二年七月十日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ客月四日附發衛第一六一號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ「アツオ」候ノ四種混合色素ニシテ衛生上無害ト稱シ難キモノニ付許可相成ラサル様致度候

●同 上

【照】(大正二年九月二十二日新潟縣知事ヨリ衛生局長ヘ)
清涼飲料水著色料トシテ薄荷著色劑及「ボールド」ノ二種使用方出願セルモノ有之候ニ付現品検査ヲ遂ケ候處「テール」色素ヲ含有スルモノト判決セラレ尙其成分ノ本體未詳ノ點モ有之許否決シ兼候條貴局ノ御意見承知致度此段及御照會候也

【答】(大正二年十二月五日衛生局長ヨリ)
本件ニ關シ本年九月二十二日附衛收第七六二五號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ別紙東京衛生試驗所成績ノ通ニ付許可相成ラサル様致度候

●同 上

【照】(大正三年四月二日青森縣知事ヨリ衛生局長ヘ)
黄色著色料「アウラミン」(黄色ビオクタニン)ヲ以テ清涼飲料水ニ著色シ度旨出願ノ者有之候處右ハ許可相成可然モノニヤ明治四十三年七月十五日衛第五三六六號御通牒ノ次第モ有之御意見承知致度及照會候也

【答】(大正三年四月十五日衛生局長ヨリ)
本件ニ關シ本月二日附衛收第一一六四號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ衛生上無害ト稱シ難キモノニ付許可スヘキモノニ無之ト被存候

●同 上

【照】(大正三年四月十一日神奈川縣知事ヨリ衛生局長ヘ)
清涼飲料水著色料トシテ「ボンソー六B」使用致度旨願出有之候處右ハ許可差支無之哉一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

【答】(大正三年四月二十三日衛生局長ヨリ)
本件ニ關シ本月十一日附實警神第九〇號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ許可スヘキモノニ無之ト被存候

●同 上

(大正三年六月衛生局長ヨリ各地方長官ヘ通牒)

【照】(大正三年四月二十七日三重縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

清涼飲料水著色料トシテ「クロセインスカーレット三B」及「ボールド一六B」使用方出願スルモノ有之候處右ハ許可差支無之哉御意見承知致度候

【答】(大正三年六月一日衛生局長ヨリ)

第六章 飲料食物等

本件ニ關シ客月二十七日附衛收第三一一九號ノ一ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ何レモ使用セシメ差支無之ト被存候

追テ御送付ノ試験材料「ボルド六B」ナル色素ハ「ボルドB」ニ一致スルモノニ有之候爲念申添候

●同 上

【照】(大正四年一月二十五日三重縣知事ヨリ衛生局長へ)

清涼飲料水著色料トシテ「ボルドーS」使用方願出タルモノ有之候處右ハ許可差支無之哉御意見承知致度候

【答】(大正四年八月二十四日衛生局長ヨリ)

右ニ關シ本年一月二十六日附衛收第四三六號ヲ以テ御照會ノ處本品中ニハ「モノアツオ色素」ニ屬スル「フアストレット」(エヒトロート)ノ外少量ノ黄色素ヲ含有シ其黄色素ハ成分判明セサルヲ以テ許可スヘキモノニ無之ト被存候

●同 上

(大正五年五月二十二日衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正五年四月四日三重縣知事ヨリ衛生局長へ)

清涼飲料水著色料トシテ獨逸國アニリン染料製造會社製品「ボルドーB」使用方願出タルモノ有之候處右

ハ許可差支無之哉御意見承知致度候

追テ該色素ハ別便ヲ以テ御送附致候

【答】(大正五年五月二十二日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ客月四日附衛發第二五〇〇號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ許可相成可然ト被存候

●同 上

(大正七年八月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正七年七月二日廣島縣知事ヨリ衛生局長へ)

清涼飲料水著色料トシテ「ローダミン」ノ使用ヲ出願セル者有之候處右ハ許可シ差支無之哉御意見承知致度候

【答】(大正七年八月十四日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ客月二日附衛第三三〇四號ヲ以テ御照會ノ處右ハ許可スヘキモノニ無之ト被存候

●同 上

(大正十一年五月二十二日衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正十一年三月十三日衛第六九一號大分縣知事ヨリ衛生局長へ)

左記「テール」色素ヲ人工著色料トシテ清涼飲料水ニ使用致度旨出願者有之候處許可シ差支無之候哉御意見承知致度及照會候也

記
一、赤「イチゴ」S B
二、青「ブリアンド、アシドグリーン」

【答】(大正十一年五月二十二日衛生局長ヨリ大分縣知事へ)
清涼飲料水着色料使用許否ノ儀ニ關シ三月十三日附衛第六九一號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ別紙東京衛生試験所試験成績寫ノ通「ボルドーS」(赤色)及「エヒトグリーン」エキストラ青(青色)ニ該當シ衛生上無害ナルモノニ付許可相成可然ト存候

第二節 氷 雪

● 氷雪營業取締規則

(明治三十三年七月三日内務省令第三十七號【最近】大正元年同省令第一四號改正)

第一條 本則ニ於テ氷雪ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル氷及雪ヲ謂フ
氷雪營業ト稱スルハ氷雪ヲ採取製造シテ販賣シ又ハ其ノ卸賣若ハ請賣ヲ爲ス者ヲ謂フ
第二條 氷雪ヲ採取製造シテ販賣セントスル者ハ地方長官、其ノ卸賣ヲ爲サントスル者ハ警察官署ノ認可ヲ受クヘシ
地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ採取、製造又ハ貯藏ノ場所ノ構造、設備竝ニ材料ノ検査ヲ爲サシムヘシ

第三條 氷雪ノ融解水ハ無色透明ニシテ臭味ナク又夾雜物アルモ僅微ヲ過クヘカラス
氷雪融解水ノ百萬分中格魯兒量ハ二分、硝酸量ハ一分、安母尼亞量ハ〇・〇五分、過滿俺酸加留謨消費量ハ三分、亞硝酸ハ痕跡ヲ過クヘカラス

第四條 氷雪營業者ハ第三條ノ規定ニ適合スル氷雪ニ非サレハ飲食用ノ目的ヲ以テ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得ス

第五條 飲食用ノ氷雪ヲ請賣スル營業者ハ飲食用ノ目的ヲ以テスルト否トニ拘ハラズ第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ヲ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得ス

第六條 地方長官ハ左ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

一、氷雪營業者飲食用ノ目的ヲ以テ販賣ニ供シ又ハ貯藏スルトキ
二、第五條ノ營業者販賣ニ供シ又ハ貯藏スルトキ

第七條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職務ヲ行フコトヲ得

第八條 第二條第一項及第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 氷雪營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
氷雪營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ス
法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第十一條 本則ハ明治三十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ雪ニ關シテハ明治三十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 地方長官ハ冰雪ノ採取、製造又ハ貯藏ノ場所ノ構造、設備及管理方法ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

● 冰雪營業取締規則施行細則

(明治三十三年十一月大阪府令第六〇號 【最近】大正四年三月同第三一號改正)

第一條 自然氷採取ノ爲メ氷池ヲ設ケントスル者ハ左ノ事項ヲ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ出願認可ヲ受クヘシ増設改築變更セントスルトキ亦同シ

- 一、場所ノ都市町村名番地及坪數
- 二、氷池ノ坪數及其深サ
- 三、氷池ノ構造仕様
- 四、原水地ノ位置及引水道ノ構造仕様
- 五、氷池、原水地附近一丁以内ノ地形(道路、人家、田畑、山林、溪谷、池沼等ノ別)ヲ記シタル平面圖

六、雨水汚水及土砂塵芥ノ排除及池底ノ掃除ニ關スル仕様

七、原水ノ定性分析表

第二條 自然氷採取氷池ハ左ノ場所ニ設置スルコトヲ許サス

- 一、毎年耕作セル田畑其他不潔ノ土地
- 二、汚水及不潔物侵入ノ虞レアル場所
- 三、其他原水又ハ土質ノ不良ナル場所

第三條 人工氷ノ製造場ヲ設ケントスル者ハ製造場取締規則ニ據ルノ外願書中ニ左ノ事項ヲ具スヘシ

- 一、原水採取場
- 二、製氷方法
- 三、冷槽ノ構造
- 四、氷罐ノ品質大サ及其個數
- 五、一回ノ製氷時間及其製出高
- 六、原水ノ定性分析表

第四條 雪ヲ採取セントスル者ハ其場所ノ都市町村名地番、坪數、採取方法、採取時期ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ出願認可ヲ受クヘシ増設變更セントスルトキ亦同シ

第五條 自然氷採取池ノ構造ハ左ノ各項ニ從フヘシ

- 一、氷池ノ周圍ハ石垣又ハ板堰トスルコト
- 二、氷池ノ深サハ水面ヨリ最淺三尺以上トシ池底ハ砂利石(厚サ三寸以上)ヲ撒布スルコト
- 三、氷池ノ堤防ハ地平面ヨリ一尺以上ノ高サヲ有セシムルコト

- 四、水池ノ満水點ニ排水口ヲ設クルコト
- 五、水池及引水道ニハ適宜汚水及土砂塵埃ノ排除法ヲ設クルコト
- 六、水池ノ周圍ニハ三尺以上ノ明地ヲ存シ其地上一面ニ小石ヲ撒布スルカ又ハ芝ヲ植付クルコト
- 第六條 人工氷製造場ノ構造ハ左ノ各項ニ從フヘシ
 - 一、冷槽ハ地平上三尺以上ノ高サヲ有シ其上部及通路等ハ凡テ板石若クハ厚板敷トスルコト
 - 二、冷槽室ハ他ノ部分ト區別ヲ設クルコト
 - 三、冷槽室ニ塵埃ノ侵入セサル様裝置スルコト
 - 四、氷罐ニハ銅、鉛又ハ其合金物ヲ用ヒサルコト但シ鍍錫其他衛生上有害ノ虞ナキ方法ヲ施シタルモノハ此限リニアラス
- 第七條 自然氷ノ採取水池人工氷ノ製造場及ヒ雪ノ採取場ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ
- 第八條 自然氷採取水池ハ毎年結氷期前人工氷製造場ハ毎年製氷著手前ニ所轄警察官署ニ届出警察官吏又ハ衛生技術員ノ立會ヲ求メ各其原水ヲ採取シ封印ノ上當廳ニ差出シ檢査ヲ受クヘシ
- 第九條 自然氷採取水池ハ結氷期前ニ二回以上全排水ヲナシ沈澱物等ノ掃除ヲ行ヒ人工氷製造場ノ氷罐ハ毎回必ス掃除ヲ行フヘシ
- 第十條 氷雪ノ貯藏場ヲ設ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ出願認可ヲ受クヘシ
 - 一、場所ノ郡市町村名地番及坪數
 - 二、場所及近傍周圍(二十間以上)ノ地形ヲ示シタル平面圖
 - 三、構造仕様書及其圖面

四、貯藏ニ供スル材料

- 第十一條 氷雪ヲ貯藏セントスル者ハ其種類、量目及產地ヲ詳記シ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ但シ他府縣ヨリ輸入ノ氷雪ニ係ルトキハ其官廳ヨリ受クル採取又ハ製造ノ認可書寫ヲ添付スヘシ
- 前項ニ依リ檢査ヲ受ケタルモノニアラサレハ販賣スルコトヲ得ス但シ人工氷ニシテ其製造場ヨリ直接請賣營業者又ハ需用者ニ販賣スルモノハ此限リニアラス
- 第十二條 氷雪ハ氷雪營業取締規則第三條ノ規定ニ適合スルモノト雖モ特ニ細菌檢査ヲ行ヒタル結果有害ト認ムルトキハ販賣ヲ差止ムルコトアルヘシ
- 第十三條 二箇所以上ニ於テ採取又ハ製造シタル氷雪ヲ同室ニ貯藏セントスルトキハ一箇所毎ニ區別ヲ設ケ各其產地ヲ標示スヘシ
- 第十四條 氷雪ヲ他府縣下ヘ輸出セントスルトキハ產地量目輸出元ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 第十五條 氷雪營業者ニシテ氷雪營業取締規則第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ヲ飲食用ニアラサル目的ヲ以テ貯藏スルトキハ其目的量目及貯藏所ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 第十六條 氷雪卸賣營業ヲ爲サントスル者ハ其ノ届書ニ營業所、氷雪貯場ヲ記シ所轄警察官署ニ差出スヘシ
- 第十七條 (削除)
- 第十八條 氷雪營業等ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 - 一、梅毒、結核、癩病、疥癬及傳染病ニ罹ル者ヲシテ直接客ノ飲用ニ供スル氷雪及器具ノ取扱ニ從事セシメサルコト營業者自ラモ亦同シ
 - 二、直接ニ氷雪ノ取扱又ハ販賣ニ從事スル者ハ身體衣服ヲ清潔ニスルコト

- 三、人工氷製造場營業所露店及行商用具ハ毎日洒掃シ常ニ清潔ヲ保ツコト
- 四、飲食器物拭布ノ類ハ毎日蒸氣又ハ熱湯ニテ滅菌シ且ツ飲用器物ハ使用毎ニ清水ニテ洗滌スルコト
- 五、飲食器物及加味品ノ置場ハ蠅類及塵埃ノ侵入附着セサル様裝置スルコト
- 六、飲食器物ニハ銅、鉛又ハ其ノ合金物ヲ使用セサルコト但シ鍍錫其他衛生上有害ナラサル方法ヲ施シタルモノハ此限リニアラス
- 七、氷雪ニ水ヲ混和スルトキハ良水ヲ用ヒ又加味品ノ溶解シタルモノニシテ肉眼ニテ認メ得ヘキ浮游物又ハ沈澱物ヲ生シ其他衛生上有害ノ虞アルモノヲ用ヒサルコト
- 八、第十五條ノ氷雪ヲ賣却セントスル者ハ賣却簿ヲ調製シ其買受人ノ住所氏名職業使用ノ目的及量目ヲ記簿スルコト
- 九、自然氷採取水池ハ他ノ目的ニ使用セサルコト
- 第十九條 氷雪營業者氷雪採取場又ハ人工氷製造場貯藏場ノ賣買讓與貸借ヲ爲サントスル者ハ雙方連署ヲ以テ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 第二十條 氷雪ノ採取製造營業者轉居改氏名ヲ爲シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ卸賣營業者ニアリテハ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 第二十一條 本則ニ依リ認可ヲ受ケサル場所ヨリ採取シタル氷雪ヲ販賣シ又ハ貯藏シタルモノハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十二條 本則第一條、第三條、第四條及第七條乃至第十二條、第十四條、第十五條及第十八條乃至第二十條ニ違フモノハ壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス
- 第二十三條 從來認可ヲ得タル自然氷採取水池及人工氷製造場雪ノ採取場氷雪ノ貯藏場ハ明治三十三年

附 則

十月三十一日マテニ更ニ本則ニ依リ構造シ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ届出認可ヲ受クヘシ此手續ヲ履行セサルモノハ自ラ認可ノ効ヲ失フモノトス

第二十四條 從來認可ヲ得タル氷雪ノ卸賣又ハ請賣營業者ハ明治三十四年五月三十一日マテニ本則第十七條ノ手續ヲ爲スヘシ此手續ヲ履行セサル者ハ自ラ認可ノ効力ヲ失フモノトス

第二十五條 明治十七年十二月大阪府甲第八十七號氷雪營業者取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス
(標札雛形一號二號トモ略ス)

(通 牒 照 覆)

● 氷雪營業取締規則中ノ氷雪採取製造ノ意義ニ關スル件

【照】(大正二年五月六日青森縣知事ヨリ衛生局長ヘ)
省令氷雪營業取締規則附則第十二條中氷雪ノ採取製造云々中採收ト製造トノ意義ニ付近府縣ノ施行細則ニ於テ水池ヲ設ケ自然寒氣ヲ以テ結氷セシムルヲ製造ト看做シ(宮城、山形、岩手、栃木)或ハ之ヲ採收ノ一部ト看做シ(新潟、北海道、秋田)或ハ之ヲ區別セス水池ニ關シ採取製造ヲ混用シ(千葉、神奈川)タルモノアリ何レヲ正當トスヘキモノトシ御承認相成居次第ニ候哉或ハ製造シテ採收スルモノト解釋致シ可然モノニ候哉本縣ニ於テハ自然寒氣ニ依ルモノハ方法ノ如何ヲ問ハス採收トシ人工的寒氣ニ依ル所謂機械製氷ノ如キモノニ限リ製造ト看做シ居候ヘ共差當リ必要モ有之候ニ付前記ノ事由及區別承知致度此段及照會候也

【答】(大正二年六月十三日衛生局長ヨリ)
本件ニ關シ客月六日衛發第七八號ヲ以テ照會ノ趣了承人工的寒氣ニ依ルモノ即チ機械製氷ノ如キハ勿論自然寒氣ヲ利用スル場合ト雖モ氷池ヲ設ケ特ニ人工ヲ加ヘテ結氷セシムルモノハ製造ト看做スヘキモノト被存候

●輸入氷雪取締ニ關スル件

(大正十二年六月二十二日衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正十二年四月十八日衛發第五一二五號大阪府知事ヨリ衛生局長へ)
近來支那鴨綠江ニ於テ採取シタル自然氷ヲ管内ニ輸入販賣セント企劃スルモノ有之候處內務省令第三十七號氷雪營業取締規則中ニハ輸入氷ニ關スル規定無之取締上聊カ疑義相生シ候條至急貴局ノ御意見承知致度及照會候也

【答】(大正十二年六月二十二日衛發第四二八號衛生局長ヨリ)
標記ノ件ニ關シ四月十八日衛發第五一二五號ヲ以テ御照會ノ趣了承輸入氷ニ付テモ内地ニ於テ販賣スル場合ハ氷雪營業取締規則ノ適用ヲ受クヘキ儀ニ候へ共本件支那産ノ氷ニ關シテハ其ノ取締狀況及採取場ノ設備制限等不明ニ有之候當分ノ間之カ輸入販賣ヲ認メサルコトニ適宜御取締相成度候様致度

第三節 飲食物

●飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル件

(明治三十三年二月二十四日法律第一五號)

第一條 販賣ノ用ニ供スル飲食物又ハ販賣ノ用ニ供シ若クハ營業上ニ使用スル飲食物、割烹具及其他ノ物品ニシテ衛生上危害ヲ生スルノ虞アルモノハ法令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ニ於テ其製造、採取、販賣、授與若クハ使用ヲ禁止シ又ハ其營業ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ物品ノ所有者若クハ所持者ヲシテ其物品ヲ廢棄セシメ又ハ行政廳ニ於テ直接ニ之ヲ廢棄シ其他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ所有者若クハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ之ヲ處置セントコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第二條 行政廳ハ吏員ヲシテ前條ノ物品ヲ検査セシメ試驗ノ爲メ必要ナル分量ニ限り無償ニテ收去セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ吏員ヲシテ普通營業時間又ハ營業ノ爲開カル、間ニ限り物品ヲ製造シ採取シ陳列シ貯藏シ若クハ携帯スル場所ニ立入ラシムルコトヲ得

第三條 本法ノ執行ニ關シ官吏又ハ公吏ノ命ヲ受ケテ指定ノ期間内ニ之ヲ履行セサル者ハ貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

本法ノ執行ニ關シ官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者ニ抗拒シタル者ハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲ爲シタル者ハ一

年以下ノ重禁錮ニ處シ四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル
者ハ刑法第二百八十四條ノ例ニ照シテ處斷ス

附則
本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律施行ニ關スル件

(明治三十三年三月二十七日內務省令第一〇號)

第一條 警視總監北海道廳長官府縣知事(東京府知事ヲ餘ク以下之ニ倣フ)ハ法令ニ明文アル場合ニ於テ營業者ニ對シ明治三十三年二月法律第十五號ニ依リ行政廳ニ屬スル職權ヲ行フ
前項ノ職權ハ其ノ輕易ナルモノニ限リ廳府縣令ヲ以テ警察官署ニ委任スルコトヲ得
第二條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ官吏又ハ衛生技術員ヲシテ明治三十三年二月法律第十五號ノ職權ヲ行ハシムルトキハ制服ヲ着スル者ノ外證票ヲ携帯セシムヘシ證票ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ
二寸二分

表	裏
飲食物監視員之證	廳府
分七寸一	縣名
	印廳

第三條 官吏又ハ衛生技術員ハ明治三十三年二月法律第十五號第二條ニ依リ物品ヲ收去スルトキハ營業者ニ證書ヲ交附スヘシ若シ營業者ノ求メアルトキハ事實ノ許サ、ル場合ヲ除ク外其ノ物品ノ一部ニ封緘ヲ施シ之ヲ交附スヘシ

●飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關シ警察官署ニ委任條項

(明治三十四年二月大阪府令第三八號)

第一條 警察官署ハ明治三十三年法律第十五號ニ依リ物品検査ノ必要ヲ認メタルトキハ同法第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得
第二條 警察官署ハ明治三十三年法律第十五號第一條ニ依リ左記各號ノ物品ニ關シテハ廢棄處分ノ職權ヲ行フコトヲ得
一、明治三十三年四月內務省令第十五號牛乳取締規則第六條ノ容器ヲ用ヒタル牛乳又ハ乳製品同則第七條各號ノ牛乳同則第九條第一號ノ乳製品
二、明治三十三年四月內務省令第十七號有害性著色料取締規則第六條ノ飲食物及容器、被包同則第四條ニ違背シテ製造シ著色シタル物品
三、明治三十三年六月內務省令第三十號清涼飲料水取締規則第三條ノ器具及同則第五條ノ清涼飲料水
四、明治三十三年七月內務省令第三十七號水雪營業取締規則第五條ノ水雪
五、明治三十三年十二月內務省令第五十號飲食物用器具取締規則第七條ノ飲食物用器具

● 飲食物取締規則

(明治十九年六月大阪府甲第一〇三號)

- 飲食物取締規則左ノ通相定明治十九年七月十五日ヨリ施行ス
- 第一條 凡ソ飲食物ヲ店舗ニ露列シ若クハ行商スルモノハ此規則ニ違フヘシ
 - 第二條 飲食物ハ砂塵及虫類ノ附著セサル様適宜ノ覆蓋ヲナスヘシ但穀物、乾物、野菜及料理ヲ經サル魚鳥類其他皮ヲ剥キ又ハ洗ツテ後食スヘキ物品ハ此限りニ非ラス
 - 第三條 路傍ニ於テ飲食物ヲ料理シ又ハ烹焚シ及飲食席ヲ設クルトキハ公衆ノ目ニ觸レサル様暖簾垂等ヲ掲クヘシ但公園橋上等特ニ許可ヲ得タル飲食席ハ此限りニアラス
 - 第四條 飲食物ノ種類又ハ場所ノ模様ニ依リ前二條ニ據リ難キ者ハ其事由ヲ具シ管轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ
 - 第五條 警察官吏ハ隨時店舗若クハ行商者ニ就キ飲食物ヲ検査スヘシ
 - 第六條 飲食物ノ健康ニ害アリト認ムルモノハ其販賣ヲ差止仍ホ現品棄却セシムルコトアルヘシ
 - 第七條 凡ソ營業上ニ關シテハ家族雇人等ノ所爲ト雖モ營業者一切其責ニ任スヘシ
 - 第八條 此規則第二條第三條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處セラレ仍ホ所犯情狀ニ因リ營業ヲ停止スルコトアルヘシ營業上ニ關シ輕罪以上ニ處セラレタル者亦同シ

● 飲食物取締事務取扱手續

(明治十九年六月大阪府審甲第八號)

- 第一條 規則第一條第二條ニ掲クル飲食物ノ裝置ニ付テハ本則施行ノ期日以前便宜ノ方法ヲ以テ各營業者ニ示諭シ常ニ巡查ヲシテ實地ノ景況ヲ視察セシメ若シ違フ者アルトキハ懇口ニ説諭シテ履行セシムヘシ
- 第二條 巡查ノ説諭ニ應セサル者ハ署ニ喚徴シテ嚴戒シ仍ホ從ハサル者ハ相當ノ處分ヲ爲シ其情狀特ニ重ク營業停止ヲ必要ト認ムルトキハ事由ヲ具シテ本署ニ稟申スヘシ
- 第三條 規則第四條ニ掲クル事故ノ届出ヲ爲シタルトキハ事實ヲ審接シ時宜ニ依リ實地ヲ検査シ情狀不
得止ト認ムルモノハ認可ノ指令ヲ與フヘシ其疑似ニ涉リ若シクハ關係ノ大ナルモノハ事由ヲ具シテ本署ニ稟議シ指揮ヲ得テ處分スヘシ
- 第四條 規則第五條ニ掲クル飲食物ノ検査ハ不熟ノ果物又ハ有病ノ鳥獸肉其他腐敗ニ傾キタル物品等充
分有害ト認メタル場合ニ限り施行スヘシ但其検査スヘキ旨ヲ營業者又ハ家族等ニ通告シテ後テ着手スヘキモノトス
- 第五條 前項検査ノ上果シテ有害品ト確認シタルトキハ直ニ規則第六條ニ依リ販賣ヲ差止受書ヲ徴シ且
其物品ノ種類ニ從ヒ便宜ノ場所ニ投棄セシメ尙其所爲ニ付テハ相當ノ處分ヲ爲シ其旨本署ニ報告スヘシ其疑似ニ涉リ若シクハ關係ノ大ナル者ハ事由ヲ具シテ本署ニ稟議シ指揮ヲ俟テ處分スヘシ
- 第六條 此規則未行地(大阪四區接續町村堺區及奈良市街ノ外)ニ居住スル營業者ニシテ施行地内ニ出入
行商スル者ニハ其居住地所轄署ニ於テ便宜ノ方法ヲ以テ犯則等ナキ様懇諭スヘシ

● 飲食物用器具取締規則

(明治三十三年十二月十七日內務省令第五〇號 【最近】同四十二年十二月同省令第二四號改正)

- 第一條 本則ニ於テ飲食物用器具ト稱スルハ飲食物、割烹具其ノ他飲食物ノ調理器、容器、貯藏器又ハ量器ヲ謂フ
- 第二條 營業者ハ飲食物用器具ヲ鉛又ハ百分中鉛十分以上ヲ含ム合金ヲ以テ製造シ又ハ修理スルコトヲ得ス
- 第三條 營業者ハ飲食物用器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ヲ百分中鉛二十分以上ヲ含ム合金ヲ以テ鑄著シ又ハ百分中鉛五分以上ヲ含ム錫合金ヲ以テ鑄布スルコトヲ得ス
- 第四條 營業者ハ砒毒又ハ砒素又ハ鉛ヲ溶出スルモノヲ製造スルコトヲ得ス修繕ニ關シテ亦同シ
- 第五條 營業者ハ哺乳器具ヲ鉛又ハ亞鉛ヲ含ム護膜ヲ以テ製造スルコトヲ得ス
- 第五條ノ二 營業者ハ其ノ製造又ハ輸入スル金屬性飲食物用器具ニ極印其ノ他容易ニ剝落セサル方法ヲ以テ自己ノ製造又ハ輸入ニ係ルコトヲ證スルニ足ルヘキ商號其ノ他ノ符號ヲ附スヘシ
- 輸入業者ニ在リテハ當分ノ内自己ノ輸入ニ係ルコトヲ證スルニ足ルヘキ商號其ノ他ノ符號ヲ記載シタル票紙ヲ貼付シテ前項ノ符號ニ代フルコトヲ得
- 第六條 第二條乃至第五條ニ違背シテ製造若ハ修繕シタル飲食物用器具ハ之ヲ販賣シ販賣ノ目的ヲ以テ貯藏若ハ陳列シ又ハ營業上ニ使用スルコトヲ得ス第五條ノ二ニ定ムル符號ナキ金屬性飲食物用器具ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ貯藏若ハ陳列スルコトヲ得ス
- 第七條 銅又ハ其ノ合金ヲ以テ製造シ又ハ修繕シタル飲食物用器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ニシテ鍍金屬ノ剝脱シタルモノ又ハ固有ノ光澤ヲ有セサルモノハ營業上ニ使用スルコトヲ得ス

- 第八條 地方長官ハ第二條乃至第五條ニ違背シテ製造又ハ修繕シタル飲食物用器具若ハ之ヲ用ヒタル飲食物又ハ第七條ノ飲食物用器具若ハ之ヲ用ヒタル飲食物ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得、本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ
 - 第九條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得
 - 第十條 第二條乃至第七條ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 第十一條 營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限りニ在ラス
 - 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カサルコトヲ得ス
 - 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス
 - 法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス
- 附 則
- 第十二條 本則ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 - 第十三條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●牛乳營業取締規則

(明治三十三年四月七日內務省令第一五號 【最近】大正六年十二月同省令 第一七號改正)

第一條 本則ニ於テ牛乳ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル全乳及脱脂乳ヲ謂ヒ乳製品ト稱スルハ販賣ノ用ニ

供スル煉乳、脱脂煉乳及ヒ粉乳ヲ謂フ

牛乳營業者ト稱スルハ牛乳又ハ乳製品ノ搾取、製造、販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 牛乳ノ比重ハ攝氏十五度ニ於テ全乳ニ在リテハ一・〇二八乃至一・〇三四トシ脱脂乳ニ在リテハ

一・〇三二乃至一・〇三八トス

全乳ノ脂肪量ハ百分中三・〇分以上トス

脱脂乳ノ乾燥物質質量ハ百分中八・五分以上トス

第三條 煉乳ノ脂肪量ハ百分中八・〇分以上トス

煉乳又ハ脱脂煉乳中ニ混和スル蔗糖量ハ乳糖ヲ合算シテ百分中五五・〇分以下トス

第四條 牛乳ノ搾取又ハ乳製品製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ノ構造設備ヲ検査セ

シムヘシ

第五條 牛乳營業者ハ左ノ牛ヨリ牛乳ヲ搾取スルコトヲ得ス

一、牛疫、炭疽、傳染性胸膜肺炎、流行性鵝口瘡、狂犬病、結核、痘瘡、黃胆、アクチノミコーゼ、

氣腫疽、赤痢、乳腺病、膿毒症、尿毒症、敗血症、中毒、亞布答、腐敗性、子宮炎、其ノ他熱性諸

病ニ罹レル牛

二、牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥服用中ノ牛

三、分娩後七日以内ノ牛

第六條 牛乳營業者ハ亞鉛、銅、黃銅、燒附不良ニシテ且有害ノ釉藥ヲ施シタル陶器又ハ含鉛珪瑯ヲ塗

布シタル鐵材料ニテ製シタルモノヲ牛乳又ハ乳製品ノ容器又ハ量器トシテ使用スルコトヲ得ス

第七條 牛乳營業者ハ左ノ牛乳ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ運搬シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

一、腐敗シタルモノ

二、粘稠若ハ苦味ナルモノ又ハ藍色赤色其ノ他異常ノ色ヲ呈スルモノ

三、他物ノ混合シタルモノ

四、第五條ノ牛ヨリ搾取シタルモノ

五、第二條ノ規定ニ適合セサルモノ

第八條 牛乳營業者ハ前條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ乳製品ノ原料ト爲スコトヲ得ス

第九條 牛乳營業者ハ左ノ乳製品ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

一、腐敗シタルモノ

二、他物ノ混合シタルモノ

三、第六條ノ容器ヲ用ヒタルモノ

四、第七條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ原料ト爲シタルモノ

五、第三條ノ規定ニ適合セサル煉乳又ハ脱脂煉乳

第十條 牛乳營業者ハ牛乳ヲ配布スル容器ニ全乳又ハ脱脂乳タルコトヲ明記シ煉乳ノ容器ニハ煉乳、脱

脂煉乳ノ容器ニハ脱脂煉乳タルコトヲ明記スヘシ

第十一條 牛乳營業者ハ全乳ト記シタル容器ニ脱脂乳、煉乳ト記シタル容器ニ脱脂煉乳ヲ容ルルコトヲ得ス

牛乳營業者ハ全乳ト記シタル容器ニ脱脂乳、煉乳ト記シタル容器ニ脱脂煉乳ヲ取扱フ場所ヲ常ニ清潔ニ爲ス

第十二條 牛乳營業者ハ結核病、癩病、梅毒及傳染病ニ罹レル者ヲシテ牛乳、乳製品若ハ其ノ容器、量

器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス牛乳營業者ニシテ其疾病ニ罹

レルトキ亦之ニ準ス

第十三條 牛乳營業者ハ傳染性ノ疾病ニ罹レル牛ノ隔離ヲ行ヘシ

第十四條 地方長官ハ當該官吏又ハ衛生技術員ヲシテ牛乳營業者ノ牛ヲ診檢セシメ一定ノ疾病ニ罹レル牛ニハ其ノ角ニ番號若ハ符號ヲ烙記セシメ又ハ其ノ耳朶ニ番號若ハ符號ヲ記セル耳環ヲ付セシムルコトヲ得

前項ノ番號符號又ハ耳環ハ官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ消除シ又ハ除去スルコトヲ得ス

第十五條 地方長官ハ第五條ノ牛第六條ノ容器ヲ用ヒタル牛乳乳製品第七條各號ノ牛乳第九條各號乳製品ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者

ニ關シテ亦同シ

第十六條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十七條 第十四條第二號ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス

第十八條 左ニ掲クル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
一、認可ヲ受ケスシテ第四條ノ營業ヲ爲シタル者

二、第五條乃至第九條ニ違背シタル者

第十九條 第十條乃至第十三條ニ違背シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 牛乳營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限りニ在ラス

牛乳營業者ハ其代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ義務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規

定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告トス

第二十一條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 乳牛ノ牛舎及牛乳搾取若ハ乳製品製造ニ用フル場所ノ構造設備及管理方法ハ地方長官之ヲ定ム

第二十三條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●牛乳營業取締規則第五條牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥處方ニ關スル件

(明治三十三年十月二十日內務省令第四六號)

第一條 牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥品目左ノ如シ

石 炭 酸

安知母紐膜鹽類

砒素及其ノ化合物及其ノ鹽類

越 攝 利 涅

斯篤利幾尼涅其ノ他「アルカロイド」及其ノ鹽類

菲·沃 斯 草

別 刺 敦 那 草

第六章 飲料飲食物等

水銀鹽類
 沃度加留謨
 阿片
 鉛鹽類
 藜蘆根
 番木鱧子
 亞鉛鹽類

以上ノ藥品ヲ含有スル諸製劑

第二條 獸醫前條ノ毒藥劇藥ヲ處方シタルトキハ其ノ旨ヲ牛乳營業者ニ告知スヘシ

第三條 獸醫前條ニ違背シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●牛乳營業取締規則施行細則

(明治三十三年六月三十日大阪府令第四三號 【最近】大正七年二月同府令第八號改正)

第一章 牛乳搾取場及乳製品製造場ノ構造設備 (第一條ヨリ第九條マテ、條文略ス)

第二章 牛乳搾取場及乳製品製造場ノ管理 (第十條及ヒ第十一條、條文略ス)

第三章 牛乳及牛乳營業者 (第十二條ヨリ第十七條マテ、條文略ス)

第四章 牧夫牛乳搾取人牛乳配達人及乳製品製造人夫並其雇入雇止 (第十八條ヨリ第二十四條マテ、條文略ス)

文略ス)

第五章 罰則 (第二十五條第二十六條、條文略ス)
 附則 (第二十七條ヨリ第三十四條マテ、條文略ス)

(通牒照覆)

●牛乳營業取締規則改正ニ關スル件

【通】(大正六年十二月發衛第八五號衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

今般内務省令第十七號ヲ以テ牛乳營業取締規則中改正相成候處右ハ腐敗ニヨリテ全乳ノ脂肪率區々ニ互ルニ於テハ需用供給上不便ニシテ甲地ニ於ケル合格品ヲ乙地ニ供給スレハ直ニ犯則者トナル等支障不尠ヲ以テ行政上之カ統一ノ必要ヲ認メラレタル次第ニシテ敢テ牛乳ノ品質ヲ低下セシムルモノナリト爲スノ趣旨ニ無之候へ共或ハ多數營業者間ニハ法令改正ノ精神ヲ誤解シ故意ニ加水脱脂シテ不正手段ヲ講スルコトナキヲ保シ難ク候條此際一般營業者ニ對シ改正ノ趣旨ヲ御示達ノ上今後一層就業ノ發達ヲ圖ル様御配慮相成度

●輸入煉乳取締ニ關スル件

【通】(大正三年五月衛第一八三號衛生局長ヨリ各地方長官へ)

第六章 飲料飲食物等

輸入煉乳中住々其脂肪量標準以下ノモノ有之ヤノ趣ニテ之カ取締ニ關シ帝國議會へ請願ノ向モ有之候條
取締方自今一層御注意相成候様致度

●ツベルクリン稀釋ノ爲石炭酸水使用ノ件

(明治三十六年十一月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(明治三十六年十月八日高知縣知事ヨリ衛生局長へ)

這般御送附相成候畜牛結核病豫防法令質疑應答要録第十六條第四問ニ對シ「ツベルクリン」ヲ注射シタル
乳牛ノ乳汁ヲ飲用ニ供スルハ害ナシト有之候處該「ツベルクリン」稀釋ノタメ使用スル石炭酸水ハ明治二
十三年內務省令第四十六號規定ノ乳汁中ニ移行スヘキ劇毒藥ニ屬スルヲ以テ牛乳營業取締規則第五條第
二項ニ該當シ搾取販賣セシムルコトヲ得サル儀ト被存候得共右應答ノ次第モ有之候條猶御取調ノ上御意
見承知致度此段及照會候也

【答】(明治三十六年十一月四日衛生局長ヨリ)

本年十月八日付衛發第三五〇號ヲ以テ「ツベルクリン」稀釋ノタメ石炭酸水使用ノ義ニ付御照會ノ處右ハ
其量僅微ニシテ乳汁中ニ移行スルモノト認メサルヲ以テ之ヲ使用スルモ差支無之義ト御承知相成依命此
段及回答候也

追テ本件ニ關シ農務局長へ御照會ノ處右ハ本省主管ニ付回答候條申添候也

●ラクトスターゼ又ハラクチン等ヲ使用シ牛乳ヲ
凝固セシメ販賣スル者ノ取締方

【照】(大正三年四月熊本縣知事ヨリ衛生局長へ)

ラクトスターゼ又ハラクチン等ヲ用ヒ牛乳ヲ凝固セシメ販賣ノ用ニ供セントスル者アリ右ハ乳製品トシ
テ取締ノ必要ヲ認メラルト雖モ牛乳營業取締規則第一條ノ所謂乳製品ト稱スヘキヤ否ニ關シ聊カ疑義
有之候條貴官ノ御意見至急御回示相成度

【答】(衛生局長ヨリ)

右ハ乳製品ト稱シ難ク候條貴縣ニ於テ取締ノ必要ヲ認メラルルニ於テハ相當規定ヲ設ケラルル等適宜御
取締相成度候

●ヨーグルト及ケファイア製造販賣取締ニ關スル件

【照】(大正三年五月京都府知事ヨリ衛生局長へ)

近來ヨーグルト及ケファイアノ製造販賣營業ヲ願出ツル者多々有之候處內務省令第十五號第一條ニ規定
サレタル乳製品ト認メ難キモ該品ハ牛乳ヲ原料トシテ製造スルモノニシテ粗製濫造ニ放任スルトキハ危
險ナキヲ保シ難キ様思料セラレ候ニ付右取締上乳製品トシテ取扱可然哉至急何分ノ御回示相成度

【答】(衛生局長ヨリ)

右ハ牛乳營業取締規則第一條ノ乳製品ト稱シ難ク候條差當リ貴府ニ於テ相當ノ規定ヲ設クル等適宜御取締相成様致度

第四節 飲食物防腐劑

● 飲食物防腐劑、漂白劑取締規則

(昭和三年六月十五日內務省令第二二號)

第一條 左ニ掲クル物ハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ製造又ハ貯藏ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ別ニ指定スル物ヲ指定ノ條件ノ下ニ使用スルハ此ノ限りニ在ラス

一、安息香酸、硼酸、クロール酸、フルオール水素、フォルムアルデヒド、昇汞、亞硫酸、次亞硫酸、サリチール酸、チモール酸、チモール、ナフトール、レゾルチン、ヒノゾール、蟻酸、亞硝酸、蒼鉛、銀、桂皮酸、フルアクリール酸

二、前號ニ掲クル物ノ化合物及之ヲ含有スル物

前項ニ掲ケサル物ニ付テハ品名用法及用量ヲ具シ主タル營業所々在地ノ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ倣フ)ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ防腐又ハ漂白ノ目的ヲ以テ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ製造又ハ貯藏ニ使用スルコトヲ得ス但シ第二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル防腐劑又ハ漂白劑ヲ許可ヲ受ケタル用法、用量ノ範圍内ニ於テ使用シ又ハ食鹽、砂糖、酢、アルコール、蕃椒其ノ他調味ヲ主トスル物品ヲ使用スルハ此ノ限りニ在ラス

前二項ノ規定ニ違反スル飲食物ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ運搬、陳列若クハ貯藏スルコトヲ得ス

第二條 飲食物ノ防腐劑又ハ漂白劑ヲ發賣セムトスルトキハ發賣者ハ名稱、原料品及其ノ分量、調製方法、用法並用量ヲ具シ主タル營業所々在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ日本藥局方ニ記載セサル原料品ヲ使用セムトスル者ハ其ノ見本品ヲ提出スヘシ

第三條 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル防腐劑又ハ漂白劑ノ原料品ニシテ日本藥局方ニ記載スル物ハ其ノ所定ノ性状、品質之ニ記載セサル物ハ第二條第二項ノ見本品ト同様ノ性状、品質ヲ具備スルコトヲ要ス

第四條 發賣者ハ防腐劑又ハ漂白劑ノ容器又ハ被包ニ其ノ氏名又ハ商號、主タル營業所々在地、用法並用量ヲ明記スヘシ

第五條 地方長官ハ衛生上危害ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキハ第一條第二項又ハ第二條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ許可ヲ受ケタル事項ノ變更ヲ命スル事ヲ得

第六條 地方長官ハ本令又ハ本令ニ基キテ爲シタル處分ニ違反スル飲食物防腐劑又ハ漂白劑ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得、本令又ハ本令ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第七條 地方長官ハ本令ノ執行ニ關シ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第八條 左ニ掲クル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス但シ第一條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ知ラサルトキト雖モ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス

第六章 飲料飲食物等

- 二、第二條第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケスシテ防腐劑又ハ漂白劑ノ發賣ヲ爲シタル者
 - 三、第二條第一項ノ規定ニ違反スル防腐劑又ハ漂白劑ヲ販賣シタル者
 - 四、第三條ノ規定ニ違反スル防腐劑又ハ漂白劑ノ發賣ヲ爲シタル者
 - 五、第四條ノ規定ニ依ル表示ヲ爲サス又ハ虚偽ノ表示ヲ爲シタル者
 - 六、第五條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタル者
 - 第九條 營業者カ未成年者禁治產者又ハ法人ナルトキハ本令ノ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ代表者ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限りニ在ラス
 - 第十條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス
- 附 則
- 第十一條 明治三十六年九月内務省令第十號飲食物防腐劑取締規則ハ之ヲ廢止ス
 - 第十二條 本令公布前地方長官ノ許可ヲ得テ發賣セル防腐劑ニ付テハ本令ニ依リ發賣ノ許可ヲ得タルモノト看做ス

●昭和三年六月内務省令第二十二號飲食物防腐劑漂白劑取締規則第一條第一項ニ依ル指定

(昭和三年六月十五日内務省令第二三號)

- 一、亞硫酸、次亞硫酸其ノ化合物及ヒ之レヲ含有スル物ヲ別ニ定ムル處ノ飲食物中亞硫酸試驗法ニ適合

- スル範圍内ニ於テ使用スルコト
- 二、安息香酸及安息香酸ナトリウムヲ別ニ定ムル處ノ天然果實汁及ヒ天然果實蜜類中安息香酸試驗法ニ適合スル範圍内ニ於テ天然果實汁及ヒ天然果實蜜類ノ製造又ハ貯藏ニ使用スルコト但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ容器又ハ被包ニ安息香酸又ハ安息香酸ナトリウムヲ含有スル旨明記スヘシ

●飲食物防腐劑、漂白劑取締規則施行細則

(昭和三年八月二十一日警視廳令第三四號)

- 第一條 飲食物防腐劑、漂白劑取締規則(以下單ニ規則ト稱ス)第一條第二項又ハ第二條第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスルトキハ同條ニ規定シタル事項ノ外主タル營業所々在地(以下單ニ營業所ト稱ス)住所、商號、氏名及ヒ生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所々在地並營業所、代表者ノ氏名及ヒ定款ノ寫)ヲ具シタル願書ヲ提出スヘシ但シ規則第二條第一項ノ規定ニ依ル變更願書ニハ許可證ヲ添附スヘシ
- 第二條 發賣者ハ防腐劑、漂白劑ノ容器又ハ被包ニ規則第四條ニ規定シタル事項ノ外其名稱ヲ明記スヘシ
- 第三條 營業者次ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可證ヲ添附(亡失ノ場合ヲ除ク)シ十日内ニ届出ツヘシ但シ第四號ノ場合ニハ戶籍法ニ依ル届出義務者(法人ニ在リテハ清算人)ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一、住所、營業所、商號又ハ氏名(法人ニ在リテハ其名稱、事務所々在地若クハ營業所代表者ノ氏名又ハ定款)ニ異動ヲ生シタルトキ

- 二、許可證ヲ毀損又ハ亡失シタルトキ
- 三、防腐劑、漂白劑ノ發賣又ハ使用ヲ廢止シタルトキ
- 四、營業者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケ(法人ニ在リテハ解散)タルトキ
- 第四條 營業者他ノ道府縣ヨリ營業所ヲ東京府内ニ移轉シタルトキハ第一條ノ規定ニ準シタル届書(正副二通)ニ許可ノ事實ヲ證スル書類ヲ添附シ十日内ニ差出スヘシ
- 第五條 本令ニ依ル願届書ニハ願届人未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人ノ連署ヲ要ス
- 第六條 本令ニ依ル願届書ハ營業所所轄警察署ヲ經由スヘシ但シ東京府外ニ轉シタル場合ニ在リテハ前營業所、所轄警察署ヲ經由スヘシ
- 第七條 次ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可ヲ取消シ又ハ營業ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ
 - 一、本令ニ違反シタルトキ
 - 二、營業上不適當ト認メタルトキ
- 第八條 第二條乃至第四條、第十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 第九條 本令ノ罰則ハ營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人ニ法人ナルトキハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限りニ在ラス
- 第十條 營業ニ關シ從業者本令ニ違反シタルトキハ營業者其ノ罪責ニ任ス
- 第十一條 大正五年四月警視廳令第四號賣藥部外品營業取締規則ニ依リ免許ヲ得タルモノニシテ規則第十二條ニ該當スルモノハ第一條ニ準スル届書(正副二通)ヲ昭和三年十月末日迄ニ差出スヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 飲食物防腐劑、漂白劑取締規則施行細則

(昭和三年九月二十日大阪府令第五八號)

- 第一條 飲食物防腐劑、漂白劑取締規則(以下單ニ規則ト謂フ)第一條第二項又ハ第二條第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスル者ハ同條ニ規定シタル事項ノ外主タル營業所所在地(以下單ニ營業所ト謂フ)住所、氏名及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地並營業所、代表者、氏名)ヲ具シタル願書ヲ提出スヘシ
- 第二條 規則第二條第一項ノ規定ニ依ル變更願書ニハ許可證ヲ添附スヘシ
- 第三條 飲食物ノ防腐劑、漂白劑ヲ請賣又ハ行商ヲ爲サントスル者ハ其ノ品名、發賣者ノ住所、氏名ヲ具シ當廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 第四條 行商者行商中ハ許可證ヲ携帶スヘシ
- 第五條 營業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可證ヲ添へ(亡失ノ場合ヲ除ク)十日以内ニ當廳ニ届出ツヘシ但シ第四號ノ場合ニハ戶籍法上ノ届出義務者(法人ニ在リテハ清算人)ヨリ届出ヲ爲スヘシ
 - 一、住所、營業所又ハ氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地若クハ營業所、代表者氏名)ニ異動ヲ生シタルトキ
 - 二、許可證ヲ毀損亡失シタルトキ
 - 三、發賣又ハ使用、請賣、行商ヲ廢止シタルトキ
 - 四、營業者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケ(法人ニ在リテハ解散)タルトキ
- 第六條 營業者他ノ道府縣ヨリ營業所ヲ大阪府管内ニ移轉シタルトキハ第一條ニ準シ許可ノ事實ヲ證ス

ル書類添附十日以内ニ當廳ニ届出ツヘシ
第七條 本令ニ依ル願届書ハ營業所所轄警察署ヲ經由スヘシ但シ大阪府管外ニ轉シタル場合ニ在リテハ前營業所所轄警察署ヲ經由スヘシ
第八條 第三條乃至第六條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
第九條 營業者カ未成年者禁治産者又ハ法人ナルトキハ本令ノ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法人ニ適用ス其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ對シテハ此ノ限りニ在ラス
第十條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居人、雇人其ノ他ノ營業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス

附 則

第十一條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●清酒ノ製造又ハ貯藏ニ關シ飲食物防腐劑取締規
 則ヲ適用セサル件

(大正三年十二月二十四日內務省令第二九號・昭和三年六月十五日內務省
 令第二五號改正)

清酒ノ製造又ハ貯藏ニ關シ別ニ定ムル所ノ清酒中「サリチール」酸試験法ニ適合スル程度以内ニ於テ「サリチール」酸ヲ使用スル場合之ヲ使用シタル清酒ヲ販賣陳列又ハ貯藏スル場合ニ付テハ當分ノ内(昭和三年六月內務省令第二十二號飲食物防腐劑、漂白劑取締規則)ヲ適用セス

●防腐劑ヲ使用セル清酒廢棄ニ關スル件

(明治三十七年十二月衛甲第二三七一號大阪府警部長ヨリ各警察署長ヘ)

自今清酒ニ關シ廢棄ノ訓令アリタルトキハ同一手(同一又ハ同量ノ防腐劑ヲ混合シタルモノヲ云フ)ノモノト確認スル場合ノ外ハ收去品ト同一容器内ノモノニ限り廢棄ノ處分方取計ハルヘシ

(通牒 照 覆)

●清酒中「サリチール」酸含有量適合ニ關スル件

【通】(明治三十七年十月衛發第三三一號內務省衛生局長ヨリ各地方長官ヘ)

客年九月省令第十一號飲食物防腐劑取締規則ト同時ニ發布セラレタル清酒中「サリチール」酸試験法ハ清酒一石中約十匁以下ノ「サリチール」酸ヲ含有スルモノニ對シ適合スル儀ニ候條爲念此段及通牒候也

●「サリチール」酸代用品「ベタ、オキシ、ナフトイ
 ツ」酸ノ件

(明治三十九年五月衛生局長ヨリ各地方長官ヘ通牒)

【照】(明治三十九年三月甲號醸造試験所長ヨリ衛生試験所長ヘ)

第六章 飲料飲食物等

明治三十六年内務省令第十號飲食物防腐劑取締規則ニ於ケル「サリチール」酸許可量ニ於テハ數々危險ヲ感スル由ヲ訴フル者有之哉ニ及開候ニ付不取敢本所ニ於テモ「サリチール」酸代用品ニ付攻究セシメ候處ベタ、オキシ、ナフトイツ酸ハ「サリチール」酸ニ比較シ約五倍ノ効力ヲ有シ且ツ「サリチール」酸ニ比シ多少健康上ニ於ケル害毒モ尠ナキカトモ被存候得共疑惑モ有之ニ付一應貴局ノ御意見承知致度

【答】(明治三十九年五月乙衛生局長ヨリ醸造試験所長へ)
三月十二日附ヲ以テ「サリチール」酸代用品ベタ、オキシ、ナフトイツ酸ノ儀ニ關シ御照會ノ處右生理的作用ニ關シテハ不明ニハ候得共ベタ、ナフトールノ誘導體ナルヲ以テ健康上有害ナルモノト被存候條左様御了知相成度

●チノゾール配伍ノ飲食物防腐劑販賣許否ノ件

(明治三十九年六月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(明治三十九年五月二十一日大阪府知事ヨリ衛生局長へ)
「チノゾール」ヲ主藥トセル飲食物防腐劑ノ販賣營業願出候者有之候處右ハ當該ノ規則中ニ於テ禁止セサル藥品ニ付許可差支ナク思料候へ共其性質藥効等ニ於テハ禁止藥ト略ホ同様ノモノナルヲ以テ之カ處分上多少ノ疑義相生シ候條右許否ニ關シ一應御省ノ御意見承知致度此段及照會候也

【答】(明治三十九年六月七日衛生局長ヨリ)
客月二十一日附衛第一二六九號ヲ以テ飲食物防腐劑「チノゾール」許否ノ儀ニ付御照會ノ處右ハ害否不明ナルモノニ付許可不相成方可然ト被存候條右様御了知相成度此段及回答候也

●飲食物防腐劑(亞硫酸)取締ニ關スル件

【通】(明治三十九年十二月二十二日衛生局長ヨリ各地方長官へ)

近時西洋菓子ノ原料トシテ米國ヨリ輸入スル澱粉糖舎利別(水飴)中ニハ漂白ノ爲メニ用ヒタル多量ノ亞硫酸ヲ含有スルモノアル趣別紙ノ通り報告有之候處右ハ衛生上取締ヲ要スルコト勿論ニ有之候得共之カ爲近時漸ク發達ノ緒ニ就カントスル西洋菓子製造業ニ急激ナル打擊ヲ與フルカ如キコト無之様致度候ニ付先以此際當業者ニ警告ヲ與へ至急改良ノ方法ヲ講セシムル等相當御措置相成度此段及通牒候也
(別紙試驗所ノ報告略ス)

●清酒ノ除酸目的ニ「アンモニア」ヲ加入スルノ許否ニ關スル件

(明治四十年四月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(明治四十年四月十一日福井縣知事ヨリ衛生局長へ)

清酒ニ酸味ヲ帶フル場合ニ於テ除酸ノ目的ヲ以テ「アンモニア」ヲ混和致シ度出願スル者有之右ハ衛生上差支ナキモノト被存候モ之レカ許否ニ關シ貴省ノ御意見承知致度候條至急御回答相成様致度候此段及御問合候也

【答】(明治四十年四月衛生局長ヨリ)
清酒ニ酸味ヲ帶フル場合ニ於テ除酸ノ目的ヲ以テ「アンモニア」ヲ混和スル許否ノ儀ニ付本月十一日附衛

第一六三號ヲ以テ御問合ノ處右ハ衛生上穩當ナラサルモノト被存候條許可不相成候様致度此段及回答候也

●食醋中「サリチール」酸含有取締方

【通】(明治四十二年一月衛生局長ヨリ各地方長官へ)
防腐劑「サリチール」酸ヲ含有スル食醋取締方ノ義ニ付伺出ノ向モ有之候處清酒ニ「サリチール」酸ノ使用ヲ認容セル以上ハ別紙東京衛生試験所試験成績書ノ通食醋中多少ノ「サリチール」酸ヲ含有スルハ止ヲ得サルモノト被認候ニ付テハ食醋中含有スル「サリチール」酸ノ量其一石中二匁以下ナルトキハ清酒ヨリ移行シタル者ト見做御取扱相成可然之ニ反シ三匁以上ニ及フ者ハ故意ニ防腐劑ヲ加ヘタル疑有之候ニ付御調査ノ上相當御措置相成様致度此段及通牒候也
(別紙略ス)

●清酒防腐劑製造販賣許可ニ關スル件

(明治四十二年九月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(明治四十二年八月二十六日石川縣知事ヨリ衛生局長へ)
清酒等防腐ノ目的ヲ以テ左記ノ藥品ヲ調査シ賣藥部外品トシテ製造營業出願候者有之候處右ハ防腐劑取締規則第一條規定ノ藥品外ナルモ果シテ許可シ差支ナキモノニ有之候哉何分ノ御回示相煩度候也

左記

- 一、名稱 ヒヲターズ
 - 二、調合 材 料
 - (イ) 「タンニツクアシツト」 二五〇〇〇グラム
 - (ロ) 「ピオククタニン」 五〇〇〇グラム
 但獨逸國「メルク」製藥會社製造ノ尋常藥
 - 三、製法
 - 右(ロ)ヲ乳鉢内ニ少量ノ(イ)ヲ混和シ充分注意シテ研和スルコト數回漸次全部ノ(イ)ヲ(ロ)ニ均密ニ混淆スルニアリ
 - 四、使用法 (略ス)
- 【答】(明治四十二年九月十四日衛生局長ヨリ)
清酒防腐劑製造許可ノ義ニ付客月二十六日附收衛第二八三號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ防腐劑トシテ許可スヘキモノニ無之ト被存候此段及回答候也

●醬油防腐劑發賣許可ニ關スル件

(明治四十三年六月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(明治四十三年六月七日熊本縣知事ヨリ衛生局長へ)
醬油防腐劑トシテ左記藥品ヲ配伍シ發賣許可出願者有之候處右ハ飲食物防腐劑取締規則第一條ニ掲クル防腐劑品目以外ノモノニ有之候へ共之カ許可ニ關シテハ聊カ疑義相生シ候ニ付一應貴局ノ御意見承知致

度此段及照會候也

記

藥味分量 芥子貳拾匁 胡椒貳拾五匁 純苛性ナトリウム七匁五分 芳香丁幾二匁 カラ

メル少許 蒸餾水百參拾匁

製法 用法用量(略ス)

効能 夏期醬油ノ白濁ヲ防クヲ目的トス

【答】(明治四十二年六月二十一日衛生局長ヨリ)

本月七日附衛第五九號ヲ以テ醬油防腐劑使用許否ノ義ニ付御照會ノ趣了承右ハ衛生上有害ニ付許可不相成方可然ト存候此段及回答候也

●外國ヨリ輸入スル防腐劑含有飲食物ニ關スル件

(大正二年十月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正二年九月十一日大阪府知事ヨリ衛生局長へ)

外國ヨリ輸入ノ左記飲食物ニシテ防腐劑安息香酸曹達「ベントオアトオフソーダ」ヲ含有(含有量ニ多少アリト雖モ大約〇・二%内外トス)セルヲ販賣スルモノアリ此種ノ物品ニハ商標ニ含有物及其量ヲ明記シ米國ニ於テハ其販賣ヲ認容セラレタルモノナラムモ我國ニ輸入シテ之ヲ一般飲食物トシテ販賣スルニ於テハ當然取締規則ヲ適用スヘキモノト相認メ候ニ就テハ當廳管内ノ現在品中輸入濟月日ヲ經過セスシテ未タ包裝ヲ解セス稅關ニ保管中ニ屬スルモノ、如キハ輸入者ヲシテ適當ノ措置ヲ爲サシメ其ノ他各販賣店ニ散在セルモノニ對シテハ飲食物防腐劑取締規則第四條ノ命スル處ニ從ヒ相當處分スヘキ意見ニ有

之候へ共事體外國トノ貿易ニ影響スルノミナラス將來ノ取締向ニモ相關シ候儀ニ付一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

記

名 稱

製造所(略ス)

チエリー

トマトケチャツプ

カツチングクチャツプ

チエリー

アラスキーノチエリー

【答】(大正二年十月三十日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ本月十一日附衛第四七五一號ヲ以テ御照會之趣了承右ハ御意見ノ通御取扱相成差支ナシト被存候

●米國製「トマト、キヤチツプ」及「マラスキ」ノ酒 漬櫻實販賣禁止ノ件

【照】(大正二年十一月通達第五四五號外務次官ヨリ内務省へ)

本件ニ關シ在本邦米國大使ヨリ別紙寫ノ通申越ノ次第モ有之候ニ付右茲ニ及御送付候條何分ノ義御回報相成度此段及照會候也 (別紙)

肅啓陳者在神戸亞米利加領事ヨリ「ウイトコウスキ」會社陳情書ヲ送付シ來リ候ニ付爰ニ其要領ヲ閣下ニ致スノ光榮ヲ有シ候會社ハ合衆國ニ於テ製造ノ「トマトー」及「マラススキ」ノ酒漬櫻實販賣ノ代理店ニ有之候處今回大阪官憲ハ其販賣スル食品ハ安息香酸鹽ヲ含有スルトノ理由ヲ以テ帝國飲食物取締規則ニ違反スルモノトシテ之カ販賣ヲ禁止致候然ルニ此等食品ハ多年日本ノ市場ニ於テ販賣致來リタルモノニ有之候處今回突然禁止ノ處分ヲ受ケタル義ニ候趣尙會社ハ此等食品中ニ防腐劑トシテ〇・〇ニパーセントノ安息香酸鹽ヲ含有スルモ衛生上無害ナリトノ相當資格アル化學者ノ證明狀ヲ添へ申出候

右ニ付亞米利加ノ前記食品製造家ニ御注意致度候條防腐劑トシテ安息香酸(Benzoate of Soda)ヲ含有スル食品ノ輸入ハ果シテ禁止セララル義ニ候哉御示教相煩度候

小官ハ此機會ヲ利用シテ重テ閣下ニ敬意ヲ表シ候敬具

【答】(大正二年十二月十八日衛第六八七八號内務次官ヨリ)

本件ニ關シ客月四日通送第五四五號ヲ以テ御照會ノ趣了承安息香酸ヲ含有スル飲食物ハ其含有量ノ多少ヲ問ハス之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得サル義ニ有之候條御承知相成度追テ本件ト同一事件ニ關シ衛生局長ト大阪府知事ト照覆ノ結果本年十月三十日阪第二二三號ノ内ヲ以テ貴省通商局長へ通牒濟ニ付御聞取相成度尙特ニ爲參考別紙飲食物防腐劑取締規則寫一通添付致候

●防腐劑「フォルムアルデヒド」變性後ノ清酒販賣方許否ノ件

【照】(大正五年一月十日青森縣知事ヨリ衛生局長へ)

防腐劑「フォルムアルデヒド」含有ノ故ヲ以テ廢棄處分ヲ受ケタル清酒ヨリ左記脫除方法ニ依リ普通清酒トシテ販賣シタキ旨出願スル者有之候處右ハ衛生上其儘許可スヘカラサルモノト思料セラレ候へ共一應御意見承知致度此段及照會候也

左記

清酒中ノ「ホルマリン」脫除法

本法ノ根據ハ「フォルムアルデヒット」カ石灰乳ニ依リテ濃縮シ「フォルモーゼ」ナル糖類ニ變化スル反應シタルモノニシテ「フォルモーゼ」ト共ニ抱水炭素化合物ニ屬ス

此方法ヲ實際ニ施サントスルトキハ當該清酒中ニ含マルル酸量ニ基キ先ツ所要苛性石灰ノ概量ヲ算出シ是ニ依リテ可成新鮮ナル苛性石灰ヲ用意シ水ヲ注キ充分消化セシム其程度ハ粉末狀トナルヲ以テ足ル次ニ右苛性石灰ハ之ヲ當該清酒中ニ投入シテ充分攪拌シ絶度ノアルカリ性トナル後密封シテ放置ス爾後三四週間ヲ經ハ一部ヲ採取シ稀硫酸ヲ滴トシテ酸性トナシ蒸餾シ此醗液ニ就キ「フォルムアルデヒット」反應ヲ試シ之ヲ檢出セサルニ至レハ現酒ノアルカリ性ヲ測定シ之ニ對シ所要ノ酒石酸又ハ乳酸ノ概量ヲ算出シ可成濃厚ナル水溶液トナシ現酒ヲ攪拌シツツ注意シテ之ヲ添加シ中性若ハ極微弱ノ「アルカリ」性トナシ密封ノ上生スル沈澱ヲ沈着セシメ上清ヲ分別シ沈澱ハ之ヲ布片ニテ濾過シ濾液ヲ上清液ニ混和ス茲ニ得タル清酒中ニハ普通所含ノ酸量ニ達スルマテ酒石酸又ハ乳酸ノ溶液ヲ加ヘ後粕漉ヲ行ヒ滓引清澄ノ上火當ヲ爲シテ保存スヘシ

如上ノ方法ニ依リ「ホルマリン」ヲ脫除シタル清酒ハ原酒ニ比シ少シク品質ヲ傷タルハ止ムヲ得サルモ劣等酒ニ至リテハ却テ品位ヲ向上スルニ至ル

【答】(大正五年一月十九日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ本月十日付衛收發第三八三九號ヲ以テ御照會ノ處右脫除竝加工法ハ衛上害ナシト被認候條販賣方認可相成可然ト被存候

●「フォルムアルデヒド」含有清酒ノ除害方法ノ件

【照】(大正五年四月十八日茨城縣知事ヨリ衛生局長ヘ) 防腐劑取締上必要有之候條ヲ記事項ニ對シ至急御回答相煩度此段及照會候也

左記

- 一、フォルムアルデヒド含有清酒ニ對シ煨製石灰ヲ以テ無害トナシタキ旨(明治四十四年大藏省釀造試驗所報告第四十一號ニ依ル)申請アリタル場合ハ之ヲ衛生上危害ヲ生スル虞ナキ有効ナル方法トシテ認メ得ヘキヤ否ヤ
- 二、前項方法ヲ以テ許可差支ナキモノトセハ煨製石灰投入ノ分量並其ノ放置時間如何
- 三、前項ノ方法ヲ以テ行ヒ尙「フォルムアルデヒド」ノ含有シアル場合ニ於テハ除去不可能ノモノト認メ差支ナキヤ
- 四、第一項ノ方法以外ニ「フォルムアルデヒド」除去方法アリヤ否ヤ

【答】(大正五年四月二十七日)

本件ニ關シ本月十八日附衛發第六三號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ左記ノ通ニ有之候

左記

- 一、適量ニ煨製石灰ヲ使用シ操作方法宜シキヲ得ルニ於テハ本法ハ理論上有効ニシテ又衛生上危害ヲ生

スルノ虞ナキモト認メ得ヘシ

- 二、本法ハ「フォルムアルデヒド」ノ含量ニ對シ一定ノ比例ニ煨製石灰ヲ附加スルノ必要アルカ如シ然レトモ其比例及放置ノ時間ニ關シテハ尙詳細ナル研究ヲ缺ク
- 三、完全ニ本法ヲ施行シタル場合ニ於テハ「フォルムアルデヒド」ヲ殘存セサル筈ニシテ其除去必スシモ不可能ニアラサルヘシ
- 四、本法ノ外有効ナル方法未タ確定セルヲ聞カス

●硫酸アルミニウム硫酸アムモニウム等ヲ主劑トシタル飲食物防腐劑許否ニ關スル件

【照】(大正五年五月大阪府知事ヨリ衛生局長ヘ)

硫酸アルミニウム、硫酸アンモン等ヲ主劑トシタル醬油、清酒類ノ防腐劑販賣ノ義ニ付別紙寫ノ通願出ノモノ有之候處右ハ飲食物防腐劑取締規則第一條規定品類外ノモノナルモ衛生上有毒ナルモノト被認候ニ付許可セサル方可然哉ニ被存候得共一應貴局ノ御意見承知致度候條何分御回示相煩度候(別紙略之)

【答】(大正五年六月衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ客月廿六日御照會ノ趣了承右ハ御見込ノ通り御取計相成可然ト被存候

●清酒防腐劑トシテ鹽化アルミニウム使用ニ關スル件

(大正五年七月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正五年七月十四日兵庫縣知事ヨリ衛生局長へ)

鹽化アルミニウムヲ清酒防腐劑ニシテ使用致度旨酒造業者ヨリ申出タル趣ヲ以テ別紙寫ノ通豐岡稅務署長ヨリ照會有之候處右ハ飲食物防腐劑取締規則第一條規定外ノモノナルモ衛生上支障アルモノト被認候ニ付之カ使用ヲ承認セサル方可然ト存候へ共一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

【答】(大正五年七月二十五日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ本月十四日附衛收第六七三二號ヲ以テ御照會ノ趣右御見込ノ通御取扱相成可然ト被存候

●飲食物防腐劑(魔法劑)取締ニ關スル件

【照】(大正五年七月二十六日廣島縣知事ヨリ衛生局長へ)

本縣ト吳市和庄町宮田増太郎ノ製造販賣ニ係ル魔法劑ハ生魚貯藏ノ目的ヲ以テ使用スル一種ノ防腐劑ニ有之候處本品ハ同市種野伴隼外一名ノ出願ニ依リ明治四十二年五月十八日第一六二九〇號ヲ以テ十五ケ年間ノ特許權ヲ(特許公報明治四十二年五月二十八日第一三三七號登載)得タルモノナルモ當廳ニ於テ試驗ノ結果硼酸ヲ含有スルモノナルコトヲ發見候ニ就テハ明治三十六年九月內務省令第十號飲食物防腐劑取締規則ニ牴觸セルモノト認メラルルモ一面特許局ノ見解モ可有之旁々取締上聊疑義相生シ候條御意見

見承知致度候也

【答】(大正五年八月四日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ客月二十六日衛第三四二〇號ヲ以テ照會ノ趣了承右ハ特權ヲ得タルモノト雖防腐劑ヲ含有シ衛生上危害ヲ生スルノ虞アルモノハ規則ニ依リ相當取締相成可然候

●「フオルマリン」ヲ酒造業者ニ購買セシメサル件

【照】(大正五年九月十三日主稅局長ヨリ衛生局長へ)

「フオルマリン」ヲ酒造業者ニ購買セシメサル方針ノ件ニ關シ本年八月八日附衛省第七三三號ヲ以テ御回答ノ趣了承右ハ明治三十九年貴局御申牒ノ趣旨ト同一ノ理由ニ依リ今回各地方廳へ通牒相成候趣ニ候處當時貴局カ當局ニ對シ御照會相成候處ハ單ニ「フオルマリン」ヲ貯藏桶ノ消毒ニ使用スルトキハ往々「フオルムアルデヒド」ノ清酒ニ移行スル虞アルヲ以テ酒桶ノ消毒ニ「フオルマリン」ヲ使用セシメサルコトニ致度トノ希望ニ有之從ツテ當局ニ於テモ爾後酒桶ノ消毒ハ成ルヘク之ヲ避ケシムルコト、シ若シ已ヲ得ス之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ消毒後ノ處理ヲ充分ナラシメ防腐劑取締規則ニ牴觸セサル様特ニ注意ヲ加ヘ居リ候次第ニシテ今後ト雖此ノ方針ニ依リ取扱フヘク候得共元來酒造家カ「フオルマリン」ヲ購入スルハ糞ニモ糺々申進置候通り單ニ貯藏桶ノ消毒ノミナラス主トシテ其ノ製造場就中製麹室・醱酵室及貯藏庫等ノ消毒殺菌用トシテ使用スルモノニ有之候條今回各地方廳ニ對シ御通牒相成候如ク酒造業者ヲシテ全然「フオルマリン」ヲ購入ヲ爲サシメサルコト、相成候テハ酒桶製造上最モ重大ノ關係ヲ有スル製造場ノ殺菌消毒ヲ行フニ由ナク從ツテ醸造ノ安全ヲ期スルコトヲ得ス腐敗ハ愈々増加スルニ立至リ

其ノ影響スル慮甚大ナルモノ有之候所ノ如ク本件ハ今回回答ノ如キ單ニ貯藏桶消毒ノミノ問題ニ無之全ク酒造業ノ安全ニ關スル重大事項ニ有之候間右各地方廳ニ對スル御通牒ニ就テハ是非此際御考慮相成候様致度殊ニ今ヤ漸ク本年ノ酒造期ニ入ラムトスルニ際シ差懸リタル儀ニ有之候條至急何分ノ御回示相煩度此段重テ及照會候也

【答】(大正六年十二月二十日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ客年九月十三日付第九一五五號ヲ以テ御照會ノ趣了承酒造業者ノ行フ可キ消毒方法ニ付テハ強チ「フォルマリン」ニ依ルヲ要セス他ニ適當ナル方法モ有之ノミナラス之ヲ酒造業者ノ手ニ委スルトキハ如何ニ之カ使用ヲ爲スヤハ素ヨリ豫知スルコトヲ得ス依ツテ生スヘキ衛生上ノ危害不尠儀ト被存ニ候付右御了知ノ上再考相成度此段及回答候也

【照】(大正七年一月三十一日主税局長ヨリ衛生局長ヘ)

客年十二月二十日附衛省第九一二號ヲ以テ「フォルマリン」ヲ酒造業者ニ購買セシメサル件ニ付酒造業者ノ行フヘキ消毒方法ニ付テ強チ「フォルマリン」ニ依ルヲ要セス他ニ適當ナル方法アル趣御申越相成候處右適當ナル他ノ方法爲參考承知致度候條御回示相成度此段及照會候也

【答】(大正七年三月一日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ一月三十一日往第八六七號ヲ以テ照會ノ趣了承右ハ桶ニ對シテハ從來ノ消毒方法即チ蒸氣殺菌、熱湯洗滌、日光乾燥、サリチール酸含有ノ酒精又ハ燒酎塗布、倉庫等ハ内部ノ清掃、熱湯清拭等ヲ適當ト被存候

●醬油防腐劑トシテ藥品「イソユージェノール」等配伍許否ノ件

(大正六年十月衛生局長ヨリ各地方長官ヘ通牒)

【照】(大正六年九月十七日山口縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

- 一、醬油黴止劑 (スキルチン)
- 一、藥品分量 イソユージェノール三〇% アセトユージェノール〇・五% アルコホル六九・五%
- 一、製法 一、用法 (略ス)
- 一、効能 右ヲ使用スルトキハ上等醬油ニシテ二十日間下等醬油ニシテ十日間黴ヲ防止スル効能アリ

右製劑賣藥部外品トシテ願出候處之カ許否ニ關シ聊カ疑義相生シ候ニ付貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

【答】(大正六年十月十二日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ客月十七日附衛第四三六二號ヲ以テ御照會ノ處右ハ許可スヘキモノニ無之ト被存候

●清酒醬油防腐劑許否ニ關スル件

(大正八年六月衛生局長ヨリ各地方長官ヘ通牒)

【照】(大正八年六月五日和歌山縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

清酒醬油等防腐ノ目的ヲ以テ左記ノ藥品ヲ調合シ賣藥部外品トシテ製造致度旨ノ出願者有之候處右ハ取

締以外ノ藥品ナルモ許否ニ付疑義相生シ候間何分ノ御回示相成度候也
追ツテ明治四十二年九月十四日附ヲ以テ石川縣ノ照會ニ對スル御回答ノ次第モ有之候へ共「ビオクタ
ニン」¹「タンニン」²酸ノ何レニ對スル不許可ノ御意見ニ候哉了解致兼候間本照會ニ對シ若シ不許可ノ御
意見トスレハ其ノ何レナルヤ又分量ノ如何ニ關スルトキハ其ノ旨各別ニ舉示相煩度申添候

記

一、防腐液

唐カラシ 五匁 タンニン酸 五匁

右水一升ニ溶解シタルモノ

使用分量 醬油一石ニ對シ本液一合ヲ加フ

【答】（大正八年六月二十七日衛生局長ヨリ）

本月五日附衛第三三八五號ヲ以テ標記ノ件許可ノ儀ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ許可相成可然ト被存候

●防腐劑「纈草酸」許否ノ件

（大正十一年十二月十五日衛保第二四八號衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒）

【照】（大正十一年六月十七日衛第四五七七號廣島縣知事ヨリ）

左記製法、用法、効能ニ依リ賣藥部外品ノ免許ヲ出願セル者有之候處右ハ防腐劑取締規則以外ノモノナ
ルモ之カ許否ニ關シ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致度候

一、製法 纈草酸一五瓦 水四三五瓦 右二味ヲ混シ四五〇瓦トス

一、用法 右四五〇瓦ノ液ヲ醬油五石中ニ混ス

一、効能 微止

【答】（大正十一年十二月衛生局長ヨリ）

六月十七日附衛第四五七七號ヲ以テ御照會ノ趣了承東京衛生試驗所試驗報告ニ依レハ右ハ防腐劑トシテ
効力有之モノト難認候條可然御取許相成度候

●飲食物防腐劑取締ニ關スル件

【通】（大正十一年十二月二十七日省發第二四七號衛生局長ヨリ各地方長官へ）

現今飲食物著色料トシテ使用セラル、「カラメル」ノ主ナルモノニ就キ「フォルムアルデヒド」ノ含有量
ヲ調査シタル東京衛生試驗所ノ試驗別冊ノ通りニ有之候條御参考相成度右成績及現今著色料トシテ一
ニ使用セラル、「カラメル」ノ濃度ニ微スルトキハ之ヲ使用セル飲食物中ニ存在スル「フォルムアルデヒ
ド」ノ含量ハ極メテ僅微ト認メラレ候處「カラメル」中ニ「フォルムアルデヒド」ノ存在スルヲ奇貨ト
シ「カラメル」ヲ使用セル飲食物ニ對シ故意ニ「フォルムアルデヒド」ヲ使用スル者無之ヲ保シ難ク候條
「カラメル」ヲ使用セル飲食物ニ對シテハ其ノ「フォルムアルデヒド」カ「カラメル」使用ノ結果自然ニ移
行セルモノナルヤ否ヤニ付不斷御注意相成度取締上遺憾ナキ様致度
追テ現今ニ於テハ他ニ適當ナル「カラメル」代用品ヲ求ムルコト困難ナル次第モ有之「フォルムアルデ
ヒド」ノ含量カ別冊衛生試驗所ノ試驗成績程度ノ「カラメル」ニ付テハ當分ノ力使用ヲ認容スルハ不
得止モノト認メラレ候條「カラメル」及「カラメル」ヲ使用セル飲食物ニ對シテハ當分飲食物防腐劑取

標記ノ件ニ關シ衛第六五六四號ヲ以テ御照會ノ趣了承右蒼鉛鹽類ハ總テ許可致サ、ル様致度候

● 飲食物防腐劑ニ關スル件

(大正十三年九月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正十三年衛第四一五二號德島縣知事ヨリ衛生局長へ)
本縣トニ於テ「トリプロム石炭酸蒼鉛」ヲ清酒防腐劑トシテ使用ノモノ有之候處本品ハ飲食物防腐劑取締規則規定以外ノモノニ屬シ使用差支ナキ様被認候モ衛生上害否ニ關シ聊力疑義相生シ候條本品使用ニ關シ貴局ノ御意見承知致度候

【答】(大正十三年九月衛生局長ヨリ德島縣知事へ)
標記ノ件ニ關シ衛第四一五二號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ使用セシメサル様致度候

● 清酒防腐劑ニ關スル件

(大正十四年一月十九日衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正十三年十二月八日衛第一五一一六號大阪府知事ヨリ衛生局長へ)
醋酸アルミニウム液ヲ清酒防腐劑トシテ販賣申請シ來リタルモノ有之候處許可差支無之哉許可差支ナキモノトセハ其分量併テ御回示御煩度候

【答】(大正十四年一月十九日衛生局長ヨリ大阪府知事へ)

標記ノ件ニ關シ大正十三年十二月八日附衛第一五一一六號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ豫テ東京衛生試験所ノ報告ノ次第モ有之本品ハ之ヲ許可セサル様致度候

● 飲食物防腐劑取締ニ關スル件

(大正十四年一月二十二日衛生局長通牒)

【照】(大正十三年十二月廿日衛第一四六四九號福岡縣知事ヨリ衛生局長へ)
部内福岡市食料品店明治屋ニ於テ販賣ノ爲貯藏スル米國製「櫻實墨詰」ハ禁止防腐劑タル亞硫酸ニテ防腐セル旨貼付レツテルニ歐文ヲ以テ技術者ヲシテ反覆之カ試験ヲ行ハシムルモ之ヲ檢出セスシテ既ニ硫酸鹽類ニ變化セルヲ發見セリ就テハ同一殘品(約四百圓ニ相當スル現品)有シ勿論之カ全部ニ涉リテ試験ヲ行ヘルモノニアラス)ハ其實質ニ於テ既ニ有害ニアラストノ理由ニ依リ此マ、販賣セシメテ然ル可キヤ或ハ禁止防腐劑使用ノ旨明記セルヲ以テ販賣ヲ禁止シ輸入元又ハ製造元等へ返還ノ手續ヲ執ラスヘキヤ至急何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

【答】(大正十四年一月二十二日衛生局長ヨリ福岡縣知事へ)
標記ノ件ニ關シ客年十二月廿日附衛第一四六四九號ヲ以テ御照會趣了承右ハ販賣セシメサル様致度候

● 飲食物防腐劑ニ關スル件

(大正十四年四月七日衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正十四年二月廿日衛第七七九號大阪府知事ヨリ衛生局長へ)
 カゼイン、硫酸アルミニウム、アンモニア水等ノ混液ニ蜜柑其他ノ果實ヲ浸シ乾燥皮膜ヲ生セシメ細菌ノ浸入ヲ防ク目的ヲ以テスル藥品ヲ藥業規則外製劑トシテ發賣出願ノモノ有之候處許可差支無之哉一應御意見承知致度候

【答】(大正十四年四月七日衛生局長ヨリ大阪府知事へ)
 標記ノ件ニ關シ本年二月廿四日附衛第七七九號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ許可致ササル様致度候

●醬油防腐劑取締ニ關スル件

(大正十四年五月五日衛保第四五八號衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正十三年八月二十二日衛發第六六一九號新潟縣知事ヨリ)
 肉桂酸ナトリウムヲ配合セル醬油防腐劑發賣許可ニ關シ廣島縣ノ照會ニ對シ大正十年六月衛廣第七七九號ヲ以テ御回答ノ次第モ有之當業者ニ對シ之カ使用セシメサル様取締居候處今同縣下中蒲原郡小須戸町井須合名會社ニ於テ醬油一石六斗ニ左記該當製劑ヲ混入發賣セルヲ發見シ直ニ混入ヲ差止メ候得共飲食物防腐劑取締規則第一條規定ノ品目ニ該當セサル爲メ混合醬油ノ處分ニ關シ聊カ疑義ヲ生シ候條何分ノ御指示相仰度此段及照會候也

一、名稱 モールダン

一、京都市下京區本町通十五丁目東福寺北門化學研究所製造

一、大阪市西區報上通二丁目今野商店發賣

【答】(大正十三年十二月九日衛保第四五八號衛生局長ヨリ)

標記ノ件ニ關シ八月二十二日衛發第六六一九號ヲ以テ御照會ノ趣了承右現品ニ付テハ現在處分スヘキ法規無之ノミナラス防腐劑取締規則トノ關係モ有之カ販賣ノ禁止ハ穩當ナラサル嫌有之候條本件取締ニ關シ追テ何分ノ決定ヲ爲ス迄ハ大正十年六月衛第三二九七號廣島縣知事ニ對スル回答ノ趣旨ニ鑑ミ注意其他ノ適當ノ方法ニ依リ當業者ニ於テ該製劑ヲ使用セサル様御取計相成候様致度

●微止劑原料許可否ノ件

(大正十四年十二月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(大正十四年十月三十日衛第四一七號警視總監ヨリ衛生局長へ)

フルフラール二分、無水醋酸四分、無水醋酸ソーダ四分混シ攝氏百六十度ニ十二時間加熱シ之ヲ多量ニ冷水中ニ注キ析出セル「フルフルールアクリン酸」ヲ曹達ニ結合セシメテ乾燥シ醬油ノ如キ醱酵液ノ生成或ハ味ノ變質ヲ防キ微止ニ効アリトシテ免許出願セル者有之候處許可否ニ付疑義相生シ候貴局ノ御意見承知致度及照會候也

【答】(大正十四年十二月四日衛生局長ヨリ警視總監へ)

標記ノ件ニ關シ本年十月三十日附衛第四一七號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ許可スヘキモノニ無之ト存候

第五節 人工甘味質

●人工甘味質取締規則

(明治三十四年十月内務省令第三一號 【最近】昭和三年六月十二日内務省令第二一號改正)

- 第一條 人工甘味質トハ「サツカリン」(甘精)其ノ他之ニ類スル化學的製品ニシテ含水炭素ニ非サルモノヲ謂フ
- 第二條 販賣ノ用ニ供スル飲食物ニハ人工甘味質ヲ加味スルコトヲ得ス
前項ノ規定ニ違反スル飲食物ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若クハ貯藏スルコトヲ得ス但シ治療上ノ目的ニ供スヘキ飲食物ノ調味ニ使用スルハ此限リニ在ラス
- 第三條 人工甘味質ヲ加味シタル治療上ノ目的ニ供スヘキ飲食物ヲ販賣セムトスル者ハ其ノ氏名及營業所ヲ主タル營業所々在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第四條 前項ノ飲食物ハ醫師ノ證明アル者ニ限り之ヲ販賣授與スルコトヲ得
- 第五條 地方長官ハ第二條第一項ノ規定ニ違反スル飲食物ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違反シタル營業者ニ關シテ亦同シ
- 第六條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得
- 第七條 第二條第一項第三條第一項又ハ第四條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニノ六字ヲ記スヘシ

處ス(昭和三年第二十一號改正)

- 第八條 營業者カ未成年者、禁治産者又ハ法人ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人又ハ代表者ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限リニアラス
 - 營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カル、コトヲ得ス
 - 第九條 本則ハ明治三十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
 - 第十條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ
- 附 則 (昭和三年六月十二日省令第二一號)
本令ハ昭和三年六月十二日ヨリ之ヲ施行ス

●人工甘味質取締規則施行細則

(明治三十五年六月大阪府令第五九號)

- 第一條 治療上ノ目的ニ供スヘキ飲食物ノ調味ニ人工甘味質ヲ使用シ之ヲ販賣セムトスル者ハ本籍住所氏名年齢及其ノ目的ヲ記シタル書面ニ製造場ノ圖面ヲ添へ營業所所轄警察署ヲ經テ當廳ニ届出ツヘシ製造場所ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 第二條 前條ノ許可ヲ得タル營業者ハ其ノ營業ニ關スル帳簿ヲ調製シ買受人ノ住所氏名及其ノ數量ヲ記スヘシ

醫師ノ證明書ハ編冊シ三年間保存スヘシ
 前二項ノ規定ハ代理販賣者又ハ請賣者ニ適用ス
第三條 規則第三條第三項ノ屆書ニハ同項規定ノ外其ノ住所ヲ記スヘシ
第四條 規則第四條ノ容器又ハ被包ニハ同條規定ノ外製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ
第五條 第一條ノ許可ヲ得タル製造所ニ於テハ他ノ飲食物ヲ製造シ又ハ藏置スルコトヲ得ス
第六條 人工甘味質ヲ調味シタル飲食物ト混同セサル爲販賣所ニ一定ノ置場ヲ設クヘシ
第七條 營業者改氏名移轉廢業ヲ爲シ又ハ代理販賣者若ハ請賣者ヲ廢シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ届出ツヘシ移轉ノ場合ニシテ他ノ警察官署所轄内ニ係ルトキハ移轉先ノ警察官署ヲ經由シ前住所地ノ警察官署ニ其ノ旨届出ツヘシ
第八條 本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 死亡失踪ノ場合ハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ本條ノ手續ヲ爲スヘシ
 十二歳未満ノ者ハ禁治産者ニシテ本則ニ違背シタルトキハ其ノ法定代理人ニ、法人ナルトキハ其ノ代表者ニ前項ヲ適用ス

(通牒 照覆)

●砂糖代用品トシテ「サツカリン」ヲ使用スルモノノ取締ニ關スル件

【通】(明治四十二年二月答申第三號ノ内)

近來砂糖消費稅増徴ノ結果坊間ニ於テ砂糖代用品トシテ「サツカリン」ヲ使用スルモノ多キヤノ趣傳フルモノ有之候ニ付テハ明治三十四年十月内務省令第三十一號人工甘味質取締規則ニ依リ嚴重御取締相成候様致度依命此段及通知候也

●人工甘味質取締規則適用ニ關スル件

【照】(大正四年七月三日熊本縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

本縣管内ニ於テ酒精含有飲料(人工葡萄酒)ノ甘味補助劑トシテ「グリセリン」ヲ加味販賣セントスル者有之候處右ハ人工甘味質取締規則ヲ適用スヘキモノナルヤ差當リタル事件有之候條至急何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

【答】(大正四年七月二十二日衛生局長ヨリ)

本件ニ關シ衛第四七一號ヲ以テ御照會趣了承右ハ人工甘味質取締規則ニ依リ御取締相成可然存候

●人工甘味質取締規則適用ニ關スル件

【照】(大正四年九月一日大阪府知事ヨリ衛生局長ヘ)

「グリセリン」ト酒類ノ自然的成分トシテ含有セルモノ多ク從テ「サツカリン」等ト其ノ趣ヲ異ニセルヲ以テ當府ニ於テハ當該取締規則第一條所定範圍外ノモノトシテ取扱來リ候處這般玉造稅務署長ヨリ本年七月三日衛第四七一號熊本縣知事照會ニ對スル同月二十三日衛第一五八號衛生局長回答寫ヲ添付シテ當該

取締方針ニ付照會越候ニ付テハ之ニ對スル回答將來ニ於ケル取締上該規則ヲ適用スヘキヤニ付疑義相生シ候條々急御意見承知致度候也

追テ從來ノ實驗ニ依レハ酒類ニ該劑ヲ加味セル事實ヲ發見セシコト無之尙前叙熊本縣知事ニ對スル御回答ノ件ニ付テハ當府ニ通牒セラレ居ラサル次第ニ候條此旨申添候也

【答】(大正四年九月八日衛生局長ヨリ)
本件ニ關シ本月一日衛第五二二四號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ人工甘味質取締規則ニ依リ御取締相成可然存候

●家庭用甘味料トシテ「サツカリン」製造販賣許 否ノ件

【照】(大正八年八月十八日和歌山縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

縣下ニ於テ家庭用甘味料トシテ「サツカリン」ヲ大規模ニ製造シ販賣差支ナキヤノ伺有之法令上別段差支ナキモノト被存候得共何分ノ御意見至急承知致度及照會候也

【答】(大正八年十一月三日衛生局長ヨリ)

標記ノ件ニ付八月十八日衛第六三二二號ヲ以テ御照會ノ處右ハ家庭用甘味料ナル名稱ノ下ニ販賣セラレルトキハ公衆ヲシテ誤解セシムル虞モ可有之被存候ニ付單ニ「サツカリン」タルコトヲ明示シ販賣セシメ候様致度

第六節 有害性著色料

●有害性著色料取締規則

(明治三十三年四月十七日內務省令第一七號【最近】大二年七月同省令第一二號改正)

第一條 有害性著色料ヲ分テ左ノ二種トス

第一種 左ニ掲クル物質其ノ化合物及之ヲ含有スルモノ

砒素、拔留謨、嘉度密烏謨、格羅謨、銅、水銀、鉛、錫、安知母紐謨、烏拉紐謨、亞鉛、藤黃、必假林酸、「チニトロクレゾール」、「コラルリン」

第二種 左ニ掲クル物質及之ヲ含有スルモノ

硫酸拔留謨、硫化嘉度密烏謨、酸化格羅謨、朱、酸化錫、「ムツシーフ」金、酸化亞鉛、硫化亞鉛、銅、錫、亞鉛及其ノ合金屬ニシテ固有ノ光澤ヲ有スルモノ

第二條 有害性著色料ハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ著色ニ使用スルコトヲ得ス但シ野菜果實類ノ貯藏品

ニアリテハ其ノ「キログラム」中銅百「ミリグラム」ヲ、昆布ニアリテハ其無水物「キログラム」中銅百五十「ミリグラム」ヲ含有スル限度マテ銅、銅化合物又ハ之レヲ含有スル著色料ヲ使用スルハ此ノ限

リニ在ラス

第三條 有害性著色料ヲ以テ著色シタルモノハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ容器又ハ被包トシテ使用スル

コトヲ得ス但シ左ニ掲クルモノハ此ノ限リニアラス

一、漆、硝子、釉藥又ハ珽瑯質ニ有害性著色料ヲ融和シタルモノ

二、第一條第二種ノ著色料ヲ以テ著色シタル容器又ハ被包ニシテ飲食物ニ其著色料混入ノ虞ナキモノ
第四條 第一條第一種ノ著色料ハ販賣ノ用ニ供スル化粧品(化粧品中ニハ「白髮染粉」ヲ包含ス)齒磨、小
玩弄品(繪雙紙、錦綿、色紙ヲ含ム)ノ製造又ハ著色ニ使用スルコトヲ得ス但シ左ニ掲クルモノハ此限
リニアラス

一、漆、硝子、釉藥又ハ珽瑯質ニ有害性著色料ヲ融和シタルモノ

二、護謨質ニ融和シタル金硫黃

三、乾燥油又ハ「ワニス」ニ融和シ若ハ「ワニス」ヲ塗布シタル酸化鉛(鉛丹ヲ含ム)又ハ格羅謨酸鉛(硫
酸鉛ト併用セルモノヲ含ム)但シ剝離シ易キモノハ此ノ限リニ在ラス

四、水ニ不溶性ノ亞鉛化合物ニシテ護謨質又ハ「ワニス」ニ融和シ若ハ「ワニス」ヲ塗布シタルモノ

酸化亞鉛ハ護謨質又ハ「ワニス」ニ融和シ若ハ「ワニス」ヲ塗布スル場合ノ外販賣ノ用ニ供スル護謨製玩
弄品ノ製造又ハ著色ニ使用スルコトヲ得ス(本條第三項以下明)

第五條 砒素ヲ含有スル著色料ハ販賣ノ用ニ供スル衣服其ノ他身ノ圍リニ用フル物品又ハ其材料ノ著色
ニ使用スルコトヲ得ス但シ布片百平方「センチメートル」中ニ「ミリグラム」以下ノ砒素ヲ含有スルモノ
ハ此限リニアラス

第六條 第二條ニ違背シテ著色シタル飲食物第三條ノ容器被包及ヒ之ヲ使用シタル飲食物又ハ第四條若
ハ第五條ニ違背シテ製造シ著色シタル物品若ハ材料ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯
藏スルコトヲ得ス

第七條 前條ノ物品ニ關シテハ地方長官ハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ
得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第八條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第九條 第二條乃至第六條ニ違背シタル者ハ貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ
適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限リニアラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シ
タルトキハ自己ノ指揮ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カル、コトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル
罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第十一條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 鉛白ハ當分ノ内第四條ノ規定ニ拘ハラズ化粧品トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十三條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●有害性著色料取締規則施行規則

(明治三十三年六月大阪府令第四一號)

第一條 有害性著色料取締規則第一條ニ規定セル著色料ノ製造營業ヲナサントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ
所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ出願認可ヲ受クヘシ増設改築變更セントスルトキ亦同シ

- 一、場所ノ郡市區町村名番地
- 二、製造品ノ種類及製造方法
- 三、使用器械ノ種類個數
- 第二條 有害性著色料ノ請賣營業ヲナサントスル者ハ其營業所ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 第三條 製造營業者ハ著色料ノ容器又ハ包紙ニ有害性物質ノ種類分量及住所氏名ヲ記載シ且ツ封緘ヲ施スヘシ
- 請賣營業者小分ケ又ハ詰替ヲナサントスルトキハ前項ニ依ルノ外自己ノ住所氏名ヲ記載スヘシ但シ外國輸入品ニ係ルモノハ製造者ニ代フルニ輸入取扱人ノ住所氏名ヲ以テスルコトヲ得
- 第四條 有害性著色料ハ他ノ著色料等ト混合セサル様區別ヲ設ケ陳列若クハ貯藏スヘシ
- 第五條 營業者轉居、改氏名、廢業又ハ死亡シタルトキハ其旨前ニ認可ヲ受ケタル官廳ニ（死亡ハ遺族ヨリ）届出ツヘシ
- 第六條 本則ニ違背シタルモノハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾錢以下ノ科料ニ處ス
- 第七條 明治三十一年五月大阪府令第四十五號著色料取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

(通牒照覆)

●有害性著色料取締規則中漆ニ關スル件

【照】(明治三十三年七月五日福岡縣知事ヨリ衛生局長へ)

本年内務省令第十七號有害性著色料取締規則第四條第一ノ漆ト稱スルハ單ニ日本ニテ製スル植物性ノ漆ノミヲ稱スル儀ニ可有之乎本縣福岡市ニ於テハ博多人形ト稱シ小兒玩具及ヒ床据等ニ供スル人物ノ模像ヲ製シ海外ニモ多少輸出致候右ニ使用スル著色料ハ「デコラチオンラツク」即チ西洋漆ニ色素ヲ溶和シ又ハ著色ノ後其ノ表面ニ「ラツク」ヲ塗布シ巧ニ光澤ヲ發セシメ殆ント軸藥ノ如キ觀有之之ヲ水中ニ數時間投入スルモ色素ノ他物ニ附着スル虞ハ無之右「ラツク」ニ溶和シタルモノハ規則第四條第一ノ漆トシテ差支ハ無キ様被認ル尤モ粗造ノモノハ或ヒハ幾分色素ノ他物ニ附着スルコトアルモ粗造ノモノハ日本流ニテモ同様ニ有之候事實前記ノ通り有害ノ虞ハ無之候得共取締上漆ノ定義ニ於テ幾分疑義有之候ニ付 應貴局ノ御意見承知致度此段及御照會候也

追ツテ本文ノ「ラツク」ハ規則第四條ノ一ニ依ルヘカラサルモノトセハ多數製造者ニハ大影響ヲ及ホシ該「ラツク」ハ價格ノ上及ヒ使用ノ上ニ於テ他ニ之ニ代ルヘキモノナク餘程困難ノ狀況ヲ見受ケ候條至急何分ノ御報ニ預リ度此段申添候

【答】(明治三十三年九月二十日衛生局長ヨリ)

本年七月衛發第三二號ヲ以テ小兒玩具及ヒ床据品等ニ使用スル西洋漆ニ關シ御照會相成候處本年省令第十七號第四條ノ漆トアルハ普通西洋漆ト稱スル假漆ノ類ハ包含セサル精神ニ有之候ニ付玩具具ヲ著色スル有害性著色料ノ被包料トシテ使用スル能ハスト存候此段及回答候也

●飲食物ニ參兒色素使用ニ關スル件

【照】(明治三十三年十一月十五日香川縣知事ヨリ衛生局長へ)

參兒色素ヲ飲食物著色料トシテ使用ノ儀ニ付テハ純粹ニシテ其全量四分ノ一以下ヲ含有スルモノニ限り

從來使用販賣差許來候處本年六月御省令第三十號清涼飲料水營業取締規則第五條第五項ニ依レハ同色素ヲ含有スルモノヲ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得サル規定ニ有之本年四月御省令第十七號有害性著色料取締規則ニハ規定ナキモ右ハ清涼飲料水而已ナラス一般飲食物著色料トシテ使用スルヲ得サル事トハ被存候得共取締上聊カ疑義相生シ差懸リタル儀モ有之候條至急何分ノ御回報相成度此段及御問合候也

【答】(明治三十三年十一月二十六日衛生局長ヨリ)

本月十五日附衛第一二三〇號ヲ以テ參見色素ヲ飲食物著色料トシテ使用スル儀ニ付御照會相成候處右ハ本年省令第十七號第一條ニ抵觸セサル色素ニシテ他ノ法令ニ於テ特ニ制限セサル以上ハ假令參見色素ト雖モ使用スルニ差支ナキ趣旨ニ有之候條御了知相成度此段及御回答候也

●有害性著色料取締規則中化粧品ニ關スル件

(明治三十六年四月衛生局長ヨリ各地方長官へ通牒)

【照】(明治三十六年三月十二日廣島縣知事ヨリ衛生局長へ)

有害性著色料竝ニ娼妓健康診斷上取締ニ關シ左記ノ廉々疑義相生候條御意見承知致度右ハ目ト差掛リタル件有之候ニ付至急御回報ニ接シ度此段及問合セ候也

- 一、有害性著色料取締規則第四條ニ掲ケアル化粧品ノ内ニハ坊間ニ販賣セラレツ、アル「白髮染粉」ヲ包含セルヤ否ヤ果シテ之ヲ包含セサルモノトセハ例ハ炭酸鉛ヲ含有スルモノト雖モ取締ノ範圍外ト見做シ可然乎
- 二、(省略)

【答】(明治三十六年四月八日衛生局長ヨリ)

三月十二日附警警坤第四十五號ヲ以テ有害性著色料竝ニ娼妓健康診斷上取締ノ儀ニ付御問合セノ處左記ノ通り御了知相成度此段及回答候也

- 一、有害性著色料取締規則第四條ニ掲ケル化粧品中ニハ「白髮染粉」ヲ包含ス

●毒藥硫藏酸ヲ含有スル玩具取締ニ關スル件

【照】(明治四十三年九月十二日長崎縣知事ヨリ衛生局長へ)

縣下ニ於テ蛇玉ト稱スル玩具(小サキ白色ノ玉)ヲ販賣シ居ル者アルヲ以テ收去試験セシニ硫藏酸水銀ヲ含有スルヲ發見候何等法規ノ據ルヘキモノナク處分上疑義相生候條何分ノ御回報相煩ハシ度此段及照會候也

【答】(明治四十四年六月十三日衛生局長ヨリ)

硫藏酸水銀ヲ含有スル玩具取扱方ノ儀ニ付客年九月十二日附乙衛第三五一〇號ヲ以テ御照會ノ處右ハ有害性著色料ト看做シ規則第四條ニヨリ御取扱相成度此段及回答候也

●剝製品ハ多量ノ亞砒酸ヲ含有セルヲ以テ注意ヲ要スル件

【通】(大正二年十月衛第五一三六號衛生局長ヨリ各地方長官へ移牒)

本邦ヨリ輸出スル剝製鳥類ハ獨逸國ニ於テ專ラ小兒ノ玩具ニ供セラル、趣ノ處同國漢堡警察署ニ於テハ

右剝製品ハ化學的試驗ノ結果多量ノ亞砒酸ヲ含有セルヲ以テ衛生上有害ノモノトシテ使用セサル様告示ヲ發シ又獨逸帝國衛生局モ同一意見ノ下ニ該告示ヲ衛生公報ニ掲載シタル旨在本邦獨逸大使ヨリ申越候外務省ヨリ通知有之候依ツテ東京衛生試驗所ヲシテ實物ニ就キ試驗セシメ候處果シテ多量ノ亞砒酸ヲ含有セルコトヲ發見シ之ヲ小兒玩具トシテ使用スルハ衛生上頗ル危険ナル旨報告有之候ニ付御注意相成度

●有害性玩弄品取締ノ件

【照】(大正十年十月十一日衛第七四八九號廣島縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

有害性著色料取締規則第四條中「化粧品、齒磨、小兒玩弄品ノ製造又ハ著色ニ使用スルコトヲ得ス」トアルハ「化粧品、齒磨ノ製造小兒玩弄品ノ著色ニ使用スルコトヲ得ス」ト解釋スヘキハ論ヲ俟タサル處ナルモ近來當市内ニ於テ蛇玉ナル小兒玩弄品ヲ販賣スルモノ有之試驗スルニ毒物硫酸化水銀ヲ以テ製造セルモノニ付有害ナルヲ以テ之カ販賣ヲ禁止スル必要有之ト認メ候然ルニ右ハ硫酸化水銀其ノモノヲ以テ製造セルモノニシテ著色シタルモノニ非ス依ツテ該條ニ依リ取締ルコト能ハス左リトテ之ヲ不問ニ附スルハ穩ナラサルコト、有候就テハ果シテ取締ヲ要スルモノトセハ之カ適用法ニ付キ承知致シ度右ハ差懸リタル儀有之候條至急何分ノ御回答相煩度
追ツテ參考マテニ現品一袋添附置候

【答】(大正十年十月二十五日衛醫第一三九一號內務省衛生局長ヨリ)

有害性玩弄品取締ノ件ニ關シ十月十一日附衛第七四八九號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ有害性著色料ト看做シ規則第四條ニ依リ御取締相成度

●飲食物著色料トシテ群青「ウルドラマリン」使用ノ件

(大正十一年十二月衛生局長ヨリ各地方長官ヘ通牒)

【照】(大正十一年八月二十九日衛第二一六號滋賀縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

最近菓子類ノ著色料トシテ群青(ウルドラマリン)ヲ使用スル者有之候處該品ハ少量ニ過キサルモ可溶性珪酸「アルカリ」ヲ含有スルノ外酸ニ依リテ硫化水素ノ發生スルモノニ付有害品トシテ取締ルノ必要アルカト思料セラレ候モ未タ規程ニ何等制定ナキモノナルヲ以テ聊カ疑義ヲ生シ候條貴局ノ御意見承知致度右及照會候也

【答】(大正十一年十二月九日衛生局長ヨリ)

標記ノ件ニ關シ八月廿九日衛發第二一六號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ有害著色料取締規則適用ノ範圍外トシテ御取扱相成度

●有害性著色料取締ニ關スル件

(大正十四年七月八日衛生局長ヨリ各地方長官ヘ通牒)

【照】(大正十四年六月八日衛第四八三一號廣島縣知事ヨリ衛生局長ヘ)

縣内ニ於テ「アイスクリーム」ニ黄色著色料トシテ「アウラミン」ヲ使用セルモノ有之候處該品ハ明治三十五年四月内務省令第十七號有害性著色料取締規則第一條ニ規定セラレタルモノニ無之候從ツテ飲食物

ニ使用スルモ差支ナキモノト存候得共大正十四年三月衛生試験所彙報瀨川林次郎氏報告ニ依リ「アウラミン」ハ衛生上有害ナリト記載有之取締上聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也
【答】(大正十四年七月八日衛生局長ヨリ)
標記ノ件ニ關シ本年六月八日附衛第四八三一號ヲ以テ御照會ノ趣了承右「アウラミン」ハ有害性著色料取締規則ニ抵觸セサルモノニ有之候條當分ノ間從前通り御取扱相成度

第七節 試驗檢定

●牛乳營業取締規則第二條牛乳ノ比重及脂肪量ノ

檢定方法

(明治三十三年五月二十一日內務省令第二〇號、明治四十三年五月同省令第一八號改正)

一、比重
攝氏十五度ニ於テクウエンス・ミユルレル氏ノ乳稠計ヲ用ヒ計測ス若シ他ノ温度ニ於ケルトキハ矯正表ニ依リ攝氏十五度ニ於ケル比重ニ換算ス
一、脂肪
硫酸(攝氏十五度ニ於テ比重一・八二〇乃至一・八二五ニシテ九十乃至九十一「プロセント」ヲモノ)十立方「センチメートル」ヲ「ビベット」ヲ用ヒテ「ゲルベル氏」「ブチロメートル」ニ注入シ次ニ注意シテ純「アミールアルコホル」攝氏十五度ニ於テ約比重〇・八一五ニシテ沸騰點百二十八乃至百三十度ノモノ

一立方「センチメートル」ヲ層積シ(前兩試驗ハ測取前ニ約十五度トナスヘシ)然ル後攝氏十五度ノ牛乳十一立方「センチメートル」ヲ「ビベット」ヲ用ヒテ「ブチロメートル」ノ腹部ニ按シ徐々ニ流下セシメテ「アルコホル」上ニ層積シ龜裂ナキ乾燥ゴム栓ヲ以テ善ク栓塞シ指ヲ以テ栓ヲ壓シツ、急ニ振盪シ牛乳ノ溶解シタル後史ニ數回彼方此方ヘ動カシ十五分時間六十乃至七十度ノ温湯中ニ挿入シ次ニ二乃至三分時間遠心力器(一分時間回轉數七百回轉以上ノモノ)ニ掛ケ更ニ六十乃至七十度ノ温湯中ニ數分時間挿入シ茲ニ析出セル脂肪層ノ度數ヲ讀取スヘシ而シテ其ノ度數二十分ノ一ヲ乘スルトキハ直ニ牛乳百分中ノ脂肪量ヲ得ヘシ

●飲食物及布片中砒素及錫ノ試驗方法

(明治三十四年十月十二日內務省令第三〇號)

清涼飲料水營業取締規則有害性著色料取締規則飲食物及布片中砒素及錫ノ試驗方法左ノ通定ム
一、飲食物中砒素及錫ノ定性分析法

甲、固體

著色部分二十「グラム」ヲ取り試驗ニ供スヘシ若シ其ノ量ヲ得難キトキハ少量ヲ使用スルコトヲ得檢體ヲ細剉若ハ粉碎シ瓷皿ニ容レ之ニ純鹽酸(比重一・一〇乃至一・一三)ヲ三倍量ノ蒸餾水ヲ以テ稀釋シタルモノ百立方「センチメートル」ヲ注加シ次ニ格魯兒酸加留膜約〇・五「グラム」ヲ投加シ重湯煎上ニ致シ其ノ内容ノ温度重湯煎ノ温度ニ達スルヲ窺ヒ五分時間毎ニ格魯兒酸加留膜〇・一乃至〇・二「グラム」ヲ投加シ蒸餾スル水分ハ斷エス之ニ補ヒ其ノ内容鮮黃色ニシテ且均同稀薄トナルニ至ラハ尙

約〇・五グラム」ノ格魯兒酸加留膜ヲ投加シ加温シ格魯兒臭ノ消失スルニ至リ冷却シ濾過シ濾紙上ノ
 残渣ハ温湯ヲ以テ能ク洗滌シ濾液及洗滌液ヲ最初用ヒタル純鹽酸量ノ少クモ六倍トシ之ヲ攝氏六十度
 乃至八十度ニ温メツ、三時間徐々ニ純硫化水素瓦斯ヲ通シ飽和セシメ然ル後濾紙ヲ以テ覆ヒ少クモ十
 二時間温處ニ放置シ茲ニ沈澱ヲ生セハ濾過シ硫化水素含有ノ水ヲ以テ能ク洗滌シ尚濕潤ナルニ乘シ黃
 色硫化安母紐膜（黄色硫化安母紐膜四立方「センチメートル」比重〇・九六）安母尼亞水二立方「センチ
 メートル」及水十五立方「センチメートル」ヨリ成レル混和液）ヲ以テ溶解セシメ残渣ハ硫化安母紐膜
 含有ノ水ヲ以テ洗滌シ其ノ濾液及洗滌液ハ微温ニテ蒸發乾燥シ之ニ約三立方「センチメートル」ヲ發煙
 硝酸ヲ加ヘ微温ニテ蒸發シ黄色ノ残渣ヲ得ルニ至リ（残渣尚暗色ナレハ發煙硝酸ヲ加ヘテ温ムルノ法
 ヲ反復スヘシ）其ノ残渣ノ濕潤ナルニ乘シ之ニ少量ノ炭酸那留膜末ヲ加ヘテ亞爾加里性トナシ之ニ
 三分ノ炭酸那留膜及一分ノ硝酸那留膜ヨリ成レル混和物ニ「グラム」ヲ加ヘ更ニ少量ノ水ヲ混シ均
 同泥狀トナシ乾燥シ注意シテ熱シ熔融セシメ無色トナルニ至リ（熔塊無色ナラサルトキハ尚少量ノ硝
 酸那留膜ヲ加フヘシ）熔塊ハ冷後温湯ヲ以テ溶解シ濾過シ始メハ冷水次ニ水及酒精各等分ヨリ成レ
 ル混和液ヲ以テ洗滌スヘシ錫アレハ濾紙上ノ残渣中ニ存在シ砒素アレハ濾液中ニ存在ス
 濾液及洗滌液ハ蒸發シテ約十五立方「センチメートル」トナシタル後稀硝酸ヲ滴加シテ酸性トシ（茲ニ
 水酸化錫ヨリ成レル沈澱ヲ生セハ前ノ如ク濾過洗滌スヘシ）温メテ炭酸及亞硝酸ヲ去リ（必要アレハ
 濾過スヘシ）然ル後少量ノ安母尼亞水ヲ加ヘ（必要アレハ濾過スヘシ）次ニ少量ノ酒精及麻痺混失亞
 合劑ヲ加フヘシ砒素存在スレハ直ニ（若ハ冷所ニ放置シタル後）白色結晶性ノ沈澱ヲ析出ス此ノ沈澱
 ヲ濾過シ安母尼亞水一分水一分及酒精一分ヨリ成レル混和液少量ヲ以テ洗滌シタル後成ル可ク少量ノ
 稀硝酸ニ溶解シ其ノ溶液ヲ蒸發シ少量トナシ其ノ一滴ヲ小瓷皿ニ取り硝酸銀溶液一滴ヲ加ヘ瓷皿ノ邊
 緣ヨリ安母尼亞水（比重〇・九六）一滴ヲ注意シテ添加スヘシ然ルトキハ其ノ接界ニ赤褐色ノ帶ヲ生ス

前上炭酸那留膜ト硝酸那留膜トノ熔塊ノ水ニ溶解セサル残渣ハ濾紙ト共ニ乾燥シ磁製坩堝内ニ於
 テ灰化シ之ニ少量ノ藏化加留膜ヲ加ヘ熱シテ熔融シ且紅熾シ始ムルニ至ラシムヘシ冷後坩堝ノ内容ニ
 水ヲ加ヘテ軟化シ水ヲ用ヒテ瓷皿内ニ移スヘシ錫存在スレハ金屬トナリ沈著スルヲ以テ能ク洗滌シ乾
 燥シタル後之ニ少量ノ鹽酸ヲ加ヘテ温メ其ノ溶液ニ就キテ昇汞又ハ格魯兒金若ハ硫化水素ヲ以テ錫ヲ
 檢査スヘシ

乙、液體

液中ニ含有スル固形物質質量約二十「グラム」ニ應スル量ヲ取り試験ニ供スヘシ
 稀釋ノ液體ニシテ酸性ナラサルモノハ直チニ蒸發シ酸性ノモノハ蒸餾シテ少量トナシ其ノ残渣ハ固
 體ノ試験ニ於ケル如ク格魯兒酸加留膜及鹽酸ヲ以テ處理スヘシ其ノ餾液ハ鹽酸ニテ酸性トナシ純硫化
 水素瓦斯ヲ通シ若シ沈澱ヲ生セハ前ノ残渣ヨリ得ヘキ硫化水素沈澱ト合スヘシ

二、布片中砒素ノ定量分析法

檢體三十「グラム」ヲ取り其ノ面積ヲ計測シタル後之ヲ細截シ内容約四百立方「センチメートル」ノ有口「
 レトルト」ニ投加シ之ニ純鹽酸（比重一・一八乃至一・一九）百立方「センチメートル」ヲ注加シ其ノ「レト
 ルト」ノ斜ニ上向セル頸部ト鈍角ヲナシテ冷却器ヲ結合シ受器ハ内容約五百立方「センチメートル」ノ
 モノヲ撰ミ之ニ蒸餾水 百立方「センチメートル」ヲ充タシ此ノ受器ヲ冷却シ氣密ニ冷却器ト連結スヘシ
 斯クシテ鹽酸注加後約一時間ヲ經過セハ之ニ砒素ヲ含有セサル格魯兒鐵冷飽和溶液五立方「センチメ
 ートル」ヲ注加シ蒸餾スヘシ「レトルト」内ノ液體殆ント餾出シ終ルニ及テ之ヲ冷却セシメ更ニ五十立方
 「センチメートル」ノ純鹽酸ヲ加ヘ再ヒ蒸餾スルコト前ノ如シ茲ニ得タル餾液ハ通常褐色ヲ呈ス此ノ液ニ
 水ヲ加ヘテ六百乃至七百立方「センチメートル」トナシ攝氏六十度乃至八十度ニ温メツ、三時間徐々ニ純
 硫化水素瓦斯ヲ通シテ飽和セシメ濾紙ヲ以テ覆ヒ少クモ十二時間温處ニ放置シ茲ニ生シタル沈澱ヲ濾過

シ硫化水素含有ノ水ヲ以テ能ク洗滌シ其ノ沈澱尙濕潤ナルニ乗シ黄色硫化安母紐膜(黄色硫化安母紐膜四立方)センチメートル比重〇・九六ノ安母尼亞水二立方、センチメートル及水十五立方、センチメートルヨリ成レル混和液)ヲ以テ溶解セシメ残渣ハ硫化安母紐膜含有ノ水ヲ以テ洗滌シ其ノ濾液及洗滌液ハ磁製坩堝ニ容レ微温ニテ蒸發乾燥シ之ニ約三立方、センチメートルノ發煙硝酸ヲ加ヘ時計硝子ヲ以テ覆ヒ微温ニテ蒸發シ(殘渣尙暗色ナレハ發煙硝酸ヲ加ヘテ温ムルノ法ヲ反復スヘシ)其ノ残渣尙濕潤ナルニ乗シ之ニ少量ノ炭酸那篤留膜末ヲ加ヘテ亞爾加里性トナシ之ニ三分ノ炭酸那篤留膜及一分ノ硝酸那篤留膜ヨリ成レル混和物ニグラム加ヘ更ニ少量ノ水ヲ混シ均同泥狀トナシ重湯煎上ニ於テ乾燥シ注意シテ熱シ熔融セシメ無色トナルニ至リ(熔塊無色ナラサルトキハ尙少量ノ硝酸那篤留膜ヲ加フヘシ)熔塊ハ冷後温湯ヲ以テ溶解シ濾過シ初メ冷水次ニ水及酒精各等分ヨリ成レル混和液ヲ以テ洗滌シ濾液及洗滌液ハ蒸發シテ約一五立方、センチメートルトナシタル後稀硝酸ヲ滴加シ酸性トナシ(茲ニ沈澱ヲ生セハ濾過洗滌スヘシ)温メテ炭酸及亞硝酸ヲ去リ(必要アレハ濾過スヘシ)然ル後過量ノ安母尼亞水ヲ加ヘ必要アレハ濾過スヘシ)次ニ少量ノ酒精及麻屈涅失亞合劑ヲ加ヘ砒酸安母紐膜麻屈涅失亞トナシ常法ニ從ヒ定量シ布片百平方、センチメートルニ付砒素ノ含有量ヲ算出スヘシ

●清酒中「サリチール」酸ノ試験方法

(明治三十六年九月二十八日内務省令第一一號)

清酒二立方、センチメートルニ蒸餾水ヲ加シテ百立方、センチメートルトナシ其ノ五立方、センチメートルヲ内容約五十立方、センチメートルノ分液漏斗ニ取り之ニ稀硫酸(十「プロセント」)三滴及揮發石

油(攝氏六十乃至百二十度ニ於テ蒸餾スルモノ)十五立方、センチメートルヲ注加シ五分間強ノ振盪シテ靜置シト層ノ水溶液ヲ除去シ殘留シタル揮發石油ヲ蒸餾水十立方、センチメートルト共ニ強ク振盪シテ靜置シ茲ニ分離析出スル下層ノ水溶液ヲ内徑約一・五センチメートルノ無色試験管ニ取り之ニ過「クロール」鐵液(約一「プロセント」)一滴ヲ和シ直ニ白紙上ニ於テ上面ヨリ透視スルニ呈色スヘカラス

●有害性著色料取締規則第二條野菜果實類ノ貯藏品及昆布中銅ノ試験方法

(大正二年七月二十七日内務省令第一三號)

明治三十七年十一月内務省令第十五號有害性著色料取締規則第二條野菜果實類ノ貯藏品及昆布中銅ノ試験方法ヲ左ノ通改正ス
 檢體「五グラム」ヲ磁製坩堝ニ取り(昆布ニ在リテハ百度ノ温ニ於テ)恒量ヲ得ルニ至ルマテ乾燥シ先ツ水分ヲ定量シタル後熱灼シテ炭化セシメ冷後硝子棒ヲ以テ搗碎シテ粉末トナシ稀硝酸約五立方、センチメートルヲ注加シテ温浸シ「エルレンマイエル硝子壘」ニ濾入シ濾紙上ノ殘留物ハ濾紙ト共ニ再ヒ前ノ磁製坩堝中ニ致シ乾燥シ熾灼シテ全ク灰化セシメ此ノ殘灰ニ稀硝酸約二立方、センチメートルヲ加ヘ温浸シ濾過シ洗滌シ前ノ濾液ニ合シ「アンモニア水」ヲ以テ中和シタル後鹽酸性トナシ之ニ硫化水素ヲ通シテ充分飽和セシメ壘口ヲ寬ク栓塞シ約三時間温所ニ放置シ全ク沈底セル硫化銅ヲ濾紙上ニ採取シ硫化水素水ヲ以テ善ク洗滌シタル後乾燥シ濾紙ト共ニ前ノ磁製坩堝内ニ於テ灰化シ殘灰ヲ數滴ノ硝酸ニ溶解シ重湯煎上ニ温メ「アムモニア水」ヲ注加シテ「アルカリ性」トナシ若シ必要アレハ濾過シ茲ニ得タル澄

明ノ液ヲ蒸發皿ニ移シ重湯煎上ニ蒸發シテ過剩ノ「アムモニア」ヲ驅逐シ中性反應ヲ呈スルニ至リ其ノ中性液ヲ二百立方「センチメートル」ヲ標線アル硝子壺ニ移シ硝酸「アンモニウム」溶液（硝酸アムモニウムヲ蒸餾水一「リートル」ニ溶解シ其ノ反應全ク中性ノモノ）二十立方「センチメートル」ヲ注加シ水ヲ以テ全容量二百立方「センチメートル」トナシ善ク混和シテ其ノ二十立方「センチメートル」ニ試験管數箇ニ標準銅ニ相當ス）ヲ内徑約一・五「センチメートル」ノ無色試験管ニ取り又別ニ前ト同一ノ試験管數箇ニ標準銅溶液（純結晶硫酸銅〇・三九二七「グラム」ヲ蒸餾水一「リートル」ニ溶解シタルモノ）ニシテ其ノ一立方「センチメートル」中〇・一「ミリグラム」ノ純銅ヲ含有ス）若干立方「センチメートル」ヲ取り之ニ硝酸アムモニウム溶液二立方「センチメートル」ヲ加ヘ水ヲ以テ全容量二十立方「センチメートル」トナシタル後各試験管ニ新製シタル黄色血滴鹽溶液（用ニ臨ミテ黄色血滴鹽一「グラム」ヲ蒸餾水一「リートル」ニ溶解シタルモノ）〇・五立方「センチメートル」ヲ加ヘ善ク混和シ十分時内ニ白紙上ニ於テ上面ヨリ透視シ比色定量法ヲ行フヘシ但昆布ニ在リテハ其ノ無水物一キログラム中ノ銅量（ミリグラム）ニ改算スヘシ

●昭和三年六月内務省令第二十三號ニ依ル飲食物

中亞硫酸試驗法並天然果實汁及天然果實蜜類中安息香酸試驗法

（昭和三年六月十五日内務省令第二四號）

一、飲食物中亞硫酸試驗法
内容七百五十立方「センチメートル」ノ圓底硝子壺ヲ取り之ニ二孔ヲ有スル栓ヲ施シ其一孔ニハ殆ント壺

底ニ達スル硝子管（甲）他ノ一孔ニハ壺頸ニ終ル硝子管（乙）ヲ挿入シ乙管ヲ「リービヒ」冷却器ニ連結シ冷却器ニハ有孔栓及接續管（下端ノ内徑約五「ミリメートル」ヲ有スルモノ）ニヨリ球附「U」字管（兩側ノ球約二百立方「センチメートル」ノ底部ノ球約五十立方「センチメートル」ノ内容ヲ有スル「ベリゴ」管）ヲ附シ甲管ヨリ炭酸瓦斯（過「マンガ」酸「カリウム」溶液ヲ以テ洗滌セルモノ）ヲ通シテ装置内ノ空氣ヲ全ク驅除シタル後「ベリゴ」管ニ澱粉糊液五十立方「センチメートル」ヲ容レ「ヨードカリウム」一「グラム」ヲ添加シ「ピウレット」ヨリ五十分定規「ヨード」液一乃至二滴ヲ加ヘタル後炭酸瓦斯ヲ通シツ、硝子壺ヲ攪力ニ開栓シ檢體二十五「グラム」（固形ノ檢體ニ在リテハ細割セルモノ）ヲ容レ一日煮沸シタル水百八十立方「センチメートル」ヲ以テ之ヲ洗入シ「シンニン」酸〇・二「グラム」及廿五「プロセント」ノ「磷酸廿五立方」セ「ンチメートル」ヲ加ヘ再ヒ栓ヲ施シ絶エス炭酸瓦斯ヲ通シツ、十五分時間經過シタル後注意シテ加熱シ一分時間乃至五十滴ノ溜出速度ニ於テ蒸餾シ「ベリゴ」管中ノ溶液脱色セントスルトキハ更ニ「ピウレット」ヨリ「ヨード」液ヲ滴加シツ、絶エス淡藍色又ハ淡紫藍色ヲ呈セシメ蒸餾液溜出シ始メテヨリ正確ニ一時間蒸餾スルニ茲ニ消費シタル五十分定規「ヨード」液（「ヨード」液一滴ニヨル「ヨード」澱粉ノ藍色乃至藍紫色一分時間以上持續スルヲ要ス）ハ乾杏果ニ在リテハ三九・一立方「センチメートル」「ゼラチン」ニ在リテハ一・九・五立方「センチメートル」糖蜜ニ在リテハ一・七立方「センチメートル」葡萄酒ニ在リテハ七・八立方「センチメートル」其ノ他ノ飲食物ニ在リテハ一・二立方「センチメートル」ヲ過クヘカラス（五十分定規「ヨード」液一立方「センチメートル」ハ無水亞硫酸〇・六四「ミリグラム」ニ相當ス）乾果類ニ在リテハ其細割セルモノ二五「グラム」ヲ乳鉢内ニ取り六「プロセント」ノ「ナトロン」滴液三十立方「センチメートル」ヲ加ヘ良ク研和シ糜粥狀トナシ三十分時間放置シタル後之レヲ蒸餾壺ニ容レ試験スヘシ

澱粉糊液製法 馬鈴薯澱粉〇・二「グラム」ヲ少量ノ水中ニ混攪シ之レヲ沸湯二百立方「センチメートル」

中ニ注加シ攪拌シツ、一乃至二分時間加熱シタル後茲ニ得タル糊液ヲ乾燥濾紙ヲ用ヒ温ニ乗シテ濾過シ冷後之レヲ使用スヘシ本液ハ用ニ臨ミテ製スヘシ

二、天然果實蜜類中安息香酸試驗法

檢體百「グラム」ヲ内容二百立方「センチメートル」ノ刻度硝子壺ニ取り飽和食鹽溶液ヲ加ヘテ約百五十立方「センチメートル」トナシ次ニ食鹽ノ粉末ヲ加ヘテ溶解セシメ飽和スルニ至リ十「プロセント」ノ「ナトロン」滴液ヲ以テ「アルカリ」性トナシ飽和食鹽溶液ヲ加ヘテ全量ヲ二百立方「センチメートル」トナシ時々振盪シツ、二時間以上放置シ上液澄明トナルニ至リ乾燥濾紙ヲ用ヒテ之ヲ濾過シ濾液百立方「センチメートル」(液體五十「グラム」ニ相當ス)ヲ圓筒形分液漏斗ニ容レ稀鹽酸「X」ヲ以テ中和シ更ニ同鹽酸五立方「センチメートル」ヲ追加シ注意シテ四回各「エーテル」及石油「エーテル」(沸騰點六十度以下ノモノ)同容量混液五十立方「センチメートル」ヲ以テ振盪シ「エーテル」振盪液ヲ合シ三回各水五立方「センチメートル」ヲ以テ振盪洗滌シタル後無水硫酸「ナトリウム」適量ヲ加ヘ時々振盪シツ、卅分時間乾燥シ次ニ乾燥濾紙ヲ用ヒテ之ヲ小「エルレンマイエル」硝子壺ニ濾入シ少量ノ無水「エーテル」ヲ以テ分液漏斗及漏紙ヲヨク洗滌シ重湯煎上ニテ六十度以下ノ温度ニ於テ蒸餾シ殘留液五立方「センチメートル」トナルニ至リ之ヲ重湯煎上ヨリ去リ乾燥空氣ヲ通シテ「エーテル」分ヲ揮散セシメ殘留物ヲ再ヒ少量ノ無水「エーテル」ニ溶解シ之ヲ内徑一・五乃至一・八「センチメートル」高サ一五乃至一六「センチメートル」ノ試験管ニ移シ少量ノ無水「エーテル」ヲ以テ硝子壺ヨク洗滌シ「クロールカルチウム」管ヲ通過セシメタル空氣ヲ通シツ、三十度以下ノ温ニ於テ徐々ニ蒸發乾燥セシメ次ニ直徑三・五「センチメートル」高サ七「センチメートル」ヲ有スル秤量壺ニ流動「バラフィン」ヲ四「センチメートル」ノ高サマテ滿タシ二孔ヲ有スル石綿板ヲ以テ覆蓋シ其一孔ニ寒暖計他ノ一孔ニ前上ノ試験管ヲ挿入シ其下端ヨリ約四「センチメートル」ノ處マテ「バラフィン」中ニ没入セシメ百八十乃至百九十度ニ於テ約一時間熱シタ後注意シテ昇華物ノ附

着セル處ヨリ約一「センチメートル」ノ下方ニ鑿傷ヲ附シ熾灼シタル硝子棒ヲ以テ試験管ヲ切斷シ硫酸除濕器内ニ容レ一時間乾燥ノ後昇華物ヲ少量ノ「アルコホル」(フエノールフタレインニ對シ中性ナルヲ要ス)ニ溶解シ試験管ヨク洗滌シ「フエノールフタレイン」ヲ標示藥トナシ二十分定規「ナトロン」液ヲ以テ測定スルニ該液ヲ費スコト四・九立方「センチメートル」ヲ過クヘカラス(二十分定規「ナトロン」液一立方センチメートルハ安息香酸六・一〇四「ミリグラム」ニ相當ス)

第七章 危險物及酒料

第一節 危險物

● 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法

(大正十一年四月十一日法律第三一號)

- 第一條** 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造、貯藏又ハ販賣ノ業ヲ爲サムトスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條** 行政官廳ハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造、貯藏又ハ販賣ノ業ヲ爲ス者カ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ又ハ安寧秩序ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ停止シ若ハ制限スルコトヲ得
- 第三條** 行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ壓縮瓦斯液化瓦斯若ハ其ノ容器ノ製造所、貯藏所其ノ他之ヲ收藏スルノ疑アル場所ニ臨檢シ又ハ壓縮瓦斯、液化瓦斯及其ノ容器竝ニ之ヲ收藏スルノ疑アル物件若ハ事業上ノ帳簿其ノ他ノ書類ヲ檢査セシムルコトヲ得
- 行政官廳ハ試驗ノ用ニ供スル爲必要ナル數量ニ限り當該官吏ヲシテ壓縮瓦斯、液化瓦斯又ハ其ノ容器ヲ無償ニテ收去セシムルコトヲ得

第四條 行政官廳ハ保安上必要アリト認ムルトキハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ授受、運搬又ハ携帶ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

行政官廳ハ危害豫防又ハ衛生ノ爲壓縮瓦斯、液化瓦斯ノ製造所、貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命シ又ハ壓縮瓦斯、液化瓦斯若ハ其ノ容器ニ關シ若ハ其ノ貯藏、運搬其ノ他ノ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第五條 左ノ事項ニ關スル必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

- 一、本法ヲ適用セサル壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ範圍

第六條 第一條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ第二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 第四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 第三條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第三條若ハ第四條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者又ハ其ノ執行ニ際シ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 壓縮瓦斯、液化瓦斯又ハ其ノ容器ノ製造、貯藏、販賣又ハ運搬ノ業ヲ爲ス者、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限リニ在ラス

第十條 壓縮瓦斯、液化瓦斯又ハ其ノ容器ノ製造、貯藏、販賣又ハ運搬ノ業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶

主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス

第十一條 前二條ノ場合ニ於テハ罰金、科料又ハ沒收以外ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(參照) 明治三十三年法律第五十二號ハ法人ニ於テ租税ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル件ナリ

●壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令 (抄録)

(大正十二年四月十二日內務省令第一二號)

- 第一條 一日ニ付三立方メートル以上(溫度攝氏零度、氣壓七百六十ミリメートルノ狀)ノ瓦斯ヲ壓縮又ハ液化スル業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ製造所々轄廳府縣長官(警視總監以下做之)ニ申請スヘシ
- 一、住所、氏名、年齢、職業(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所)
 - 二、製造ノ目的、製品ノ種類及名稱、代表者ノ住所、氏名(以下做之)
 - 三、製造所ノ位置、設備及其ノ附近ノ狀況
 - 四、壓縮機ノ種類、型式、能力及箇數
 - 五、計壓器ノ型式、目盛及箇數

- 六、瓦斯メートルノ型式及箇數
 - 七、耐壓試驗裝置ノ能力及箇數
 - 八、製品ノ貯藏方法
 - 九、容器ノ調達及貯藏方法
 - 十、原料ノ種類、貯藏方法及貯藏數量ノ最大限
 - 十一、作業主任者ノ氏名、履歷
 - 十二、職工其ノ他ノ勞務者ノ最大員數及其ノ取締ニ關スル規定
- 第二條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ販賣ノ業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ販賣所々轄廳府縣長官ニ申請スヘシ
- 一、住所、氏名、年齢、職業
 - 二、販賣スヘキ瓦斯ノ種類及名稱
 - 三、販賣所及貯藏所ノ位置、設備及其ノ附近ノ狀況
 - 四、貯藏所ニ貯藏スヘキ瓦斯ノ種類及名稱其ノ數量ノ最大限及貯藏方法
- 第七條 一日ニ付三立方メートル以上ノ瓦斯ヲ壓縮又ハ液化スル製造所ニハ作業主任者トシテ化學主任者免狀ヲ有スル者及壓縮機取扱主任者免狀ヲ有スル者ヲ置クコトヲ要ス
- 第八條 化學主任者免狀又ハ壓縮機取扱主任者免狀ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ就キ本人ノ申請ニ依リ廳府縣長官銓衡ノ上之ヲ交付ス
- 化學主任者免狀
- 一、高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ノ卒業者ニシテ在學中化學ニ關スル學科ヲ修得シ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ作業ニ經驗アル者

二、化學ニ關スル智識ヲ有シ二年以上壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ作業ニ従事シタル者
 三、本令公布ノ際現ニ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ作業ニ従事スル者ニシテ相當ノ技能ヲ有シ引續キ之ニ従事スル者

壓縮機取扱主任者免狀

- 一、工業學校(尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年若ハ高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル修業年限三年ノモノ)又ハ之ト同等以上ノ學校ノ卒業者ニシテ在學中機械ニ關スル學科ヲ修得シ壓縮機取扱ニ經驗アル者
- 二、機械ニ關スル智識ヲ有シ二年以上壓縮機取扱ニ従事シタルモノ
- 三、本會公布ノ際現ニ壓縮機取扱ニ従事スル者ニシテ相當ノ技能ヲ有シ引續キ之ニ従事スル者

● 危險物品取締規則

(大正十四年八月十三日大阪府令第八八號)

- 第一條 危險物品ノ貯藏、詰換、運搬其ノ他ノ取扱ニ關シテハ他ノ法令ニ別段ノ定アルモノ、外本則ノ規定ニ依ルヘシ
- 第二條 危險物品ヲ收容スヘキ容器ハ小分瓶詰ヲ除クノ外別表ニ定ムルモノニ依ルヘシ
- 第三條 本則ニ於テ貯藏庫ト稱スルハ別表ニ定ムル數量ノ十倍以上ノ危險物品ヲ貯藏スル倉庫ヲ謂フ
- 第四條 本則ニ於テ貯藏槽ト稱スルハ別表ニ定ムル數量ノ十倍以上ノ危險物品ヲ貯藏スル槽ヲ謂ヒ石油槽ヲ謂フ

地下槽ト稱スルハ別表ニ定ムル數量以上其ノ二十倍未滿ノ第一種石油ヲ貯藏スル地下槽(以下單ニ地下槽ト謂フ)ヲ謂フ

槽船槽車ニ付テハ貯藏槽ニ關スル規定ヲ適用ス

第五條 本則ニ於テ貯藏場ト稱スルハ別表ニ定ムル數量以上其ノ十倍未滿ノ危險物品ヲ貯藏スル建物又ハ槽ヲ謂フ

第六條 本則ニ於テ詰換所ト稱スルハ危險物品ノ詰換其ノ他ノ取扱ヲ爲ス場所ヲ謂フ
 但シ其數量ニシテ一日間ニ別表ニ定ムル數量ノ十倍ヲ超ユルモノニ付テハ貯藏庫ニ關スル規定ヲ適用ス

第七條 別表ニ定ムル數量以上ノ危險物品ハ知事ノ許可ヲ受ケタル地下槽、貯藏槽、貯藏庫又ハ警察官署長ノ許可ヲ受ケタル置場ニ非サレハ之ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第八條 第四級危險物品ニ付テハ第二種石油貯藏槽ヲ除クノ外貯藏槽、貯藏庫ニ關スル規定ヲ適用セス

第九條 貯藏槽、貯藏庫ヲ設置セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更シ若ハ建築物ノ増築、改築、修繕ヲ爲サムトスルトキ亦同シ但シ關係ナキ部分ノ書面圖面ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一、住所氏名、職業、生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱事務所所在地代表者ノ住所氏名生年月日以下倣之)

二、位置、敷地及建築面積、構造設備並附屬建築物ノ概要

三、貯藏品名及其ノ最大限度ノ貯藏量並貯藏方法

四、勞務者及出入者ノ取締規定

五、建築物ノ仕様書

六、敷地周囲百メートル以内ノ地形見取圖、各建築物ノ配置圖並平面断面其ノ他ノ設計圖

七、消防設備

八、竣功期日

槽船槽車ノ新造又ハ變更ノ許可申請書ニハ詳細ナル構造仕様書及圖面ヲ添付スヘシ

貯藏槽、貯藏庫ノ工事竣功シタルトキハ其ノ検査ヲ請求シ検査證ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ検査ニシテ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトアルヘシ

工程ニ付特ニ指示シタルトキハ其ノ都度之ヲ届出テ検査ヲ受ケ承認ヲ得ルニ非サレハ爾後ノ工事ニ着手スルコトヲ得ス

貯藏槽、貯藏庫ヲ承繼セムトスルトキハ双方連署シ検査證ヲ添ヘテ知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ連署シ得サルカ若ハ検査證ヲ添フルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ明記スヘシ

貯藏槽、貯藏庫ヲ廢止シタルトキハ検査證ヲ添ヘ七日以内ニ知事ニ届出ツヘシ

第十條 地下槽、置場及詰換所ノ設置ニ付テハ前條第一項第四號ヲ除クノ外總テ之ヲ準用ス但シ地下槽ニ在リテハ知事ノ許可ヲ置場、詰換所ニ在リテハ所轄警察官署長ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 貯藏槽、貯藏庫ニハ取扱主任者トシテ其ノ免狀ヲ有スル者ヲ置クコトヲ要ス

前項ニ依リ取扱主任者ヲ置キタルトキハ其ノ住所、年齢及免狀ノ寫ヲ添ヘ知事ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十二條 取扱主任者免狀ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ニ就キ本人ノ申請ニ依リ知事ニ於テ詮衡ノ上之ヲ交付ス

一、中等程度以上ノ工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ヲ卒業シ在學中化學ニ關スル學科ヲ修得シ危險物品ノ取扱ニ經驗ヲ有スル者

二、藥劑師ノ登錄又ハ製藥業者藥種商ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ危險物品ノ取扱ニ經驗ヲ有スル者

三、危險物品ニ關スル知識及經驗ヲ有シ資格試験ニ合格シタル者

第十三條 知事ハ保安上必要アリト認ムルトキハ取扱主任者ノ變更又ハ其ノ免狀ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 取扱主任者ハ危險物品ノ出入、詰換其ノ他取扱ニ立會スヘシ

第十五條 危險物品貯藏者及取扱主任者ハ常に危害豫防ニ注意シ崩壞、破損又ハ作業上危險ノ事故ヲ生シタルトキ若ハ其ノ處アルトキハ直ニ必要ナル措置ヲ爲シ且其ノ旨速ニ最寄警察官吏又ハ消防官吏ニ届出ツヘシ

第十六條 貯藏槽、貯藏庫ノ位置、構造設備ハ左記制限ニ從フヘシ

一、敷地境界線ヨリ左ノ距離ヲ保有スルコト

(イ)御陵、御墓ハ三百五十メートル以上

(ロ)公園、社寺、學校、兵營、病院、寄宿舎、劇場、鐵道停車場、停留場等多衆ヲ收容スヘキ建築物ヘ五十メートル以上

(ハ)工場、危險物品及其ノ他ノ可燃性物品ヲ蓄積スル場所並火氣ヲ使用スル場所ヘ二十メートル以上

(ニ)人家其ノ他ノ建築物及鐵道軌道ヘ十メートル以上

二、同一敷地ニ於テハ貯藏槽貯藏庫ノ外側ヨリ左ノ距離ヲ保有スルコト

(イ)別表ニ定ムル數量ノ十倍以上五十倍未満ノ危險物品ヲ貯藏スルモノニ在リテハ敷地境界線ヘ五

第七章 危險物及酒料

五六一

メートル以上

(ロ)同上五十倍以上二百五十倍未満ノモノニ在リテハ十メートル以上

(ハ)同上二百五十倍以上千二百五十倍未満ノモノニ在リテハ十五メートル以上

(ニ)同上千二百五十倍以上ノモノニ在リテハ二十メートル以上

(ホ)貯蔵庫、相互間ニ十メートル以上

(ヘ)其ノ他ノ建築物ヘ五メートル以上

三、敷地境界線ニハ不燃材料ヲ以テ高サ二・五メートル以上ノ障壁ヲ構設シ且見易キ場所ニ貯蔵槽、貯蔵庫ノ標示ヲ爲スコト、但シ第四號ノ土堤第五號ノ防火壁ヲ設クルトキハ本號ノ障壁ヲ省略スルコトヲ得

四、第一級危険物ノ貯蔵庫ニ在リテハ庫ノ外側ヨリ二乃至五メートルノ距離ニ於テ外壁ニ接近シテ頂部ノ厚サ九十センチメートル以上高サ貯蔵庫ノ棟高ト同一以上ノ土堤ヲ設ケ堤面ニハ芝草類ヲ植栽スルコト、但シ土堤ノ高サ其ノ三分ノ一ニ至ル迄ハ其ノ土留ヲ石積、煉瓦積又ハコンクリート造ト爲スコトヲ得

同一敷地内ニ於テ二以上ノ貯蔵庫相接スル場合ニ在リテハ各庫ノ土堤ハ相互ニ之ヲ共用スルコトヲ得

五、第一級以外ノ危険物品貯蔵槽又ハ貯蔵庫ニ於テ高サ槽ノ高サニ又ハ庫ノ棟高ト同一以上壁厚左ノ規定ニ依リ防火壁ヲ設クルトキハ本條ノ距離ヲ短縮スルコトヲ得

甲、石造庫煉瓦造ニ在リテハ

(イ)三十五センチメートル以上但シ高サ三・五メートル以上ノ場合ニハ其ノ部分ヨリ壁頂迄ノ垂直距離ノ十分ノ一以上ナルコト

(ロ)長サ三メートル未満毎ニ適當ナル控壁ヲ設クルコト、但シ壁厚(イ)ノ規定ノ一倍半ナルトキハ此ノ限りニ在ラス

(ハ)特殊ノ補強方法ヲ施シタル場合ニハ(イ)ノ書及(ロ)ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

乙、鐵筋コンクリート造ニ在リテハ二十センチメートル以上トシ各部適當ナル強サヲ有セシムルコト

六、貯蔵槽ハ鐵軸ヲ以テ氣密ニ構造シ且其ノ使用前水張試験ヲ行ヒ漏洩ノ有無ヲ検査シタルモノナルコト

七、貯蔵槽ノ基礎支柱等ハ不燃材料ヲ以テ構築スルコト

八、貯蔵槽ハ防錆塗料ヲ塗布シ密閉セルモノニ在リテハ加壓減壓ニ對スル安全裝置ヲ設クルコト

九、貯蔵槽ノ出入管、通氣管等ハ安全ニ接合シ脱離、切斷又ハ間隙ヨリノ油氣逸出ノ虞ナカラシメ通氣等ハ地上ニメートル以上ノ高サニ於テ下向ニ開口セシメ且布目金網ヲ張ルコト

十、貯蔵槽ニハ其ノ破損ニ際シ内容物カ一定地域外ニ流出セサル様地密其ノ他適當ナル設備ヲ爲スコト

十一、貯蔵ハ平屋建トシ其ノ建築面積ハ百平方メートル(約三十坪)以下トス但シ接觸シテ危険ヲ醸ス虞ナキモノヲ貯蔵スル場合ニ在リテハ百平方メートル以下毎ニ壁厚第五號ノ規定ニ依ル高サ屋根裏ニ達スル不燃質ノ間壁ヲ設クル場合ハ五百平方メートル以内ノモノヲ建築スルコトヲ得

十二、前號ノ間壁ハ貯蔵槽ノ壁體カ耐火構造ニ非サルトキハ屋上二分ノ一メートル以上突出セシムルコト

十三、貯蔵槽ハ其ノ壁體、床、柱等主要構造部ヲ耐火構造トシ屋根ハ内部ヨリノ壓力ニ對シ抵抗性少ナキ小形輕量ノ不燃材料ヲ以テ構成スルコト

十四、壁體ノ内面及床ニハ摩擦發火ノ虞アル材料ヲ露出セシメス且雨水、地下水等ノ浸入防遏設備ヲ